
バカとテストと召喚獣～科学者は転生者で異能力者！？～

フォーター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣〜科学者は転生者で異能力者!?!〜

【Nコード】

N6428L

【作者名】

フオーター

【あらすじ】

主人公、高瀬^{たかせ} 誠^{まこと}17歳は、男なのだけけど、とてつもない女顔。さらに、上に姉が6人、下の妹が4人さらに双子の姉妹という異常な女系家族に生まれたもんだから、姉たちの影響で性格まで女に。そんな彼は高校生でありながら世界初の新発見をするんじゃないかといわれるような、天才科学者だったのだが実験中の事故?（主に外的要因）で死んでしまって……天才科学者がバカテストの世界に転生して、明久たちとトンでも生活をエンジョイする物語です。

プロローグ 実験と失敗となぜか転生（前書き）

すいません。ついほかの話に手を出してしまいました。精霊は僕と彼女をつないだ運命の糸を読んで下さっているみなさん。楽しみにしてもらっている人が居るかどうかは分かりませんが、最近バカテスを読んで、はまってしまいました。で、話を考えようとすると、バカテスの話ばかり浮かんできて、精霊のほうの話の執筆が出来なくなってしまうました。という訳があります、向こうの話も思い浮かび次第更新しますが、しばらくこっちが主になると思います。本当にすいません。

プロローグ 実験と失敗となぜか転生

あれ？ここどこだろう。確か研究室で実験してて……..
…….. そうだ！妹がいきなり部屋に入ってきて薬品の棚にぶ
つかっちゃって……..その後爆発しちゃって……..
じゃあ、私たち死んじゃったのかなあ。ってことはここは天国？

『そうじゃのう。なんとなく思ったのじゃろうがあながち間違つと
らん所がすごいわい。』

そういいながら、白髪のおじいさんが出てきた。そういえば、こ
どこかの部屋なのかな。暖炉とかあるし。ってそれどころじゃな
い……!

「だれ！？っていつか、どうして心の中のことが分かるの!？」

『うん？わしか？わしは神じゃ。神にとって心の中を読むことぐ
らい造作も無いわ。』

「じゃあ読まないでください……!」

勝手に人の心読むなんて神様にプライバシーの概念って無いんだ
ろうか。

『おお、それもそうかの。これからは気をつけるとしよう。それ
にしても、神というところに驚きや突っ込みの反応をしなかったの
は君が初めてじゃ。』

「は、はあ、ところでその神様が私に何のようなんですか？」

『むう、聞いてはおったが男の癖に女言葉なんじゃのう』

今さらなんだ……..

『まあよいわ。それでの、おぬしさえよければ転生させてやろう
と想つものじゃ。』

「へ、なんで？」

『うむ、実はのう、今おる天界・・・ああ、ここは天界というのじゃが、ここと人間界をはさんだ反対側にある魔界の人間生活管理課がミスをしたようだな、おぬしを間違つて死なせてしまったよななんじゃよ。』

えつと・・・・・・魔界の人間生活管理課？
?????つていうかそれつて天界にもあるのかな。

『ちなみにこれに気がついたのは天界の人間界管理部でのう、魔界に問い合わせたら案の定ミスがあつたようだな、さっき、魔王が人間生活管理課の悪魔を全員クビにしたそうじゃ。』

つていうか、天界と魔界つて協力体制？普通敵対してるんじゃ・・・

『まあそれはいいとして、転生するかの？』

「ちよつと待つて！姉さんとか妹たちはどうなるの!？」

『それなら心配はいらん。先に転生しておるわ。』

そつか、姉さんたちはもう転生してるんだ。

「えつと、どこに転生するんですか？」

『ということは転生するのじゃな？』

「はい」

『そうか、おぬしには第二十五代最高神創造世界・・・じゃなかつた、おぬしが前居た世界で言う、バカテスの世界じゃ。』

バ、バカテス!？

『うむ、そうじゃ。そこで、おぬしは転生するときに特典をつけてやるうと思うのじゃが何がよい？』

え？特典?・・・~~~~~

「じゃあ、完全記憶能力と、どんなに難しいことでもすぐに答えが浮かんでくるような能力かな。」

『それだけでいいのか？』

「うん」

つていうかせつかく転生させてもらえるのに、あんまりいろいろ

頼んだら失礼でしょ？

『ほう、おぬしのように欲の少ない人間は珍しいのう。よし、わしがほかにも能力をつけてやるわい。なんになるかは転生してからのお楽しみじゃがの。』

「はい！」

なんだか、楽しくなりそう。

『おお、そうじゃいい忘れておったのじゃが、おぬしは女になつておるでの。』

「はい、転生させてもらえるだけで十分です。」

私がそういつた瞬間、横に扉ができた。

『その扉をくぐれば転生は完了じゃ。ちなみに7歳からやり直すことになっておるでの。』

「はい、いろいろありがとうございます。」

『ほんとうに、人間にしては珍しいほど礼儀正しいのう。』
そんな言葉を聴きながら私は扉の中に入っていった。

扉に入ったらすぐに光に包まれた。それから、すぐに光は消えて私は見たことの無い部屋に居た。すると扉が開いて

「あつ！お母さん！野里お姉ちゃんも来たよ！」

といつて、楊子が部屋に入ってきた。

「ほら！野里お姉ちゃん向こうにいこ！」

あれ？何か違和感が・・・私つてお姉ちゃんって呼ばれてたっけ？何か名前変わってるし。

『すまん、言い忘れとつたわい、おぬしの家族は前からおぬしが女だったと思わせておるでの。ぼろを出されてはかなわんからな。それから名前についてもじゃ。じゃあわしは忙しいからこれで。後のことは部屋にある手紙に書いてあるでの。』

・・・・・・そうですか。っていうか忘

れてたつて……神様としてどうなんだろう。

「ああ、野里も転生させてもらえたのね。」

恵以母さんが言う。ちなみにうちの家族は

恵以母さん

暎父さん

上から

日向姉さん、

日都美姉さん、

佐知代姉さん、

鈴乃姉さん、

香菜姉さん、

佳乃子姉さん、

私、

音李、

楊子、

奏子、

和音、

千沙登、

この14人。今時珍しすぎる大家族。

私現在7歳 うまくやっついていけるかなあ

練習問題 私とバカと転生特典

さて、唐突だけど、私は神様からの手紙を読んです。

『さてと、この手紙を読んでもおるといことは無事に転生後の生活を楽しんでおるようじゃな。まず、おぬしにつけられた能力を紹介するぞ。まず、希望通りに完全記憶能力と、答えを導き出せるアンサーカーじゃ。ここからはわしがつけた能力じゃ。まず、魔術じゃ。ファンタジーやRPGゲームなぞに出てくる魔法は一通り使えるぞい。次に超能力。これも、よく知られておるもんはほとんど一通り使える。まあ、未来予知はさすがに無理じゃがの。それから、ここからが大事なのが、おぬしはわしら神の万物創造を少し、グレードダウンした物質創造を使える。これは、命の無いものなら、いくらでも作り出せる。どんなものでものう。もつとも、金銭などは作れんようになったるからな。あとは、天才補正くらいじやろう。頭がよく回るようになったるでの。それじゃあ、そちらの生活をエンジョイするのじゃ。』

ちなみに転生からすでに10年たっている。なんと10年たつてから開封しろなんて書いてあった。え？時が過ぎるのがはやいって？別にいいじゃない。あとどうやら私のうちは大富豪設定だったみたいで、翔子の家とも繋がりがあって、わたしは雄二と翔子の二人と幼馴染になった。ちなみに明久とは小学校が同じで親しくなった。もちろん瑞希とも。で、まあここに書いてある能力を持つてるのはほとんど気がついてたわけで。神様に考えてるんだろ。……

……あれなんかまだ書いてあった。

『P・S 天界の扉を召喚できるようになったからの。ちよくちよく遊びに来ておくれ。あと、双子の妹のほうも同じ能力じゃから

らが吉井と同じタイミングで登校してくるなんて。」

校門につくなり西村先生が話しかけてきた。

「……おはようございます、西村先生（鉄人先生）」

「おい、吉井、俺の名前は西村だ、鉄人じゃない。それと高瀬姉妹、どうして遅れた。吉井も何か言うことがあるだろう。」

「あ、目覚まし時計が壊れてしまっていて、いつもなら起きれるんですけど春休みの癖もあって起きれなかったんです。姉さんたちは面白がって起こしてくれなかったし。」

「右に同じです」

「今日もいい筋肉ですね。西村先生」

「……明久、遅刻したことについては何もなしですかい。」

「そうか、大変だな高瀬姉妹も、それから吉井、遅刻したことより俺の筋肉のほうが大事か」

「あ、そつちでしたか。すみません。」

普通そつちしかないでしょうが……

「普通はそつちだけだろうが！……まあいい、ほれ、振り分け試験の結果だ。それから高瀬姉妹、お前らがテストで寝るようなポ力をするとは思わなかった。それも双子そろって。」

あ、先生には説明してませんでしたっけ。

「何かうちの家族の誰かが朝ごはんにランダムで眠り薬仕込んでみたいで。」

「……お前達の姉妹二人を見てると否定できん。というか、お前ら以外の家族が全員あんな性格なのか？さらに言えばなぜ双子揃ってそれに当たった？」

「いえ、父はまともです。たぶん、姉さんたちや妹たちは母さんの性格を受け継いだんだと思います。何でそろって当たったかは分かりません。」

ほんと、母さんに似てるんだもん。

「……よかつたな。あんな性格を受け継がん

あ、明久が落ち込んでる。まあ、大方私達にまで言われたからでしょうけど。元々、あんまり頭いいところ見せてないしね。テストでもいつも平均以下にしてたし。寝ることは振り分け試験まで無かったけど。

「嫌な所であつたな高瀬達。」

「確かにこんなところで気があつても嬉しくないですね、先生。」

「三人とももうやめて~~~~~」

明久が絶叫しちゃったしやめところかな。

キャラ設定（野里&音李）

高瀬 野里 17歳 Fクラス所属 高瀬コンツェルン総帥令嬢
明久と雄二の親友（悪友ではない）で世界一の大企業高瀬コンツェルン総帥の娘の一人。ちなみに総帥である父親に言わせれば野里と、双子の妹の音李は、うちの家族で唯一後を任せることが出来るとの事。今作の主人公。双子の妹音李がいる。（髪形以外で見分けられないほどうり二つ）ひざ辺りまである水色の髪を左側でサイドポニーテールにしている。（作者「恋姫の愛紗みたいな髪型」）

高瀬 音李 17歳 Fクラス所属 高瀬コンツェルン総帥令嬢
明久と雄二の親友（決して悪友ではない）で、世界一の大企業高瀬コンツェルン総帥の娘の一人。双子の姉野里がいる。ひざ辺りまである水色の髪を右側でサイドポニーテールにしている。

バカテスト 第一問 世界史

冷戦時、アメリカを中心とする国々で結成された軍事同盟をなんと言いますか。また、それに対抗していた国の中心になる国と、それを中心に作られた軍事同盟はなんと言おうでしょうか。

姫路瑞希の答え

「北大西洋条約機構（NATO） ソビエト社会主義共和国連邦
ワルシャワ条約機構」

教師のコメント

正解です。北大西洋条約機構についてはNATOでもよいです。ソ連については特に指定しなかったので正式名称でも略称でも問題ありません。というか、ソ連については共和国を忘れる人がたまにいたので出したのですが、姫路さんには関係ありませんでしたね。

吉井明久の答え

「北大西洋条約 ソビエト社会主義共和国 ワルシャワ条約機
構」

教師のコメント

ど、どうしたのですか？吉井君。あなたにしては惜しい回答が多いですよ？二つの軍事同盟は機構が足りないだけです、ソ連についても連邦が抜けているだけです。というかワルシャワ条約機構は機構を消してしまってるじゃないですか。……
・それにしても、明日は原爆でも降ってくるのでしょうか？あ、でも途中退席でしたっけ。

坂本雄二の答え

「ナトー ナチスソ連 プルタプ条約機構」

教師のコメント

．．．．．NATOはきちんとアルファベットで書きましょう。それにしても、ナチスソ連とは．．．．．プルタプ条約機構は響きが似ているかもしれないので、あなたなら間違えそうな気もしますがナチスソ連とは．．．．．響きがおかしいと思わなかったのでしょうか．．．．．

木下秀吉の答え

「北大西洋条約機構（NATO・西側陣営） ソビエト社会主義共和国連邦 ワルシャワ条約機構（東側陣営）」

教師のコメント

一部、書かなくても問題ないことがあるということはどうやら演劇の題材か何かにちょうどかぶったのでしょうね。

土屋康太の答え

「納豆 ソビエルト仕立て社員旅行用会員限定主義共同和親国間連合観賞邦画 わしや城条約機構」

教師のコメント

土屋君、あなたは職員室で西村先生の補習です。というか何気にソビエルト仕立て社員旅行用会員限定主義共同和親国間連合観賞邦画の中でソビエト社会主義共和国連邦が完成しているあたりがむかつかます。（《ソ》バ《ビ》ール《エト》仕立て《社》員旅行用《会》員限定《主義共》同《和》親《国》間《連》合観賞《邦》画）・まともな勘違いだったのは納豆と勘違いされたNATOですね。

高橋野里・音季の答え

「

」

教師のコメント

あなた達にしては珍しく空欄ですね。答えを分かっているか？と出
来ない、その上二人そろって出してくる珍回答が楽しみだったので
すが……

高橋楊子の答え

「北太平洋機構条約 連邦ソビエト共和国社会主義 ワルシャ
P P K」

教師のコメント

……野里さんの珍回答を見ると
感覚が麻痺してしまいます。……野里さんの珍回答を見て
つ下の学年のあなたが二年生の振り分け試験に参加しているんです
か？それにイラつきます。

高橋佳乃子の答え

「北大陸機構軍事条約 ソビン連邦会社主義共和国制度 ワルサ
I P P K」

教師のコメント

……やはり野里さん達もやるような珍回答なのにイラつきま
すね。……野里さん達の回答だからこそ笑えるのでしょうか。……
人となりの問題があるんですね。ってあなたの学年はひとつ上で
しょう？なぜ妹と一緒に他学年の試験に参加しているのですか？

第一問 歓喜と恐怖とFクラス

「・・・・・・・・・・・・・・・・なんなんだろう、この馬鹿でかい教室は」

明久がそんなことを言ってるまあ、分からなくもないけど。・・・
・あ、やっぱりAクラスの代表は翔子なんだ。追い抜かそうと思えば余裕で追い抜かせるけど。

「野里、遅れるよ。」

「あ、ごめん音季。」

音季に言われて教室へ向かう。・・・・・・・・・・・・・・・・明久はほっとこう。

「さつさと座れ・・・・・・・・の・・・・・・・・すんません。」

何か早速あやまれた。って

「雄二？何してるの？」

「ああ、先生が遅れてるから代わりに教壇に立ってみた。というか、お前らなんでここにいるんだ？本気出せばA・・・・・・・・いや、くらいは狙えただろう。」

ちなみに雄二は私が翔子より頭がいいのを知っている。けど、暴露すると音季がひどい報復をするから（主に魔術で）慌てて言い直したのだ。

「まあ、そうなんだけどね。二人して、眠り薬入りの朝食に当たっちゃって。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・そういえばここにも仲間がいたか。」
ああ、雄二のうちのお母さんって・・・・・・・・

「そういえば、雄二のお母さんってめちゃめちゃ破天荒な人だもんね。うにとたわしを間違えたり、ザリガニを伊勢海老として出したり、プチプチがあったら全部つぶすまで家事ほったらかしだった

「さつさと座れこのうじ虫野郎」

あ、だから言うのやめてあやまったんだ。

「ひどっ！！！！！！！！！！って雄二と野里、音季はなにやってんの？」

「先生が遅れてるから教壇に上がったんだ。」

「私たちは、ちよつとごたごたがあつて座り損ねたの」

「君たち席についてください。」

ちよつと先生が入ってきた

「はい。」

「ういゝす」

「はい」

そう言いながらおっとりとしていて覇気のない先生が教壇に立った。

「さて、皆さんにちやぶ台と座布団は支給されていますか？不備があれば申し出てください。」

斬新な設備よね。

「せんせー俺の座布団綿が入ってません」

「我慢してください」

普通取り替えるでしょ！

「せんせー俺のちやぶ台足が折れてます」

「ボンドを持ってくるのでくつつけてください」

またすぐに壊れるよ！！

「せんせー窓が割れてて隙間風が寒いです」

「わかりました。ビニール袋とガムテープの支給を申請しておきます。」

さらに、教室の上のほうでは、くもの巣が我が物顔で張られていた。………まるで廃屋じゃない。

「必要なものは極力自分で調達してください。」

普通は学校が支給するものじゃないの。

「じゃあ、自己紹介でもしますか。廊下側の人からお願いします。」

「瑞希、災難だったね。まさか振り分け試験中に熱出しちゃうなんて。」

「あ、野里ちゃんと音李ちゃんもいたんですね！」

私が瑞希がここにいる理由を説明しがてら、瑞希に話しかけるとみんなの言い訳が聞こえてきた。

『俺も熱（の問題）が出たせいで調子が出なくて』

『あゝあれ難しかったよな』

『俺は弟が事故にあっただって聞いて実力を出せなかったんだ』

『だまれ一人っ子』

『前の晩高瀬さんが寝かせてくれなくて』

「「だれよあんた！！！！！！！！！！」」

『今年一番の大嘘をありがとう』

「……はあ、ほんとこのクラスってバカばかりだわ。あと最後の一人は処刑しておこう。うん。そうしよう。」

「あ、え、えとそれじゃあ一年間よろしくお願いします。」

瑞希はこの変な雰囲気の中逃げるようにして、雄二と明久の隣で、私たちの後ろの席に座った。

「き、緊張しました……」

瑞希はため息をついてちゃぶ台に突っ伏した。ん？明久が何か考えているわね。雄二と音李と一緒に何考えてんのか頭の中を読んでみよう。

【よし、席も近いし、話しかけるチャンスだ。この些細なことから、ドラマは始まり、やがて僕らは結ばれることになる。そう、この一言はボクの幸せな未来へとつながる架け橋となる！】

「……気持ち悪い。」

《《あいつは何考えてんだ（のよ）》》

「あのさ、姫z i」

「姫路」

明久の声にかぶせるように雄二が声をかける。うん、グッジョブ。

あんなこと考えてるやつに瑞希に話しかける権利なし。

【酷いっ！せっかくの僕の人生計画、クラスメイトから結婚まで君と出会えた春、全730話が始まり2分でエンドロールに！残り729日と23時間58分はどうすればいいのさ！】

．．．．．あ、頭の中読むのやめて無かった。それにしても、明久は2年で結婚まで持つてくつもりだったの？しかも一日中放送するつもり？

「は、はい。なんですか？え」と．．．．．」

「坂本よ。そいつは坂本雄二。」

「あ、野里ちゃん。えつと、4年ぶり？」

「そうね。小6以来だから5年ぶりくらいかしら。」

「おい、俺を無視するな。」

「あ、すいません。姫路瑞希ですよろしくお願いします。」

うん。リラックスできたみたい。

「ところで体調はもういいのか？」

「あ、それは僕も気になる。」

「ふえ？よ、吉井君！？」

あ、そういえば瑞希って明久のこと好きなんだっけ。

「（よかつたね。瑞希。偶然とはいえ明久と同じクラスになれて。」

）

「ふええ！の、野里ちゃん何でそんなことを（本当のことでしょう）はううううう」

「？姫路さん？何独り言いつてるの？」

「あ、えと、なんでもないです！！！」

あ、瑞希そんな大声出したら．．．．．

．．．

「そこ、静かにしてくださいね。」バンツ

ほら、怒ら（バラバラバラバラ）．．．れ．．．．．た．

．．．へ？きよ、教卓が崩れ落ちた．．．．．

．．．．．ドンだけぼろいよここの設備。その後すぐ先生が気ま

ずそつに取替えに行く。

「すいません、変えの教卓を持ってきます。」

「あ、あはははは」

ほら、あの瑞希が苦笑してる。

「ねえ、雄二、野里と音李、ちよつといい？」

？何かしら。明久に連れられて廊下に出て行く。

「雄二、野里、音李、この教室酷いと思わない？」

「」「まあ、確かに。」

これは、さすがに無いわよね。

「じゃあさせつかく2年生になったんだし試召戦争をしようと思わない？それもAクラス相手に。」

「あと瑞希のため、でしょ。」

「ああ、そういうことか。」

「ちよ、何でそうなるのさ。」

「」「ほかに理由がない！」

「ぐう」

「まあいいさ、どうせ俺も試召戦争をしようと思ってたところだ。」

まさか……………

「世の中学力がすべてじゃないって証明したいから？」

「それとも、自分の将来のため？」

「？野里、音李それどういうこと？」

「相変わらずお前らは鋭いな。」

はあ、ってことは。

「まだ、6年前の事を引きずってるの？」

「もうそろそろ割り切ったらどうなのよ。少なくとも私たちと翔子くらいは悪いのが雄二じゃないのは分かってるわよ？」

「ちよつと、三人とも何の話してるのか教えてよ！」

明久はちよつと黙っててよ。私たちはこのネガティブ野郎に説教しなきゃいけないんだから。

「おい、先生が来たぞ。」
あ、逃げた。

「はあ、そんなに話したくないならいいわよ。ほら、明久もポケッとしてないで教室に入るわよ。」

そして壊れた教卓を変えて自己紹介が再開された。

「では、最後に坂本君お願いします。」

「俺は坂本雄二。このクラスの代表だ。さて、お前ら、さっそくだが質問だ。Aクラスの設備はリクライニングシートにノートパソコン、システムデスクに、個人クーラー、飲食物完備のラウンジらしいが、不満はないか？」

そう雄二が呼びかける。

「……………おおありじゃあ……………」

それこそ、魂の叫びだった。瑞希なんかはちょっと引いてる。あ、音李も。

「そこでだ、俺はこのクラスの代表として、Aクラスと試召戦争をしようと思うんだがどうだ。」

雄二は戦争の引き金を引いたのでした。

第一問 歓喜と恐怖とFクラス（後書き）

はい、一気に投稿しました。で、向こうの話を書いてて思ったことなんですけど、誰か感想かいてください……。ひよつとしたら、面白くないんじゃない……。とかいろいろ思ってしまうわけ……。出来る限りかいてくださると嬉しいです。

バカテスト 第二問 数学

29の平方根を答えなさい。また平方根をあらわすのに使う根号をなんと云うか答えなさい。

姫路瑞希の答え

「29 ルート」

教師のコメント

正解です。今回は少し簡単すぎました。

吉井明久の答え

「2乗で29になる数字はありません。ねじつ」

教師のコメント

を使いましょう。それから、根号という漢字の読みを答えるわけではありません。それに読みが間違っています。

坂本雄二の答え

「29の2乗 こんごう」

教師のコメント

2乗はいりません。それから、明久君にも言いましたが根号と言う漢字の読みを答えるわけではありません。

木下秀吉の答え

「ROUTE66 ルート」

教師のコメント

それはアメリカの大陸横断道路です。

土屋康太の答え

「B???W???H?? BWH(アメリカの自動車会社)」

教師のコメント

それはBMWです。……………ひょっとしてBWHとはスリ
ーサイズですか？

高瀬野里・音季の答え

「29 ルート」(ふざけようがない)

教師のコメント

すみません。さすがにこの問題でふざけた答えを返すのは難しい
ですよ。

高瀬楊子の答え

「ルート66 in united status of Am
ericann」

教師のコメント

だからなぜあなたは他学年のテストを受けているのですか。……
……あえて答えには突っ込みません。

高瀬佳乃子の答え

「ルート88 in united status of Am
ericann」

教師のコメント

本当にどうやって他学年のテストに介入しているのですか？

バカテスト 第二問 数学(後書き)

え、突然ですがなんと、3000PV突破+600ユニーク到達です！！！なんだか知らない間に超えてました。ありがとうございます。これはがんばって更新しなければと思いました。

第二問 君と僕とのラプソディ × 青空と約束とDクラス戦 (前書き)

はい、翌日がテストだというのに、夜中に更新しています。

今回の話の中に出てくる言語は“<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%80%E8%AA%9E#E4B896E7958C.E381.AE>”を参照してください。

第二問 君と僕とのラブソディ× 青空と約束とDクラス戦

Aクラスへの宣戦布告は、Fクラスにとっては現実味が乏しいどころか、雲をつかむような形のない夢のようなことだった。

『勝てるわけがない』

『これ以上設備を落とされるのはいやだ』

『姫路さんと高瀬さん姉妹がいればもう何もいらぬ』

最後の一人は死を覚悟してるみたいね。ってこれじゃ私が猟奇的殺人鬼じゃないの。さすがにそんなひどいことしないわよ。ちよつと新しい魔法の開発実験に使うだけだから。

まあ、それはおいておいて、確かに誰が見てもFクラスとAクラスの戦力差は大きかった。まあ、それは雄二から見ればFクラスのほうが有利なだけだ。だって、瑞希と、隠してるにしても小学生のころ先生に飛び級で教員免許を取れそうだなんていわれた私がいれば。あれ？これだと自信過剰？まあいいや。ここ文月学園に上限なしのテストが採用されて、試験召喚システムの運用が始まってから四年。このテストは一時間という時間制限で問題数無制限。だから、能力しだいでいくらでも成績が伸ばせ、その点数でクラスが決まる。Aクラスが、最高学力のクラスで、Fクラスが最低学力のクラス。クラスによって設備が違いAが最高の設備、Fが最低の設備だ。そして、試験召喚システムとは教師の立会いの下で召喚獣を召喚できるシステムで、点数に応じた強さがある。学力低下が嘆かれている昨今、このシステムが注目されている。テストの点数に応じた強さを持った召喚獣同士を戦わせてクラス間戦争を行い、下位クラスが勝てば負けたクラスと設備交換。上位クラスが勝てば、負けたクラスは設備のランクを落とされる。これが試験召喚戦争、つまり試召戦争というわけ。まあ、そういうわけで、この戦争で最も重要になるのは点数。だけど、学力最上位クラスのAクラス対学力最下位のFクラスなんて普通は勝てない戦。だって、根本的な力が違

いすぎるんだもん。

「そんなことは無いぞ。必ず勝てる。いや、俺が勝たせる。」

そんな圧倒的戦力差を知っていながらそこまで断言する雄二。つまり、完璧な作戦を思いついたってわけね。

『何を馬鹿なことを』

『出来るわけないだろう。』

『何の根拠があつてそんなことを。』

否定的な考えが、クラス中からあがる。

「根拠ならあるぞ。このクラスには試験召喚戦争で勝つことが出来る要素がそろつている。」

あら？みんな信じてないみたい。僕は学年最下位のFクラスだぞ？つて顔してる。

「それを今から説明する。」

壇上からクラス中を見回し、得意の不敵な笑みを浮かべる雄二。

「おい、康太。豊に顔をつけて姫路と高瀬姉妹のスカートを覗いてないで、こつちにこい。」

「……………！！（フルフル）！！」

「……………きゃっ！！！！！！」

な、何で康太がこんなとこに！？……………うう見られたかも……………よし、後で鉄拳制裁。

「土屋康太、こいつがあムツリーニの寡黙なる性識者だ。」

そう、康太は土屋康太という名前ではあまり有名ではないけど、この、女子には軽蔑を、男子には畏怖と畏敬を以って上げられるムツリーニという名前でも有名だ。……………瑞希は何のことか分かってないみたいけど、これ、ムツリーニとムツリスケベをかけただけなのよね。まあ、瑞希は知らないほうがいいか。

『ムツリーニだと！？』

『馬鹿な！あいつがそうだというのか！！！！』

『だが見る！！！！あそこまで明らかかな覗きの証拠をまだ隠そうと

しているぞ!!」

『ああ、ムツツリの名に恥じない姿だ……』

康太が、顔についた畳のあとを必死に隠している姿は、むしろ哀れにすら見えるけどね。たとえどんな状況に陥っても自分の下心だけは隠し続ける。異名は伊達じゃないわね。

「それに姫路もいる。姫路の強さは、折り紙付だろう?」

『そうだ、姫路さんがいるんだった!』

『おお!何とかなりそうな気がしてきたぞ!』

『姫路さんと高瀬さんがいれば、何もいらぬ!』

だれ?さつきから私たちにラブコールを送ってくるやつは。

「木下秀吉もいる。」

『おお、確かあいつは木下優子の……』

『つてことは、頭がいいのか!』

まあ、頭は良くないけどね。その演技力はあてにしてもいいと思う。

「当然俺も全力を尽くすし、高瀬姉妹、前に出て来い。」

あら?私たちの紹介なの?

「この二人が、“文月の情報集”^{データベース}と“絶対神”だ。」

『なに!?あの二人がこの文月学園のことならたとえ生徒の個人的な情報だろうと知っているとされている“文月の情報集”^{データベース}に、

この世界で敵うものはいないという“絶対神”だと!?!』

『おお!!!これなら本当にAクラスにも勝てるかもしれないぞ

!!!』

「そして、吉井明久もいる。」

あらら、ここで明久を出すか。……いえ、明久いじりか。

『だれだそれ?』

『聞いたこと無いぞ?』

みんなは知らないみたいね。

「しらないの?こいつは《観察処分者》なのよ。」

『なに!?あの馬鹿の代名詞か。』

『つてことは、吉井は馬鹿なのか。』

「ち、違うよ！ちよっとお茶目な十六歳につけられるもので、

」

絶対的に違うわよ。っていうか、自分で自分をお茶目って言うってどうなのよ。

「」「そうだ（よ）、馬鹿の代名詞だ（ね）。」「」

「肯定するな、三人の馬鹿！」

だって、本当のことじゃないの。

「あの、それってどんなものなんですか？」

ああ、瑞希は知らないのね。

「やることは、教師の雑用係ね。特例として物に触れるようになるの。ちなみに、観察処分者に任命されるのは、学生生活を営む上で大きな問題のある生徒よ。」

「すごいのか、すごくないのかよく分かりませんね。」

まったくもってそのとおりね。

『でも観察処分者ってたしか、召喚獣がダメージを受けると、自分も痛いんじゃないか？』

『つてことは、簡単には召喚できないやつが一人居るって事だよな。』

そういうことね。あれ？これはクラスにとってマイナス……

・・なわけないか。

「大丈夫よ。どうせ居てもいなくてもそこまで変わらないんだから。」

「それはひどいよ！？野里！」

まあ別にいいじゃないですか。ほんとのことなんだから。

「皆、この境遇は大いに不満だろう？」

『当たり前だ！！！！！』

「ならば総員ペンを取れ！！」

『おお！！！！』

「目指すは、打倒Aクラスだ！」

「・・・・・・・・一般常識。」

「あら、私は日本語のほかにも英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語は完璧に話せるし、ギリシア語、ポルトガル語、アイスランド語、アイマラ語、アゼルバイジャン語、アフリカーンス語、アムハラ語、アラビア語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、マレー語、ヴェンダ語、ウクライナ語、ウズベク語、ウルドゥー語、エストニア語、オランダ語、カザフ語、カタール語、キルギス語、グアラニー語、クメール語、グルジア語、ゲール語、ケチュア語、コサ語、コモロ語、コンゴ語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、ズールー語、あたりも少しなら話せるわよ?」

「・・・・・・・・野里って頭いいの?」

「?これは、家の親がやってるパーティーの参加者の人のを聞いてたら自然に覚えたのよ。」

「あ、そういえば野里の家って・・・・・・・・」

「そういうこと。」

なんて話してるうちに屋上に着いた。

「明久、宣戦布告はしてきたな?」

「一応今日の午後開戦とは伝えてきたけど。」

今日の午後ね。結構忙しくなりそうじゃない。

「ってことは、うちたちはご飯を食べたらすぐ開戦って事ね?」

「そうなるな。明久、今日の昼くらいは、まともなもん食べよ。」

「そう思うなら、パンくらいおごつてよ。」

「馬鹿いうんじゃないわよ。ちゃんと私たちが作ってあげてるじゃないの。」

「え?吉井君って、野里ちゃんたちにお弁当作ってもらってるんですか?」

・・・・・・・・あ、瑞希の前でこんなこといったらだめじゃないの。どうしよう・・・・・・・・そうだ。

「だって、こいつ塩と水と砂糖しか食べないんだもん。あれ?食

べるっていうよりなめる？」

「し、仕送りが少ないんだよう」

「何言ってるのよ。毎月、私たちに300万から600万の勢いでお金を借りてるのはどこの誰かしら？」

まあ、私たちは、月収が10兆くらいあるから（内お小遣いは10万、残りは株での儲け）そんなにつらくないけど。

「の、野里ちゃんってお金持ちなんですか？」

「あれ？瑞希には話して無いっけ？」

「野里のうちってあの高瀬コンツェルンなんだよ。」

「そ、それって本当ですか？吉井君。」

「本当だよ。あ、それからこのこと誰にもいつちゃだめだよ。野里に殺される。」

「さすがに瑞希にはそんなことしないわよ。」

明久や雄二だったら容赦なくやるけど。

「って、話がそれちゃいましたね。えと、それで、もし良かったら私が皆さんにお弁当作ってきましようか？」

げ・・・・・・・・・・・・・・・・

《音季、どうする？》

久々の念話登場

《私たちは断ればいいんじゃない？》

《ちよつと薄情な気もするけどね。》

「私たちはいいわ。自分で作るようにしてるから。」

「なら僕たちは頼もうかな。ああ、塩と水以外のものを食べるなんて久しぶりだよ。」

塩と水のほうがよっぽどましな料理だけどね。

「姫路さんって優しいね。」

「そ、そんな」

「今だから言っけど僕昔から君の事を・・・・・・・・」

《明久、今振られると弁当の話はなくなるわよ》

ちなみにこの念話は瑞希以外の全員に聞こえている。

「ずっと好きにしたいと思ってました。」

明久の思考回路を読んでみましょうか。

【ふ、失恋回避成功。『君のことが好きです』と言い切る前だったからこそ取れる空前絶後の回避行動。さすが僕の判断力】

.....はあ。

「.....明久、それじゃあ欲望をカミングアウトしたただの変態じゃぞ。」

「うう、だつてお弁当が.....」

【うらむぞ僕の判断力】

「..明久、あなたは（おまえは）時々、私（俺）の想像を超えた人間になることがあるわね（な）。」「」

つていうか自分で自分を恨んでどうするのよ。

「それはそうと、雄二、一つ気になつておつたのじゃが、何でDクラスなのじゃ？順を追つていくならEクラスじゃろうし、勝負に出るなら、Aクラスじゃろう。」

「それはちゃんと考えがある。まず、明久この場には誰が居る」

「えつと、美少女が四人と馬鹿が二人とムツツリと関節マシーンが一人ずつ居るね。」

「誰が美少女だと!？」

「ええ！なんで雄二がそこに反応するの!？」

馬鹿の中に入らないと思つてるからじゃないの？

「..(ぼつ)」「」

「ムツツリ二まで!？つていうか野里と、音李はそんなキャラじゃないよね!？どうしよう僕だけじゃ突つ込みきれない!」

「まあ要するにだ」

コホンと咳払いをして雄二が説明を始める。

「姫路に問題がない今、Eクラスとは戦う意味がない。」

「しかし、最初からさつき言いかけた打倒Aクラスに挑むのも厳しいから、初陣なんだし景気付けと、クラスの皆を試験召喚戦争に

なれさせるため、Dクラスと戦う、あわよくばAクラスを狙うため、長い目で見たときの、起爆剤つてとこでしょ。」

「ばれてたか。」

そのくらい分かって当然何年幼馴染やってたと思ってるのよ。

「あ、あの、さつき言いかけたって、坂本君と吉井君たちは前から試験召喚戦争について話してたんですか？」

ああ、そのことね。

「それは、さつき明久が姫路の為……………」

「それはそうと！」

私がせっかく言っただけであげようと思ったのに、明久が大声でさえぎった。

「さつきの話だとDクラスに勝てなきゃ意味がないよ？」

「大丈夫だ。お前らが俺に協力してくれるなら勝てるさ。いいか、お前ら、うちのクラスは最強だ。」

根拠もないのに、雄二に言われると本当に遭難じゃないかって思えてくるから不思議よね。

「いいわね。面白そうじゃない。」と美波

「そうじゃな、Aクラスの連中を引きずり落としてやるかの。」
と秀吉

「……………(グッ)」と康太

「が、がんばります」と瑞希
打倒Aクラス。

このクラスなら荒唐無稽な話も現実不可能な絵空事も、かなえられそうな気がしてくる。せっかくこうして同じクラスになったんだもの。みんなで、何かをやり遂げるのもいいかもしれない。

「そうか、それじゃ作戦を説明しよう。」

春風がそよぐ屋上で、私たちは勝利のための作戦に耳を傾けた。

バカテスト 第三問 公民

現在の日本の政治体系に採用されているモンテスキューが提唱した制度をなんと言うでしょう。また、その制度の中で日本国憲法により国権の最高機関であるとされている機関および、その機関が持っている権利は何でしょう。

姫路瑞希の答え

「三権分立 国会 立法権」

教師のコメント

正解です。毎度のことですが非の打ち所がありませんね。

吉井明久の答え

「三権分離 国会議事堂 立法司法権」

教師のコメント

三権分離さんけんぶんりとは何ですか？意味は同じですけど不正解です。国会議事堂はその機関が入っている建物です。あと、最後のは一体？三権が分立していませんよ!？

土屋康太の答え

「三賢人 元老院 枢密院」

教師のコメント

ファンタジーの世界へ飛んでいってますね。というか最後のは権利じゃないですね。

坂本雄二の答え

「人権宣言 枢密院 皇帝の補佐」

教師のコメント

始めはまだ現実世界にいたのに途中からファンタジーへ飛んでますよ。というか人権宣言を出したのはロックですよ。

島田美波の答え

教師のコメント

なぜ答案が提出されていないのでしょうか？

木下秀吉の答え

教師のコメント

またまた、答案が提出されていませんね。

高瀬野里・音季の答え

「三件分神 元老院・枢密院・参議院・衆議院・貴族院 立政権」

教師のコメント

三権の分神ってなんですか！？何気に国会の内部機関が！？立政権って何なんですか！？

学園長の特別コメント

あなた、教師のくせにあわてすぎさね。

高瀬楊子の答え

「三寒四温 元密院 政策調査会」

教師のコメント

わけが分かりませんが、無性に怒りたくなってきました。

高瀬佳乃子の答え

「淡々汲々 枢老院 金融庁」

教師のコメント

2学年の階への他学年の出入りを禁止したほうがいいのでしょうか。

バカテスト 第三問 公民（後書き）

すいません、更新遅れました。修学旅行へ行っていたので更新できませんでした。そして13,000アクセス突破&2,300ユーク突破ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

第三問 力と科学と打倒Aクラスへの一歩

「明久！渡り廊下で、秀吉部隊がDクラス前線部隊と交戦を開始しました！」

と、半ば怒鳴るような声で叫び、私は明久率いる中堅部隊の陣まできていた。

「あ、胸か。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美波に殺されますよ。」

は！棒読みになってしまった。っていうか、何で敬語・・・・・・・・我ながら突っ込みどころ満載？それに、何を考えたのかしら。あ、確か、過去にさかのぼって人の思考を読めたような気が・・・・・・・・あ、これこれ。

【野里が叫びながら走ってきた。・・・・・・・・ふと島田さんが走っている情景が頭の中に浮かんできたよ。うん。野里と比べて何かが足りないような・・・・・・・・】

そりゃあね。・・・・・・・・あれ？この言い方だと私はナルシスト？うん。言葉のあやだからね。絶対に私がナルシストってわけじゃあないからね。

「！！！！！！島田さんにはいないよね！？」

「うん。大丈夫だよ。まあ、いても記憶を消してあげるけど。あ、美波のをね。」

「そ、それはいいよ。頭がパーになっちゃったりするんでしょ？」
頭がパーの明久には言われたくないでしょ。

「って、そんなことできるの？」

「私は超能力から、魔法まで一通り使えるわよ？」

「あ、そつか。って、そんなこと話してる場合じゃないよー！」

まあね。それはおいておきましょう。とりあえず今は、

「Dクラス戦に集中しましょう。」

「そ、そうだったね。」

『戦死者は補修!』

『て、鉄人!?!』

『ぎゃあああああ鬼の補修はいやだーーーーー!!!』

『問答無用!補修が終わるころには趣味は勉強、尊敬するのは二

宮金次郎という模範的な生徒にしてやる!』

先生、それは洗脳というのでは……あ、

「明久、秀吉の部隊が後退を始めたわ。」

「全軍撤退!」

「こら!ここで撤退したら、殺されるわよ!」

主に、雄二。

「総員突撃ーーーーー!!!」

なんとも、虫のいい人たちね。まあ、いいわ。私も行かなきゃね。それにしても……

《高瀬、お前はまだ本気を出すな。Fクラス並みの点数のままで行くんだ。Aクラス戦まではな。Aクラスは、お前が頭がいいということを知らない。つまり、そこでお前らがいきなり学年主席以上の点数を持って現れれば、必ず勝てる。》

なんていつてたけど、その学年主席(翔子)が、私が頭がいいって事を知ってるのよね。忘れてるのかしら?まあ、Fクラス並みの点数で勝てとか明久くらいしか出来ないし。私がやったらたぶんすぐに戦死するからね。教室に戻って待つてよつと。

— — — — —
— — — — —
— — — — —
— — — — —
— — — — —
— — — — —

ガラガラガラ

あれからしばらく待つてると勢いよく扉を開けて須川君が入ってきた。……錯乱した美波を連れて。

「代表、と総司令もいたんですか」

「といえば、何かそんなの押し付けられてたような気もするわね。」

「美波に何があつたの？須川君」

「はい、錯乱して吉井隊長を討ち取るうとしていたので連行してきた次第です。」

明久が何かやったのね。

「あ、それから数学の先生を呼び出してくれと吉井隊長に言われたから、どんなのを流したらいいか聞きに来たんです。」

「お、それならいいのがあるぞ。ごによごによ」

雄二が須川君に小声で放送の指示をしてるみたい。

「了解しました。それじゃあ行つてきます。」

「雄二、なんていったの？」

「(ニヤリ)すぐに分かる。」

「?????何で教えてくれないのかしら。」

【ピンポン パンポン】

「ほら来た。」

【船越先生、船越先生、失礼ですが、今すぐ体育館の裏に来てく
ださい。】

「?なんで体育館の裏なの？」

「それも分かるぞ。」

【吉井明久君が、待っています。】

「ぶっ！」

「ぶふっ！あはははははははは」

雄二、鬼畜ね。

【生徒と教師の垣根を越えた大切な話があるそうです。】

「雄二、正気？あの船越先生よ？今期を逃した焦りから生徒に単
位で交際を迫るようになった。」

「ああ、最後のは須川の自作だろ。それにしても傑作だ。くくく

の中に入れちゃいけないんだっけ。うん、でもこれで少しは楽になるかも。

明久side終了

野里&音李side

まったく、せっかく転移魔法を使って増援に来たつてのに、一言目がうわっ！だなんて失礼しちゃうわね。まあ、確かに向こうが驚くようなタイミングで出てきたけどさ。え？Fクラスレベルの点数じゃないのかつて？ああ、どうせ私がC、Dクラス並だつて事はばれてるからね。あの後回復試験受けてCクラス並みの点数でやってきた、つてわけ。

「Dクラス伊藤、召喚します！」

あ、やっと召喚した。

「Dクラス 伊藤義文 VS Fクラス 高瀬野里

科学 99点

142点」

ちなみに私の召喚獣は、真っ黒のローブに三角のとんがり帽子、ネ・スリン フィール の使つてるのに似たでつかい杖。攻撃する時は杖を振つて、馬鹿でつかい炎が出てくるつていうチートもいいとこの性能。それも、特殊能力のつく腕輪じゃなくて、ノーマルでこれだからまあ、何とも言えない。というわけで、その辺のDクラスの3分の1くらいは点数が半分近く減つてはるはず。なまじ広範囲に攻撃が行くもんだから相当な点数取らないと一撃で倒すことが出来ないのよね。

「な、なんだありや！」

「特殊能力か！？」

「いや、でも点数は400いつてないぞ！？」

「ノーマルであれだと！？」

「だが、効果範囲がでかい分、一撃ごとに受けるダメージは少な

りしているBクラスのクーラーの室外機。

「ああ、先生に怒られるリスクもあるが、それで教室を変えなくてもいいなら、これほどいいことはない。その交渉は成立だ。」

まあ、そんなわけでここにDクラス戦が終結したのでした。

バカテスト 第四問 国語

次の文の中から、敬語として間違っているものを選び出して、正しく直しなさい。

「もしもし、わたくし ×社の野々村と言いますが、鈴村さんの家ですか？」

「はい、鈴村です。」

「お父さんに連絡したいことがあるのですが、今おられますか？」

「ちよつとお待ちまちしてください。・・・申し訳ありません。」

お父さんは今、お出かけのようです。」

「では、後ほどまた電話します。失礼します。」

姫路瑞希の答え

「言いますが もうします。」

家ですか？ お宅でしょうか。

お父さんに お父様に

連絡したい お伝えしたい

今おられますか？ 今いらつしゃいますか？

ちよつと 少々

お待ちしてください お待ちください

お父さんは 父は

お出かけのようです 不在のようです。

電話します お電話いたします

ちなみに、お待ちしてください、してが謙譲語で相手に向かって使うと相手のことをおとしめてしまうのでとても失礼になります。また、おられますか？は、おらが謙譲語、れが尊敬語、ますが丁寧語で相手を下げたあと尊敬語で上げて丁寧語で締めくくるといっわけが分からないことになるので、これも使ってしまうととても失礼になります。」

教師のコメント

正解です。すこし、めんどくさかったでしょうが。というか、最後の説明はしなくてもいいんですよ？

吉井明久の答え

「全部あってます。」

教師のコメント

いいえ、ぜんぜんあってません。

坂本雄二の答え

「長い。」

教師のコメント

長くてめんどくさかったというより居眠りしていたように思えるのですが。よだれがついてますし。

木下秀吉の答え

「言いますが もうします。」

家ですか？ お宅でしょうか。

お父さんに お父様に

連絡したい お伝えしたい

今おられますか？ 今いらっしゃいますか？

ちよっと 少々

お待ちしてください お待ちください

お父さんは 父は

お出かけのようです 不在のようです。

電話します お電話いたします」

教師のコメント

さすがは演劇部員といったところでしょうか。

土屋康太の答え

「もつとエロい文章を」

教師のコメント

あなたは後で職員室に来てください。

島田美波の答え

「よめません。」

教師のコメント

……今回は大目に見ておきましょうか。

高瀬野里・音季の答え

「言いますが もうします。

家ですか？ お宅でしょうか。

お父さんに お父様に

連絡したい お伝えしたい

今おられますか？ 今いらっしゃいますか？

ちよつと 少々

お待ちしてください お待ちください

お父さんは 父は

お出かけのようです 不在のようです。

電話します お電話いたします

めんどくさい 手があいておりません。」

教師のコメント

最後にボケが来ましたか。

バカテスト 第四問 国語(後書き)

17,699アクセス&3,304PV達成~~~~~

あまり上手い文章ではないと思うのですが皆様読んでくださってありがとうございます。これからもよろしく願います。

第四問 戦後と手紙と久々の発明

明久 s i d e

「じゃあ帰ろうか雄二。」

「ああ、そうだな。つとどうも用事が出来たみたいだ。」

「へ？」

「雄二、ちよつといい？」

「お？ああ、別にいいが。」

ああ、野里か。つてことは作戦でも立てるのかな？

「というわけだ。明久、校門で待つてくれ。」

「ごめん、次の試召戦争のことでちよつとね。(まあ、ほかにも

少しあるけど。)

「ううん、別にいいよ。じゃまた明日。」

つていうか、最後なんていったのが良くわかんなかったや。

「教科書忘れたりしないようにね。」

「あ、教科書忘れた。」

「……………」

ううう、雄二も野里も黙らないでお。……………もう

いいや。教科書とつて帰ろう。じゃなくて待つてよう。

明久 s i d e 終了

野里 s i d e

よし、明久もいなくなったし音季と瑞希に登場してもらいましょ
うか。

「ん？なんだ片割れと姫路もいたのか。」

「ねえ、いい加減片割れつて呼ぶのやめてよ。」

「いや、分かりにくいだろう。」

うん、今から押しかけよう、最悪資金のことでもちらつかせて。

「で、この装置の使用許可がほしいというわけさね。」

「はい。」

「……まあ、いいだろうさ。あんたの家にはずいぶんと世話になってるしね。ただし、その腕輪の動作報告をすることと、その技術を試験召喚システム開発チームと共有することの二つでお願い。」

まあ、そのくらいならいいかな。

「はい、ありがとうございます。」

その頃……

はあ。やつちゃった。野里に言われて取りに行ったのに、全部持ってきてなかったなんて。バカにされるだろうなあ。

ガラガラガラ

「たっだいまー」

うん、なんとなく言ってみたくることってあるよね。ってあれ？

「姫路さん？」

「ふえ？よ、吉井君！？（はらり）あ！！！」

あれ？何か落ちた……はっこれは！

「……変わった不幸の手紙だね。姫路さん。」

「ふえ？え、えとそれはそれですごく困る勘違いなんですけど……

……

「もう、水臭いなあ。相手は誰？僕に言ってくれれば直接手を下すのに。」

「い、いえ違つんです！これは不幸の手紙なんかじゃありません！」

「そんな！僕はこんなに不幸な気持ちになっっているのに！」

「（あ、あれ？ひよっとして……あう。でも……）」

「あ、あれ？姫路さん？」

「え、えとこれは練習です。いつか書くときのため！」

あ、なんだ、そうなのか。うーんさすがは姫路さんそこまで考えているなんて。

「そ、そっか。ごめんね、変な勘違いしちゃって。」

「いえ、別にいいんですよ？本物つてわけでもないですし。（あ

うう、私のバカっです。素直に聞ければよかったのに………
」

「じゃあね。教科書取りに來ただけだしさ。じゃあ、また明日、
姫路さん！」

「はいです！」

第四問 戦後と手紙と久々の発明（後書き）

短い……うん。次からはいつもの長さになる……
なるといいな。

バカテスト 第五問 地理

今年のサッカーワールドカップが開催されているのは、どの国でしょう。また、その国が属している州名を答えなさい。

姫路瑞希の答え

「南アフリカ共和国 アフリカ州」

教師のコメント

正解です。ワールドカップにあやかって作った問題なのですが少し簡単すぎましたね。

吉井明久の答え

「アフリカ オセアニア州」

教師のコメント

・・・・・・・・まあ、がんばったことは認めますが、いろいろとごっちゃになってますね。

坂本雄二の答え

「南アフリカ共和国 アフリカ州」

教師のコメント

最近居眠りが多いのはサッカーを見ていたからなのでしょうかね？
でなければ答えられませんよね。

木下秀吉の答え

教師のコメント

「白紙はやめていただけませんか？」

土屋康太の答え

「・・・・・・・・・・アフリカ」

教師のコメント

点が必要あったのでしょうか？

島田美波の答え

「南アフリカ共和国 アフリカ州」

教師のコメント

おや？日本語は読めないのでは・・・・・・・・

高瀬野里の答え

「東アフリカ共和国 北アフリカ州」

教師のコメント

・・・・・・・・・・今回は少し無理がありましたね。というか
そんな国はありません。

高瀬音季の答え

「サッカーには興味ないです。」

教師のコメント

珍しく野里さんと違う答えを書いていますね。

高瀬楊子の答え

「アフリカ アフリカ州」

教師のコメント

いい加減にテストへの介入をやめてください！

高瀬佳乃子の答え

「カフリア リファカ州」

教師のコメント

というか、あなたたち自分の授業はどうしているのですか？

バカテスト 第五問 地理（後書き）

すみません、少し間違えました。寝ぼけてたんでつい、前の話を載せてしまいました。気がついて変えたのですが、それまでの間に読まれた方、本当にすいません。

キャラ設定 (野里&音李) 改訂版

高瀬 野里 17歳 Fクラス所属 高瀬コンツェルン総帥令嬢
明久と雄二の親友(悪友ではない)で世界一の大企業高瀬コンツ
ェルン総帥の娘の一人。ちなみに総帥である父親に言わせれば野里
と、双子の妹の音李は、うちの家族で唯一後を任せることが出来る
との事。今作の主人公。双子の妹音李がいる。(髪形以外で見分け
られないほどうり二つ)瞳の色は水色でひざ辺りまである水色の髪
を左側でサイドポニーテールにしている。(作者「恋姫の愛紗みた
いな髪型」)

高瀬 音李 17歳 Fクラス所属 高瀬コンツェルン総帥令嬢
明久と雄二の親友(決して悪友ではない)で、世界一の大企業高
瀬コンツェルン総帥の娘の一人。双子の姉野里がいる。瞳の色は水
色でひざ辺りまである水色の髪を右側でサイドポニーテールにして
いる。

キャラ設定 (野里&音李) 改訂版(後書き)

あんま変わってないけど、とりあえず改定しました。ひよっとした
らまた改定するんじゃないかなんて心配になってます。

第五問 戦と罠と殺戮兵器

「よし、今回のDクラス戦は皆よくやってくれた。休む間もなくてすまないのだが、今度はBクラス戦だ。もちろん勝つための作戦はしっかりと考えてある。」

昨日のDクラス戦に勝利した私たちは、早速次の目標であるBクラス戦へと向けて動き出した。

「まあ、そういうわけだからとりあえず昼飯でも食いながら相談するぞ。」

「そっか、じゃあ学食でも行く?」

「そうね。……学食でお弁当食べても大丈夫よね?」

私たちはお弁当だからね。

「ああ、じゃあ学食行くか。」

「あ、あの!」

瑞希?……まさか翌日に作ってくるなんて……

ご愁傷様明久。

「なに? 姫路さん。」

「あの、や、約束の……」

「あ、お弁当?」

「は、はい!」

ああ、瑞希のお弁当(殺戮兵器)を食べることになるなんてね。

母さんの謎の特訓で青酸カリですら耐えられる、私たち高瀬ファミリーですら倒れた、いわくつきのお弁当。一口でも食べさせることが出来れば、核兵器以上の効果を発揮する……いや、まあそこまでの威力は無いけどさ。でも、三途の川を何度も見ることになるのよね。

「じゃあ、学食よりも屋上のほうがいいか。」

「うん、そうだね。屋上で食べようか、野里と音季もいいよね?」

「私たちは別にいいわよ。」

「じゃあ決まり。」

「じゃあ俺は、飲み物買いに行ってくる。」

「じゃあ私も。一人じゃ大変でしょ。」

「……すくなくとも美波は助けなきゃね。」

《美波、屋上に着いたらすぐに席を立て。トイレでも何でもい
いから理由をつけて。絶対に瑞希の料理を食べちゃだめよ。あの料
理には王水とか硫酸とか塩酸とか……と、とにかく絶対食べち
やだめよ!》

《わ、わかったわ。っていうか念話なのに声が震えて聞こえたの
はいつたい……》

— — — — —
— — — — —
— — — — —

く屋上く

「あ、あの、あんまり上手くできてないですけど。」

そういつて瑞希はお弁当箱を広げる。……

見た目はきれいなのにね。

「……おお……」

その感嘆の声はすぐに絶望の声になるわね。

「……(ぱく)」

「あ! ムツッリーニ! 何勝手に食べてんのさ! まだ雄二たちが来
てないじゃないか!」

ボタン! ぴくぴく

「……」

《ねえ、野里、音李、秀吉あれ、どう思う?》

あ、ちなみに明久達が念話を使えるのは私が回線をつないでるか
ら。回線をつないでおけばいつでも誰でも念輪が出来るのよ。携帯
みたいなもんね。

《はあ、あれは本物よ。前にいっぺん食べたことがあってね。王水とか硫酸が入ってたのよ。むしろそこらの毒物よりよっぽど危険ね。うちの家族は母さんの謎の訓練のおかげで青酸カリでも耐えられるけど、瑞希の料理だけは耐えられなかったわ。瑞希の場合は隠し味に使ってるつもりでいるから謎の化学変化が起こって正体不明の薬品になってたりするしね。》

ほんと、料理に対する常識が根本から間違ってるからね。

《せ、青酸カリに耐えられるとはのう……というか青酸カリ以上の危険毒物を食べたムツツリー二は無事なのじゃろうか。》

《たぶん大丈夫よ。ここにいる人間は常識にはまらない人が多いから。》

《そうそう。学園始まって以来のバカに、女の子に見える男、史上最強のムツツリスケベにまあ、今はジュース買いに行ってるけど、雄二は神童なんて呼ばれてたし、美波は……まあ間接外すのが上手いし。》

「お、うまそうだな。()(あ!)()どれどれ(ぱくっ)「ばた!」がらがらがっしゃーん

とめようとするも雄二は瑞希の料理を食べて倒れた。ジュースの缶をぶちまけながら。

《毒を盛ったな!》

《《《ちがう(よ)(わよ)!あれが瑞希(姫路)(姫路さん)の実力(だ)(よ)》》》

こっぴつときに念話って便利よね。

「わ、私ちよっとトイレ行ってくるわね!」

「そ、そう。」

ちなみにこの会話の間も、念話で雄二に状況説明。

《で、その殺戮兵器顔負けの料理を誰が処理するんだ。》

《《《……》》》

《《《》》》

《《私たちが行くわ。劇物に対する耐性はこの中で一番高いだろ

うし、まあ、最悪口の中で魔法とか使って劇物を消滅させるわよ。

《

《そ、そっか。じゃあ、僕は姫路さんの注意をそらすよ。》

《ええ。お願い。》

ふう。神様、今も一回感謝しておくわ。私にこれだけの能力を与えてくれてありがとう。なかつたらきつとここで死んでたでしょうね。……大げさか。

「あ！姫路さん！あそこに何か飛んでる！」

「へ？どこですか？吉井君。」

「す〜）ぱくぱくぱくぱく）」

このときばかりはお行儀良く食べるわけにも行かないので急いでかき込む。

「あ、ごめん見間違いだっただよ姫路さん。」

食べ終わったタイミングで明久が見間違いだと言つ。まあ、どうしようもない連係プレー！

「え？そうだったんですか。あ、もう食べ終わっちゃったんですか？」

「うん。おいしかったよ。ありがとう姫路さん。」

「い、いえ。じゃあ、こん」ところで高瀬姉妹、お前らも弁当持ってきてるんだっただよ。」

ナイス話題転換。さすがは雄二ね。

「あ、皆も食べる？」

「はい！野里ちゃんたちのお料理って食べたこと無いんですよね。」

「へえ〜そうなんだ。……なんで？」

「だって、ほかの人に分けてあげるほど作ることあんまりないから。」
というよりは、母さんたちのせいでゆっくり料理できないんだけど。

「あれ？じゃあ何で今日は分けてくれるの？」

「ちょっと、調子に乗っちゃって。脂っこいもの作りすぎたのよ。」

「そうそう。さすがにこれを二人で食べたら太っちゃうわよ。」
「っていうのは建前で、本当はなんだかこうなりそうな予感がしたからわざと脂っこいものばかり作ってきたのよね。」

「そっか。」

「なら、遠慮なくいただくとするかの。」

「はい、どうぞ。」

とりあえず、お弁当を皆の前に出す。

「~~~~~」

「おい、とりあえず食いながら話すぞ。」

「お行儀悪いわよ。」

「んなもん俺らは知らん」

「はあ。」

まあ、聞いてるだけとしましょうか。

「とりあえず、食い終わったら明久はBクラスに宣戦布告に行つて来い。その間に、俺と高瀬姉妹で作戦の下準備、木下、土屋、姫路、島田の四人でクラスのやつらに作戦の説明をしる。」

「え！ちょっと、僕が宣戦布告に行くことは決定事項なの！？」

「あ、そうそう。作戦に少し追加。Bクラスの代表はあの根本よ。何をされるか分からないから、絶対に教室を空けないように。何があってもよ。ただ、代表がいなくなるときに近衛部隊を置いていくわけにも行かないから、待機部隊を作っておくのが得策ね。というわけだから、これも伝えておいて。」

「僕を無視しないで！！！！」

「うむ、わかった。」

あ、私は食べながらしゃべってるわけじゃないからね。さつき瑞希のお弁当を全部食べたからお弁当食べてないもん。

「明久、戦争の開始時刻は五時間目の開始20分後だ。」

「結局、僕が宣戦布告に行くことは決定なんだね。」

そんなこんなで戦争開始。

「Bクラス柴村、召喚します！」

「Fクラス笹倉、その勝負受けた！」

「Fクラス 笹倉 章吾 VS Bクラス 柴村 耕介

古典 18点

124点」

ありやりやこれはちよつときついかもね。

『ぎゃあああああ』

『戦死者は補修！』

あ、あつちでは瑞希がばったばったと敵をなぎ倒してるわね。

『いたぞ！姫路瑞希だ！気をつける！絶対に近づくんじやないぞ』

『！』

うっんやっぱり瑞希はマークされてるか。まあ、敵の部隊は後退するだけだろうし、私達は、

「明久、私達は教室に戻るわよ。」

「ああ、見張りだったっけ。」

そ、一応見張り部隊はあるけどやっぱりね。そんなわけで、私達は一度教室に戻ることにした。

イラスト？

え〜と突然なんですけどね、実は私には妹がいて、で、その妹もバカテスのファンなわけです。で、このSSを書いていることを知った妹が、野里と音李のイラストを書いてくれたので許可をもらってここに載せることにしました。まあ、あとで色をつけるとか言ってたので、イラスト関係での更新はまだあるかもしれません。出来ればあまり期待しないで待っていてください。．．．．．うう自分で書けるようになりたい．．．

まあ、気を取り直して

まず、こつちが野里です。

> i8290 — 1282 <

で、こつちが音李。

> i8291 — 1282 <

書いたのは妹なのに、案外自分のイメージとしてじっくり来ました。

皆さんの感想も聞かせてください。

バカテスト 第六問 家庭科

から揚げに酸味をつけるために使う付け合せは何でしょう。

姫路瑞希の答え

「酢酸、硫酸、塩酸、酸化ナトリウム」

教師のコメント

・・・・・・・・・・ 姫路さんが持っている料理の常識が非常に
気になります。

吉井明久の答え

「レモン（家の姉は酢酸を使う。）」

教師のコメント

あなたは食べるもの事となるとたんに答えがまともになります。
ちなみにあなたのお姉さんも姫路さんのような常識を持っているの
ですか？

坂本雄二の答え

「レモン
家の親のように酢をどぼどぼかける人間
がいないと信じたい」

教師のコメント

あなたの親はどんな人なのですか？むしろ、姫路さんよりも坂本
君の親が持っている料理の常識がかなり気になります。

木下秀吉の答え

「レモン 家の姉はいつも丸々一個使い切るのじゃがどうにかし

てもらいたいのが。」

教師のコメント

確かにそれはかけすぎだと思います。

土屋康太の答え

「レモン・・・父はおわんに並々と注がれたレモン汁につけて食べる。」

教師のコメント

木下君のお姉さんよりグレードアップしてますね。

島田美波の答え

「レモン 家の親はレモンとすだちを間違えるのでいい加減覚えてほしい。」

教師のコメント

どうやったらレモンとすだちを間違えるのでしょうか？

高瀬野里・音李の答え

「レモン 家の母親と姉妹たちはから揚げ4個に対して段ボール箱いっぱいレモンを使い切るので父とともにとても悩んでいます。」

教師のコメント

・・・苦労しているんですね。

高瀬楊子・佳乃子の答え

「レモン 段ボール箱いっぱいのレモンを使うとなお良い」

教師のコメント

今回は他学年のテストを受けていることより、野里さんたちへの同情が勝りますね。というか、私が見た回答にはすべてありえないことが書いてあるのですが、一体何なんでしょうか？

第六問 人質と卑怯者と根本の暗躍

「げ、こりゃひどいや。」

「うーん、留守番部隊も眠らされてるわね。戦死じゃないのは、召喚できなかったからかしら。」

それにしても、これは無いわね。シャープは真ん中で折られてるわ、消しゴムはちぎられてばらばらになってるわ、ほかにもちゃぶ台に穴があいてるのもあるし。

「……しかたない、筆記用具だけでも補給を申請してくとするかの。」

「いいわ、私が直す。(しゅぼー!)」

「……これはむしろ根本がかわいそうだね(じやの)」「

それにしても、雄二の本隊がないのはどういことかしら。

「ん？どうしたお前ら……って何で留守番部隊が眠りかけてんだ？」

説明中

「というわけなの。」

「そうか、油断したな。」

「とうかなんで雄二たちはいなかったのさ。」

「ああ、Bクラスとの協定に調印してきた。」

「協定？」

なんですって？あの根本が協定？

「ああ、四時までに決着がつかなければ、明日午後九時に勝負を延期し、その間、試験召喚戦争に関する一切の行為を禁止とする。ださ。」

「何か裏がありそうね。」

「ああ、まったくだ。まあ、これが裏だったのかもしれないがな。」
なら・・・いいんだけどね。

「というかそれ、承諾したの？」

「ああ。」

「でも、体力勝負に出たほうがいいんじゃない？」

「瑞希以外は、ね。」

「あ、そっか」

できれば、最初から気づいていてほしかったんだけどね。

「この調子だと、あいつらを教室に押し込んだところで今日の戦闘は終了だろう。となると作戦の本番は、明日に持ち越しになる。」

「そうね。この調子なら本丸を落とすのは難しそう。でも、そのときは私達全員の力より、個人の能力のほうが、重要になるわ。」

「ってことは、姫路さんが万全の状態で挑めるように承諾したって事？」

「まあ、そういうことだ。そのほうが都合がいいからな。」

まあ、これで裏が無きやいいんだけどね。

「そっか。じゃあ僕たちは戦線に戻ろうか。」

「そうじゃの。」

「そうしましょうか。」

「そうね。でも、まだなんかいろいろなことやってきそつな気がするわ。」

「そうだね。気を引き締めていなくちゃ。」

まったく。あつちのほうの戦力は上なんだから、正面からぶつかってくればいいのに。まあ、保険だって事は分かるけどね。

っと、戦場が見えてきたわね。

「戦況はどう？」

「それが、かなりやばいです。」

「どうして？戦力は今はこつちが上だし、向こうから本隊が来た様子も無いんだけど。」

うーん今回は明久が言ってる事も分か・・・ああ。

「明久、美波が人質に取られてるみたいよ。」

「な！島田さん！？」

「よ、吉井！」

何かドラマみたいな展開ね。

「そこでとまるんだ！それ以上近づいたらこいつは補習室送りだぞ！」

……でもさ、戦争に犠牲ってつき物なきが……

「総員突撃用意ー！」

「隊長はそれでいいのか！？」

まあ、そうよね。これは指揮官としては問題のない判断よ。

「ま、待て吉井！こいつがどうしてつかまったか分かってるのか！？」

「バカだから」

明久には言われたくないわね……

「違う！こいつはお前が怪我したって偽情報流したら部隊を離れて一人で保健室に向かったんだよ！」

「島田さん……」

「な、なによ！」

なんか、美波の顔が赤いような……

「怪我をした僕にとどめを指しに行くなんて、あんたは鬼か！！！！！！」

まあ、日ごろの行いのせいね。

「違うわよ！うちがあんたの心配しちゃいけないわけ！？」

「それ、本当？島田さん」

「そ、そうよ。悪い？」

そういつてぶいっとそっぽを向く美波。

「へっ、やっと分かったか。それじゃ、おとなしく」

「総員突撃ー！」

まあ、そうなるわよね。いつもの行いから見たら。

「どうしてよ!」
いつもの行いのせい。

「どうしてだって!? 決まってるじゃないか! 本物の島田さんはあんなに優しくない! あの島田さんは偽者だ! 変装している敵だぞ!」

「な! ちがうって、こいつ本当の島田だって!」

「ええい! すでに見破られた作戦にいつまでも固執するなんて、見苦しいぞ!」

「だから本当に!」

美波を人質に取っていた二人はすぐにFクラスの人たちに倒された。

「みんな、気をつける! 変装をといて襲い掛かってくるぞ!」

「よ、吉井……ひどい。うち本当に心配したのに……」

「・」

「まだ白々しい演技を続けるか!」

「……美波、日ごろの行いのせいで信じてもらえないのよ?」

「……?」

まあ、分からなくもないわ。あの美波が本気で吉井の心配するなんて、普通思わないもの。

「あ、そっか。そうなんだ。うぐんでも最初からこれ言えば信じてもらえたのかな? うち、『吉井が瑞希のパンツを見て鼻血が止まらなくなった』ってきいて心配してたのよね。」

【……あぁ、こんな嘘にだまされるのは確かに島田さん(美波)だけだな(ね)】

この瞬間、間違いなくこの場にいた全員心が一致した。

「とりあえず、予定通り、教室の前まで攻め込めたわね。」

「ああ、いろいろハプニングもあったけどね。」

「しかし、こっちも結構な被害が出たわい。」

「こんこん」

「あ、ムッツリー二何かあったの？」

「え？Cクラスの動きが怪しい？」

ムッツリー二の話によると、Cクラスが怪しい動きをしてるみたい。

「うーん、根本の罨じゃないかな？たしかあいつ、Cクラスの代表と付き合ってたわよ？」

「ほう、そうか。なら、逆に協定違反で訴えてやるか？」

「そうね。それがいいかも」

Cクラス前

まあ、そんなわけで私と音季、雄二、明久、美波、瑞希の五人でCクラスに来た。

「がらがら」

「あら？Fクラス代表じゃない。それに、そのほかFクラスの首脳陣が連れ立って何のよう？」

「いや、用があるのはお前じゃない。ここにいる、Bクラス代表根本恭二だ。」

「なに!？」

「はあ。やっぱりあいつの戦略だったのね。」

「残念。点数はいつもよくないけど、情報収集は結構得意なのよ。」

「ね。」

「な、しかし貴様は今日情報収集端末を持っていないんじゃない？」

「」

「あら、リサーチご苦労様。でもね、雄二と同じでこういうことには良く頭が回るのよ。」

まあ、本当は根本と小山が付き合ってることを知ってたからだけ。

「あ、ちょうどいい。先生もいたんですね。Bクラスは協定違反をしているようですけど、どうしますか？」

「つつ！今回はBクラス側に非があるので、Fクラスの戦死者メンバー三人の復活を認めます！」

「そうですか。なら文句はありません。それじゃあ。」

ふう。これはもうけたかな？ たった三人だけど、状況によっては結構大きかったりするのよね。

根本 side

くそつ、何なんだあの女は！ん？ そういえば高瀬野里という名前、ほかにもどこかで聞いたような……。……。！ そうか。くつくつくつく、こいつを盾にして今度はあいつを無力化してやる。待ってるよ！ 高瀬野里・音季！ 二人のお嬢様方！ くつくつくつく。

根本 side 終了

第六問 人質と卑怯者と根本の暗躍（後書き）

何か根本の言い回しが書いたときに思っていたよりダークという
かきざというか・・・まあ、別にこれでもいいん
ですけどね。なんかガラじゃないというか、サスペンス系になっ
ているような気がする・・・気のせい？

バカテスト 第七問 古典

次の文はある歴史的紀行文の冒頭です。作品の名前と作者を答えなさい。

「月日は百代の過客にして行きかう年もまた旅人なり。

船の上に生涯を浮かべ馬の口とらへて老いをむかうるものは、日々旅にして旅を住処とす。古人も多く旅に死せるあり。」

姫路瑞希の答え

「作品名 おくのほそ道 作者 松尾芭蕉」

教師のコメント

正解です。家庭科のときは度肝を抜かれましたが、どうやら、家庭科だけのようですね。

吉井明久の答え

「作品名 枕草子 作者 卑弥呼」

教師のコメント

君にしてはまともな答えですし、一生懸命答えようとしたことは分かりますが、卑弥呼の時代に和歌はありません。

坂本雄二の答え

「作品名 旅、旅ってうるさい！ 作者 死ぬ。」

教師のコメント

前の問題までの解答欄は空欄で、しかもよだれがたれていましたから、時間切れになってたまたま目に付いた問題だったんでしょうけど、自分の思っていることを書いては答えになりませんよ。

土屋康太の答え

「作品名 松尾芭蕉 作者 おくのほそ道」

教師のコメント

何が君のつぼを刺激したのか知りませんがよく覚えていましたね。ですが、作品名と作者の名前が逆です。普通に気がついてください。というか、保健体育以外まじめに答えたことの無い君がここまで答えに近づくなんて、何かあつたんですか？

島田美波の答え

「作品名 ￥ ー ???！ 作者 ￥ #！\$」

教師のコメント

パニックにでも陥ったのですか？珍しくドイツ語でも日本語でもなく地球外言語ですね。さすがに島田さんには古典はきつかったでしょう。早く日本になれる事が出来るといいですね。

木下秀吉の答え

「作品名 奥の細道 作者 松尾芭蕉」

教師のコメント

珍しいですねあなたが正解に近い答えを書くなんて。ですが、おくのほそ道の奥と細は漢字ではありません。これからは気をつけましょう。

高瀬野里・音季の答え

「作品名 曾良旅日記 作者 河合曾良」

教師のコメント

・・・まあ、良しとしましょう。ん？そういえばまじめな回答が増えているような気がしますね。

高瀬楊子の答え

「作品名 おくのほそっこい道 作者 松の尾羽の芭蕉箋」

教師のコメント

わけが分かりません。というかい加減自分たちの授業を受けてください。

高瀬佳乃子の答え

「作品名 てまえのひろ道 作者 梅頭馬鈴薯」

教師のコメント

あなたもまたわけの分からない答えを・・・・・・・・・・本当に自分たちの授業を受けてほしいものです。

第七問 仕返しと女装と誰かの制服

「よし、昨日言っていた作戦を実行するぞ。」

「あれ？でも開戦時刻はまだだよ？」

「BクラスじゃないCクラスのほうだ。どうやら、宣戦布告の準備自体はやめてないらしい。」

「あ、そうなんだ。」

ほんと、結局漁夫の利も狙ってるわけね。

「で、なにすんの。」

「秀吉にこれを着てもらおう」

といって雄二が取り出したのはうちの学校の制服。ただし女子の。

「つて、雄二！それどこで手に入れたの!？」

「わたしがポケットマネーで買い足したの。」

「なんだ。」

何でそこで落胆するかなあ。それにしても、こんな嘘つかせてどうしたいのかしら。え？嘘よ。雄二に頼まれたのよ、訳がわかんないけど。だから、あれは私が買い足したわけじゃないのよね。誰のなんだろ。

「別に言いのじゃが、それを来て何をするのじゃ？」

いや、そこは違和感を持ちなさいよね……………そんなだから女扱いされるのよ。

「Aクラスの使者を装ってもらおう。幸い、木下優子と瓜二つなんでな。」

「ああ、そういうことか。」

「むう、それならば仕方ないかのう。」

いや、だからって普通は女装なんてしないわよ……………

と、まあそんなこんなで、Cクラス前。

「じゃあ、たのんだぞ、秀吉。」

「わかっておる。姉上のまねをすればいいのじゃろう。」

「ああ、ただしくれぐれも試験召喚戦争の“準備をしている”と伝えるんだぞ。」

「わかっておるわ。」

まあ、秀吉だからね。大丈夫でしょ。

がらから

『静かになさい！この薄汚い豚共！』

……うわあ。

「（これ以上ない挑発ね。）」

「（まったくだ）」

「（もうなにもいわなくてもCクラスの敵意はAクラスにいつてるんじゃ……）」

まったく持つてそのとおり。

『な、なによあんた！』

この声は……小山ね。ああ、怒っている顔が浮かんでくるわね。

ああ、ちなみにこれで秀吉がひどい目にあうことはないわよ？わたしが優子をおど……こほん、ちゃんと本人に許可を取ってるから。それにしてもいきなり豚呼ばわりは……

『話しかけないで！豚臭いわ！』

「（自分から来たくせに豚臭いって、突っ込みどころ多すぎだよ）」

「（本当、秀吉つてすごいわね。）」

『アンタ、Aクラスの木下ね？ちょっと点数いいからって調子に乗ってんじゃないわよ！何の用よ！』

まあ、知名度は秀吉より優子のほうが高いからね。

『私はね、こんな臭くて醜い教室が同じ校内にあるなんて我慢ならないの！貴女達なんて豚小屋で十分だわ！』

『なっ！言うに事欠いて私達にはFクラスがお似合いですって！』

？』

べつにFクラスなんて言っていないのに……

『手が穢れてしまうから本当は嫌だけど、特別に今回は貴女達をふさわしい教室に送ってあげようかと思うの。』

演劇部ってここまで出来ないのだめなのかしら。

『ちようど試召戦争の準備もしているようだし、覚悟しておきなさい。近いうちに私達が薄汚い貴女達を始末してあげるから。』

そういい残して、秀吉は靴の音を立てて教室から出てきた。

背後からは小山さんの声。

『Fクラスなんて相手にしてられないわ！Aクラス戦の準備を始めるわよ！』

さすがね……何の疑いもなくAクラスの使者だと思っ
ちやうなんて。

「これで良かったのかのう。」

「おお、ばつちりだ。」

「じゃ、一回教室に戻りましょうか。」

「あ、そくだ忘れるところだったわ。皆、これ。」

「？腕輪？と、そういえば野里と音季に手紙だよ。」

「ん、ありがと。」

なにかしら？手紙を送ってくるような用事はなかったはずだけど……

「で、この腕輪はなんに使うんだ？」

つつ！何この写真！……あいつ……ばら撒かれたくなかつた

・捏造もいいとこの写真だけ……念話使えば問題ないわね。
ら入れ知恵するな、か。

「おいこの腕輪が何なのか教えてください」

「あ、ごめんごめん。それは、召喚獣の分身と、召喚フィールド
を作る腕輪よ。きちんと学園長に使用許可ももらってる。ただ、
今回の戦争では使わないようになって言われてる。なんでも、Bクラ

スの連中にはこれの存在を知られたくないんですって。一応、八つあるから。」

「ほう、そうか。ならとりあえずもらっておくか。」

「っていうか、誰が作ったの？」

「私」

「「「うそ！」」」

「そういえば、お前、昔よくへんてこな発明してたな。」
な！

「失礼な！へんてこじゃないわよ！大気圧を調べる装置と、空気検査用の装置なの！何度説明したら分かるのよ！」

「いや、んなこと何度も説明されてもなあ。」

あ、それもそっか。……でも、あやまるもんか。だって、へんてこなんて言わなくてもいいじゃないの。

「おゝい、野里？もどつてこゝい」

「……はっ！ごめん音李、ちょっとボーっとしてた。」

「まあ別にいいけど。」

とりあえず、試召戦争がんばりますか！

バカテスト 第八問 保健体育（前書き）

最近いろいろ忙しくて投稿ができなかった……まあ、気を取り直して再投稿です。

バカテスト 第八問 保健体育

陸上競技のリレーにおいて使われるスタート方法は二つありますが、スタンディングスタートともうひとつは何でしょう。

姫路瑞希の答え

「クラウチングスタート」

教師のコメント

そうですね。というか間違えようが無いはずですよ。いえ、ひよっとして吉井君なら珍回答を見せてくれるかもしれませんが。

吉井明久の答え

「タッチアンドゴー」

教師のコメント

それは飛行機が一度滑走路に着地して、そのまま止まらずに飛び立つことです。けっしてマラソンにおけるスタート方法ではないので気をつけてください。というかこちらのほうが知っている人は少ないはずなのですが………

坂本雄二の答え

「右ストレート」

教師のコメント

わからないからってパンチの種類を答えないでください。

土屋康太の答え

「クロウフィンガーステールド」

教師のコメント

何ですかその禍々しい名前は、うる覚えの中でイントネーションだけ思い出して、勝手に作ったんでしょうね。これから勝手に言葉を作ったりしないでください。

島田美波の答え

「crouchingstart」

教師のコメント

きちんと日本語で書いてください。

木下秀吉の答え

「クラウド」

教師のコメント

どこかの借金執事が出てくる漫画に出てきそうな名前を出さないでください。あの人は執事長です。と、書くようにと手紙がきました。クラウドなんて名前の人が出てくる漫画というのは気になりますね。手紙の差出人がいましたらぜひ教えてください。今度読んでみます。

高瀬野里・音季の答え

「クラウドイングスタート」

教師のコメント

確かに似てますね。でも、そんなスタート方法はないので。

高瀬楊子の答え

「クロール」

教師のコメント

それは泳ぎ方です………じゃなくて、いい加減自分の授業を受けるようにとしつこく言っているでしょう！

高瀬佳乃子の答え

「クロワッサン」

教師のコメント

それはパン！というかあなたも自分の授業を受けてください！

第八問 勝利と戦略とバカの取り柄

あれから、こっちの部隊はだんだんBクラスの部隊に押されて、状況が悪くなってきた。

「（先生、かつらずれてますよ）」

「！！！！す、すいません急用が出来たので、失礼！」

・・・・・・・・・・・・・・・・はあ。早速使ってる。何のために教師の隠し事を聞いてるんだろうと思っただけ。結局こういうことに使うのね。

「今のうちに、点数が削られてる人たちは、回復試験へ！そのほかの人たちは体制を立て直して！」

なんと！明久がまともな指示を出している・・・・・・・・・・・・・・・・。って違う違う！さっきだいたいぶ点数が削られたし・・・・・・・・回復試験でも受けようかな。

がらがら

「ん？なんだ、高瀬姉妹に明久か。脱走ならばくぞ」

「違うわよ。点数削られたから回復試験受けに来たの。」

「僕もちよつと違う。雄二に頼みたいことがあるんだ。」

あら？明久が雄二に頼みごとなんて、珍しいわね。

《音李、何があったか知ってる？》

《それって、野里の方が詳しいんじゃないあ・・・》

《今日はパソコンを家においてきたのよ。音李は一緒にいたんでしょ？》

ほんと、どうしてこういうタイミングで情報収集のツールを持ってないのかしらね。

《そっか。実はね、瑞希が落としたラブレター・・・ああ、こないだ練習とか言っでごまかしてたやつね。あれを、根本が拾ったみたいだね。》

《もういい、よく分かったから。》

《そ。じゃ、なにやるかは。》

《決まってる。》

そう、あとで根本の過去の恥ずかしいことを根掘り葉掘り調べ上げて全校に公表してあげよう。

「なんだ？」

「姫路さんを今回の戦争から外してほしいんだ。」

「ほう、理由は？」

「……………いえない。」

「……………なら、無理だ。」

まあ、それじゃあ雄二は納得しないわよね。よし！

「雄二、私達からもお願いするわ。」

「……………まあ、高瀬姉妹が言

うならいいだろう。何か考えがあるんだろうからな。」

「ありがとう雄二！それに野里、音李」

「ただし、条件がある。」

「条件？」

ただで、という訳には行かないわよね。

「ああ、この戦争で姫路がやるはずだったことを明久、お前がやれ。高瀬姉妹は手出しするなよ。」

「姫路さんがやるはずだったこと……………Bクラス代表への奇襲！？」

「そうだ。お前なら出来るだろ。いくらバカでも取り柄の一つぐらいはあるからな。」

ふふっこれなら明久でも任せられるでしょうね。

「がんばるのよ、明久。」

明久 side

僕の取り柄……………そうか！

「わかった。やってみるよ！雄二、野里、音季」
ガラガラガラ

「あれ？明久前線にいるんじゃないの？」

「そうだ！島田さん、少し協力してくれないかな。」

「ちよつと、私これから回復試験が………なんか真剣な話みたいね。分かったわ。ただし、これから私のことを“美波”って呼ぶのよ。」

「………分かった。それで協力してくれるなら。」

「あなたたち、本気ですか？何も今やらなくても………今僕たちは、Dクラスの教室にいる。」

「いいえ！こいつとは今！ここで決着をつけるんです！」

「よ、吉井君、あなたも島田さんを止めてください！」

「すみません、先生それは出来ません。一度戦うと決めたんです。絶対に決着をつけます。」

今、野里や音季、そして雄二が前線でがんばってくれているんだ！絶対に成功させる！

「………ふう仕方ありませんね。召喚を許可します。」

そして、召喚フィールドが展開される。

「試験召喚！（サモン！）」

キーワードを叫ぶと床にいつもの幾何学模様が現れて、デフォルトされた僕と島田さん……美波の召喚獣が出てくる。

「いつでも来なさい！」

「じゃあ遠慮なく！」

そして、僕の召喚獣がしま……美波の召喚獣に向かって突進していく。が、美波の召喚獣にかわされてあえなく壁に激突する。

ドオオオオン！

「くっまだまだ！」

「いつまでたつても無理なんじゃない？」

僕の召喚獣はもう一回立って美波の召喚獣に向かっていく。今度は、しっかりとあたった。でも、美波の召喚獣が持つてるサーベルに防がれてしまう。そして、そのままはじき返されて、また壁に激突する。

ドオオオオオン！

そして、また壁が盛大な音を上げる。

『何だよお前ら、入り口にわらわらと集まりやがって。暑苦しい。つーかさつきから壁がどんどんうるせえし。』

『へっ知るかよ！人望のないお前への嫌がらせじゃねえのか？』

『そんなに集まっても、勝てねえっつーの。』

『は？そんなのやってみなけりゃわかんないだろ。』

『そうか？頼みの綱の姫路さんは調子が悪いようだぞ？』

壁の向こうからそんなやり取りが聞こえる。そう、僕の狙いは美波との決闘の建前でDクラスとBクラスを隔てているこの壁を破壊すること。もっとも、僕の召喚獣が一方的に投げつけられてるようにはしか見えないから先生は気づいてないみたいだけど。

ドゴオオオオン！ ドガ！ ズゴオオオオオオン！

「あ、あの島田さん？さすがにやりすぎでは……」

「知らないわよ！そんなの私はこれでも気がすまないの！徹底的に痛めつけてやらないと！」

もちろん、これは演技。まあ、美波はいつもこんな感じだから、あんまり気にされてないけど。

『ああ？何だよお前ら。さっきまでの威勢はなんだったんだ？怖気づいたか？』

『んな分けないだろ。』

『じゃあ何で後退してんだよ。』

『さあな。』

ドゴオオオオオオン！ ドガ！ バキ！ ドツカーーーーーー
ーン！

もうすこし！っていうか、美波本当にストレス発散してるんじゃない。
・だんだん僕の召喚獣への攻撃がひどくなってるよ。
ピキピキピキ

ドーーーーー！

今までで一番盛大な音を上げて壁が崩れる。

「ちょ、島田さん、さすがにやりすぎですよ！壁が崩れるほどやるなんて！」

「な、なんだ！？」

「なんでもないわよ！決闘中に“たまたま”壁が壊れたの！」

「そんなのしらないわよ！とりあえず試験召喚！」

よし！近衛部隊が食いついた！

「へっ、決闘中に壁が壊れて敵クラスの近衛に叩きのめされる。

何とも無様じゃないか。」

なんて根本は言ってるけど、ほんとの目的はそこ、近衛部隊をひきつけること。

っと、話はそれるけど、教師にはそれぞれの特性がある。まあ、癖みたいなもの。

採点が早かったり、採点が遅い分甘かったり、まあそんな感じ。

で、いろいろいる中で、体育教師の特性。それは、

すたっ すたっ

クーラーが壊れたことよって涼を取り込むために開け放たれた窓から二つの影が入ってくる。ムツッリー二と体育教師。

そう、体育教師の特性、それは体育の教師であるがゆえの行動力の高さ。

「……Fクラス 土屋康太 保健体育勝負を申し込む 試験召喚」

「っつ！Bクラス 根本、試験召喚！」

そして、保健体育はムツッリー二の得意教科。その点数はBクラスをも超える。

「Fクラス 土屋康太 VS Bクラス 根本恭二
保健体育 441点 203点」

「なに!?!」

「・・・・・・・・・・・・・・・・加速」

ずざっ

そして、ムツツリー二の一撃によって

「Fクラス 土屋康太 VS Bクラス 根本恭二
保健体育 441点 0点」

Bクラス戦の勝敗はここに決した。

「それにしてもおぬしずいぶんと思いつたことをしたもんじや
のう。」

「そうよね。壁壊すなんて、下手したら退学じゃないの。」

まあ、その作戦を思いつかせたのは私なんだけど。

「うう、いたいよう・・・・・・・・・・・・・・・・」

「まあ、フィードバック覚悟で突っ込んだところは確かにカッコ
いいかもね。」

「でしょ!皆もつとほめてくれてもいいと思うんだ。」

・・・・・・・・・・・・・・・・そうねえ

「後先と自分の立場がどうなるかをさっぱり考えず、勇気とと
もに突っ込んでいくとても男気にあふれた決断ね。」

「遠まわしにバカって言うてるよね!」

「ま、それはいいとして、根本君?」

負け組み代表とのうれしはずかし戦後対談!何ちゃって。

「ああ、分かってるよ。引越しは明日だ。」

「そのことなんだがな、取引しようじゃないか。」

「は?」

「教室は入れ替えなくていいからお願いがあるって言うてるのよ。」

「まあ、食いつかないやつは居ないわよね。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

(高瀬、お前予備の制服とか持ってきてないか?)

(ひよっとして無くした?)

(そのとおりだ。というわけでいろいろお前にやっってもらおう。)

「どうしたんだ?条件とは何だ。」

・・・・・・・・・・・・・・・・保険は打っておかなきゃ
いけないわよね。

「・・・・・・・・・・・・・・・・Aクラスに宣戦布告に行ってもらおう。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・それだ
けか?」

「それだけじゃないわよ。こつから先は代表の趣味だけど「うお
い!」・・・・・・・・代表の趣味云々は置いて、あんたには女
子の制服を着ていってもらおうわ。」

うん、一応私の趣味だとは思われてないわよね・・・・・・・・
・・・・・・・・雄二には悪いけど。

「なっ!出来るわけないだろう!大体、俺は女子の制服なんて持
ってない!」

「大丈夫よ。ここにGPS発信機&遠隔式自爆装置付の制服があ
るから。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・特注品では?」

(つていうか高瀬、お前はいつもそんな制服を着てるのか?)

(遠隔式自爆装置は盗まれた時用なんだけどね。)

(すまんな、高いんだろう?)

(たかが10万円よ。)

(・・・・・・・・・・・・・・・・たかがといえる額じゃねえ)
私にとってはたかがなのよねえ。

「と、とにかく俺はそんなことはやら『Bクラス全員で必ずやら
せよう!』んぞ・・・・・・・・」

「おお、そうか。なら交渉成立だ。」

「なっ」

いつか絶対かかわり合いになりたくないわね。

明久side

お、あったあった。後はこの手紙を姫路さんのかばんに入れておけばいいんだ。根本の制服は……。野里と音李には悪いけど捨てちゃおう。根本には家まで女子の制服の着心地を楽しんでもらおう。

ぽいっ

……。あ、野里と音李、撮影会で弱みを握ったらすぐに自爆装置を作動させるって言ってたよっな……。ま、いつか。

明久side終了

第八問 勝利と戦略とバカの取り柄（後書き）

ここまで書いてきましたけど、なんだか主人公の性格がつかめないというか、書いている自分でもよく分からなくなりそうというか・・・

・・・自分で書いているから分からなくなりそうなのでしょうか？できれば、感想で書いてくれると嬉しいです。そのほかの、普通の感想も書いてくださると嬉しいです。これからもよろしくお願いします。

バカテスト 第九問 音楽（前書き）

投稿する前に気がついたので、どうもユーザーの方しか感想が
かけないように設定されていたみたいです。一応、誰でも感想を書
いていたできるように設定し直しました。もし、今までに書こうと
思ったけど書けなかったと言う方がいらっしゃいましたら申し訳あ
りません。

バカテスト 第九問 音楽

次の意味がある音楽記号の名前を書きなさい。

?特に強く ?ピアノニツシモよりさらに弱く ?中ぐらゐの速さで
?ゆつくり歩くような速さで

姫路瑞希の答え

「?スフォルツァンド ?ピアノニツシツシモ ?モデラート ?
アダンテ」

教師のコメント

正解です。相変わらず姫路さんは頭がいいですね。

吉井明久の答え

「?パワー ?ピアノニツトグレート ?ノーマル ?ウォーク」

教師のコメント

あなた、意味の文の中から連想して書いているのでは……………

坂本雄二の答え

「つれらさるれ」

教師のコメント

……………坂本君に何があつたか分かりませんが、無事を祈ります。

木下秀吉の答え

「?スフォルツァンド ?ピアノニツシツシモ ?モデラート ?

アンダンテ」

教師のコメント

演劇に少しでも関連していると結構解けてるんですよねえ。

土屋康太の答え

「?し ?ら ?ん ??」

教師のコメント

・・・・・・・・・・とくのがめんどくさかったのでは・・・・・・・・

島田美波の答え

「? ? ? ?」

教師のコメント

むう、急に日本語を理解しているような答えを書いたと思えば、わからなくて白紙のこともある・・・・・・・・・・島田さんはいっ
たい・・・・・・・・? ?

高瀬野里・音李の答え

「?スフォルツァンド ?ピアノツツシモ ?モデラート ?
アンダンテ(最近上手いねたが浮かびません。)」

教師のコメント

正解です。というか最後の質問は先生に振らないでください。

高瀬楊子・佳乃子の答え

「?いつちばん始めは一宮 ?にーいは日光の東照宮 ?さーん
は桜のしょうごろう」

?しーいは信濃の善光寺」

教師のコメント

だから自分の学年の授業に出席してください!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

第九問 作戦と自信とAクラス戦（前書き）

今日は微妙に調子が良かったです。なんて言ってますが、学生なので本来は夏休みの宿題に追われていなかったりします。執筆のために勉強をほっぽりだして丸々一日執筆中、なんてこともその割に更新が遅かったりするのですが。．．．．．よく考えたら自分、受験生です！と気がついて、というか思い出して、勉強をしています。あれ？何気に進んでいるじゃないかと。今まで、夏休みの宿題を完璧に出したこととかなかったもので、そこから考えて見るとなんと！とっても進んでいるんです！．．．．．あれ？何か話に関係ないほうにいつてるよ
うな気が．．．．．

第九問 作戦と自信とAクラス戦

あのあと、壁を破壊？した明久は先生方の親身なお話しを聞く羽目になつたらしい。でも……あれって明久が破壊したつてことになるのかしらねえ？ま、そんなことがあつたらしい。で、今は教室でAクラス戦に向けたミーティング中。

「まずは皆に礼を言わせてもらおう。ありがとう。お前たちの力がなければここまでくることが出来なかった。」

「な、なんだよ雄二、らしくもない。」

「らしくないつてのはひどいと思うけど。」

雄二つてば、こういうときははつきりと正しいと思ったことをしやべるのよね。たまに。

「ここまで来たからには、絶対にAクラスに勝つ！」

「……………おお……………!!!!!!」

「……………」

「そこで、だ。Aクラス戦は一騎打ちに持ち込もうと思う。」

「……………一騎打ち????????」

「一騎打ちなんてしなくても私と音季が居れば十分勝てると思うんだけど……っていうか瑞希が居る以上過剰戦力にもほどがあると思うくらいなのに……なんで一騎打ち？」

「代表！それは一体どういう？」

「一騎打ちは一騎打ちだ。おれとAクラス代表との一騎打ちだ。」

「なっ」

「無理だ！」

「勝てるわけがない！」

「雄二が勝てるわけじゃないじゃないか！」

雄二？一体何を考えて……

「内容はフィールド指定、日本史小学生レベルの制限あり1000点満点のテストだ。試召戦争はテストさえ使つてればどんなもので

もいいからな」

日本史!？」

「雄二!まさか、あんな小さな確立に賭けるつもりですか!？」

「そのまさかだ。」

『なんだ?』

『勝算があるのか?』

「……これじゃ勝算も何もあつたもんじゃないただの賭けじゃないの」

「……翔子は、一度覚えたことは忘れないのよ。だから今年主席の位置に居る。」

「そうだ。だが、今回はそれがあだになる。」

「ちよ、雄二それってどういうこと?」

ほんとに、あの問題に賭けるつもりなんだ……これは、確率の低い賭けみたいなものなんだけど。はあ

「……昔、一度だけ翔子に雄二が勉強を教えたことがあるの。」

「ああ。そのとき、大化の改新の年号を間違えて教えた。」

「明久でも答えられるのに、ね。」

「無事故の改新で645年。これを俺は625年と教えた。」

つて、なんで目をそらすのよ明久……まさか、間違えてたの!？」

『なにっ!つまり、Aクラス代表は確実に満点を逃すということか!?』

『なら代表が満点を取れば!』

「ああ、俺たちのちゃぶ台はAクラスのシステムデスクになる。」

「代表同士の一騎打ち?」

「ああ、そうだ。」

「……何をたくらんでるの?」

「別に何もたくらんでないわよ。」

「……………」
「そう。」

さすがAクラス代表の右腕ということだけではあるわね、抜け目がないわ。っていうか、双子なのに性格が違うのね。

「あなた達を基準にしないで。」

「じゃあ心を読まないでほしいわね。」

「読まれるような心をしてるあなたがいけないんじゃないかしら。」

「あなたの心も結構筒抜けだけどね。」

「なっ！いいじゃない、受けてたってやるわよ！一騎打ちをね！」

「……………」
「分かりやすいっ！？」

「ただし、お互い五人で一人ずつ一騎打ちをやっつていこうじゃない。」
「い。」

「五回戦式つてわけね。」

「ええ、一回戦は私とあなたでお願いね。」

「秀吉じゃなくていいのかしら？」

「秀吉よりもあなたのほうが頭にくるもの。」

「あ、やっぱりばれてたんだ。」

（なあ、明久、お前ははじめから高瀬に任せておけばよかったと思わないか？）

（……………珍しいね。確かに僕もそう思ってたところだよ。）

「……………ルールに追加。負けたほうは勝ったほうのいうこと一つを聞く。」

「代表!？」

「(まだ雄二のことあきらめてないの?)」

「……………(こくっ)」

これはまた……………ご愁傷様、雄二。

「いいだろう。その条件で勝負しよう。」

「なっ、雄二!？まだ姫路さんや野里たちの許可をもらってない

じゃないか！」

「は？なんで私達の許可が……」

「大丈夫だ。高瀬たちに迷惑はからん。」

「……ああ、あの噂を真に受けてるのね明久は。」

「ただし、もう一つ条件だ。勝負の科目はこちらで決めさせてもらう。そのくらいのハンデはあってもいいだろう。もしだめならそのままBクラス戦だな。」

「……いいわ。ただしそっちの選択権は三つ。残りの二つはこっちが持つわ。」

「こつちから言い出しておいて難んだけど、いいの？」

「あんなのが代表やってるクラスと戦うくらいなら……」

「ね」
「い、意外なところで根本がやくにたった……」

「じゃ、開戦は十時から。」

「ああ。交渉成立だ。」

「では、両名準備はよろしいですか？」

「ああ」

「……（こく）」

「それでは、これよりFクラスとAクラスの試験召喚戦争を始めます。」

さて、会場はAクラスを間借りさせてもらってるけど……正直私が勝っちゃえば雄二の出番はなくても勝てそうなのよねえ。っていうか、雄二は負けるだろうし。

「一回戦はどなたですか？」

「私が行くわ。」

「なら、私が行きましょうか。」

「あら、約束どおり来たのね。」

「テストに利き手は関係ない」

「勝者Aクラス斉藤鈴子」

「くつ、ごめん雄二。」

「別にいいさ。もともと信じてなんかいなかったんだから」

「な、なんだって!!!」

本気で驚いてるよ……………

(本気で驚いてるよ……………)

(おんなじ気分ね音李)

(おんなじ気分だね野里)

(……………はあ)

「……………次、保健体育」

「なら僕が行くよ。」

「Aクラス 工藤愛子 VS Fクラス ムツリーニ(土屋康

太)

「ムツリーニ君だけ?保健体育にずいぶん自信があるみたいだね。」

「……………そういうお前こそ。」

(ねえ、音李あの二人お似合いだと思わない?)

(思う思う……………データベースに登録したら?)

(そうしよう。)

ムツリーニの情報が追加された!……………キャラ
が違うわね。それならムツリーニの情報を入手した……………

・うん、これね。って私は何をやってるのかしら。

「そっか。じゃあ実技派と理論派、どっちが強いかな勝負だよ!」

「……………望むところ。」

「Aクラス 工藤愛子

341点

出てきた召喚獣は、大きな斧を持つてるわね。

「じゃあ、いくよ!バイバイムツリーニ君!」

「……………加速」

そして、ムツツリー二の召喚獣に向かってその斧を振り下ろす。
が、その斧は空振りする。

「・・・・・・・・・・・・・・・・無駄」

「なっ」

そのまま、ムツツリー二の召喚獣の短刀が工藤さんの召喚獣を突き刺して終了。あれ？あつけないわね。口先だけみたいね。召喚獣の扱いに慣れてないってところかしら。

「Fクラス 土屋康太」

563点

「前のときは本調子じゃなかったらしいわよ。」

「勝者Fクラス土屋康太」

「そんな、この僕が負けるなんて・・・・・・・・・・」

それは・・・・・・・・・・何とも微妙

な自信で・・・・・・・・まあ、勝てたから良しとしましょうか。

第九問 作戦と自信とAクラス戦（後書き）

PV49 / 000到達&ユニーク8 / 000到達！

野里&音季「突然ですが！」

佳乃子「というか、サブタイトルに書いてあるとおり」

楊子「PVが49 / 000に到達！&ユニークも8 / 000に到達しました」

野里「あ、佳乃子ねえに楊子、久しぶりだね。」

音季「そういえば、最近家でも会わないわよね。」

佳乃子「そうなのよ、なんでも作者がね、『自分で作ったキャラなのに性格がいまいちつかめないから、とりあえず、しばらくの間オリキャラは野里と音季の二人だけで行こう』なんて言ってるらしいのよ。」

野里「ってことは、ここに出てきてる佳乃子ねえや、楊子の性格は、変わる可能性ありって事なの？」

楊子「そうなんだってさ。何やってんだらうね、作者は」

作者「すみません、なんと言うか話を考えるのに手一杯で半分忘れかけてました。」

佳乃子&楊子「それってどういうことなのよ!!！」

野里&音季+作者「まあまあ(汗)」「+」「ひっ!(汗)」「

作者「と、とりあえず、二巻の辺りから出すつもりでいるんで、それまで待つてください。」

佳乃子「ふーん、ちゃんと考えてるんじゃない。」

楊子「なんていって、二巻のところが終わった時、あ！忘れてた！なんていわれたらかなわないわよ？」

音季「作者は忘れ癖があるからねえ。興味のあることでもこれなんだから、興味のないことだったらどれだけ忘れるのかしら？」

作者「………なんで自分で書いているキャラクターにぼろくそ言われてるんだらう?）」

野里「学校の成績はテストの点数とかなら4とか5が取れるのに、

バカテスト 第十問 雑学

春の七草を答えなさい

姫路瑞希の答え

「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ」

教師のコメント

正解です。雑学になると簡単すぎたりするんですね。

吉井明久の答え

「七草粥」

教師のコメント

それは、七草を使った料理の名前です。

坂本雄二

「しらん。」

教師のコメント

投げやりですね。

木下秀吉の答え

「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ、これぞ七草」

教師のコメント

国語の教科書でも読んだんですか？台本代わりに。

土屋康太の答え

「シリ、ブギョウ、スズシリ」

教師のコメント

真ん中のがよく分かりませんが、相変わらずスケベな答えですね。

島田美波の答え

「????????????????????」

教師のコメント

わざわざ？マークを書かなくてもいいですよ。

高瀬野里・音季の答え

「せる、なぞなぞ、ぶぎょう、はこぶな、ほとけさま、すずな、
鈴城」

教師のコメント

せる？セルではないでしょうか。あと、なぞなぞではなくなずな
です。ぶぎょう？ぶぎょうでは？はこぶなは、たぶんはこべらです。
ほとけさま……ほとけのぎですね。すずしろはわざ
わざ漢字を当てなくても……

高瀬佳乃子の答え

「これぞ七草」

教師のコメント

わざわざ他学年まで来て一体何がしたかったんですか！？

高瀬楊子の答え

「これぞ月鬼」

教師のコメント

さらにわけが分からなくなってる………月鬼？

第十問 戦争と敗戦と新担任

二対一でこっちのリードか。正直ここまでくるとは思ってたんだけど。

「二対一でFクラスのリードです。どうしますか？」

「僕が行きます。」

「それなら、私が行きます。」

「姫路さんか。でも、僕は負けないよ。」

「望むところです。」

お？瑞希が珍しく挑発的だ。

「教科はどうしますか？」

「総合科目で。」

「？総合科目では僕のほうが有利なはずだよ？なぜ総合科目を？」

「……………」

「Aクラス 久保利光 VS Fクラス 姫路瑞希

総合科目 3646点 4312点

「なっ！」

『4000点台だと！？』

『あの点数、学年主席に匹敵するぞ！』

「姫路さん、いつの間にそんな実力を……………」

そりゃそうよね。ちよつと前まで互角どころか勝っていた科目なんだから。

「……………私は、このクラスが好きです。みんなが、ふざけあって、笑いあっていて、坂本君や吉井君や野里ちゃんや音李ちゃんや、美波ちゃんの居るこのクラスが好きです！だから、だからがんばれたんです！好きな物や人たちのためなら、私はどれだけでもがんばれます！」

「……………」

そして、そのままお互いの召喚獣が切り結ぶ。勝負はその一瞬で

決まった。

「しよ、勝者Fクラス姫路瑞希！……………三対一でFクラスの勝利です！」

「ちよつと待ってください。まだ代表戦が残ってます。」

「ですが……………」

「いや、代表戦をやるさね。Fクラスのジャリどもの三勝は偶然に近い。代表戦で勝敗を決める。なに、勝っても負けても悪いようにはせんさ。特例だ、Fクラスが勝てばルールにのっとって教室の交換、Aクラスが勝てばFクラスは教室の設備のワンランクアップ。一応クラス単位では勝ってるからねえ。これでどうさね。」

……………学園長、何がしたいんですか？

「……………確かに、悪い話じゃない」

「まあ、そうだな。」

「なら、問題はないさね。この特別ルールで代表戦をする！」

「では、Fクラス対Aクラス代表戦科目はどうしますか？」

ここで、科目選択権が生きてくるんですね。まあ、あまり意味がないでしょうけど。

「科目は日本史、100点満点上限ありの限定テストで問題は小学生レベル。」

「な、小学生レベル！？」

「そんな問題、誰でも解けるぞ！？」

「集中力勝負ということか！」

Aクラスの人たちって鋭いのね。斉藤さんとか見てると信じられないけど。

「……………では、問題を用意する必要がありますね。」

二人は視聴覚室に移動しててください。」

「それでは日本史限定テスト上限あり100点満点小学生レベル勝負です。カンニング等不正行為が見られた場合は不戦敗とさせていただきます。よろしいですね」

お知らせ

えー、急にこんなことを書いて申し訳ありません。活動報告のほうにも書いたのですが、正直学生である自分には宿題を無視しきることとはできず……しばらく更新を中断することになりました。宿題が一段落するか、夏休みが終わるか（正直この理由が当てはまることはないと思います。）すれば、また更新を再開するのでそれまで待っていただけると嬉しいです。あと、本当に感想を書いてくださると嬉しいです。正直感想が少ないというのは自分の文に自信が持たなくなってしまうものですから……
……まあ、そういうわけですので、今後ともよろしくお願いします。

バカテスト 第十一問 国語(前書き)

や、やっと宿題がひと段落しました・・・・・・
と、いいつつ次話投稿です。何度も何度もあれですけど、感想、書
いていたけるとうれしいです。

バカテスト 第十一問 国語

次の漢字を書きなさい。 レモン、みかん、ろくろ、うなされる

姫路瑞希の答え

「檸檬 蜜柑 轆轤 麿される」

教師のコメント

さすがは姫路さんですね。最後の二つはかなり難しかったはずなんですけど。

吉井明久の答え

「れもねーど オレンジピューレ ろくろくび 悪夢につなされる」

教師のコメント

・・・・・・・・・・・・・・・・なんとはいいいのでしょうか。

坂本雄二の答え

「漢検1級のやつにでも聞け」

教師のコメント

いえ、これはテストですから。

木下秀吉の答え

「わからん」

教師のコメント

素直ですね。

土屋康太の答え

「……………エロが足りん」

教師のコメント

なぜそんなことで怒られなければいけないのですか……………

……………

島田美波の答え

「????????????」

教師のコメント

わざとやってませんか？

高瀬野里、音李の答え

「檸檬、未完、轆轤、魘される。」

教師のコメント

蜜柑だけはずしてきましたか。

高瀬佳乃子の答え

「れもん、ミカン、ロクロ、ウナサレル」

教師のコメント

カタカナとひらがなが逆になっただけですよね……………

……………本当に何がしたいんですか？

高瀬楊子の答え

「れもん、ミカン、ロクロ、ウナサレル、月兎」

教師のコメント

か、目的がさっぱり分かりません
あれ？月鬼？
一体何がしたいんだ

！」

(野里、ちよつといい?)

(音李?何かあったの?)

(月兔で怪しい動きがあるらしいの。詳しく調べて。)

(月兔で?佐崎原じゃあるまいし、勘違いじゃないの?)

(分からない。でも、念のために。あと、佳乃子ねえと楊子にも手伝ってもらうつもり。)

(ふーん。じゃ、奏子と和音にも手伝ってもらいましょう。香菜ねえたちは大学のほうだしあんまり手を出せないだろうから。)

(そうね、協力者は多いほうがいいわ。できれば佐知代ねえとかに手伝ってもらえると嬉しいんだけどね。やっぱり大学のほうだとかかわりにくいよね。大学の方はあんまり関係ないみたいだからじゃあ、念話で頼んどくわね。)

(まあ、何もないでしょうけど。)

(まあね。調べるのも念のためだし。)

「あ、戻ってきた。」

「……………月兔で怪しい動きあり、ねえ。」

何かの間違いだと思うけど。

「?野里ちゃん、どうかしたんですか?」

「へ?あ、なんでもないわよ?」

「そうですか?」

「うん、ありがとう。」

なんて話してたら、いつの間にか清涼祭の出し物についての話し合いになった。ふーん、美波と明久が実行委員なんだ……………あれ?……………

「……………明久、何をどうやったから中華喫茶の店名が(ヨーロッパ)になるの?写真館の名前も(秘密の覗き部屋)じゃ営業停止食らうわよ。っていうかウエディング喫茶が(人生の墓場)じゃ、ドン引きされるわよ?」

「……………え?」

「それじゃあ、クラスの出し物は中華喫茶ヨーロッパにします！全員協力するよつにー！」

「……………誰か違和感持てー……………」

「……………了解……………」

「じゃあ、とりあえず厨房班とホール班に分かれましょうか。厨房班は……アキの所、ホール班は……そうね野里と音季を班長にするからの二人のところに集まってちょうだい。」

なぜ、私達がホール班の班長に？

「じゃ、じゃあ私は厨房班に行きますね。」

「ちよつとまって、瑞希はホール班……………」

瑞希は絶対に厨房班に行つちやだめ……………」

「ふえ？そ、そうなんですか？」

「……………そうなの！（んだ！）（のじゃ！）……………」

「は、はい！それじゃあホール班でもがんばりますね！」

……………できれば、ホールだけでがんばって……………」

……………

こんなどたばたでいいのかしらね？

「アキ、野里、音季、ちよつといい？つて音季は？」

「なにかあるの？音季は今ちよつと用事があつていないんだけど。」

「ええ、とつても大事なことが。」

？大事なことつて何かしら……………」

……………

……………

……………

……………

「姫路さんが転校!？」

「そうなの。だから、試験召喚大会、だっけ?に出て見返そうって瑞希は言ってるんだけど、どうもそれだけじゃ、見返すのは無理そうなのよね。」

「?どういうこと?たぶん、瑞希の転校の理由は周りのレベルの低さよ?教室の設備はある程度改善されてるもの。」

ほかに理由があるわけじゃないでしょうに……………

「それがね、名前はよく覚えてないんだけどすごい名門の学校から勧誘、でいいのかな?まあ、とにかくそういうのがあるらしくて、親が乗り気なんだって。」

すごい名門?……………野々村かしら。あ、でもあそこは勧誘なんてしてないし、佐崎原?あそこの勧誘悪質だって有名だし……………って悪質な勧誘だったらもうとつくに言いくるめられて転校してるわよね。じゃ、岩崎?や、でもあそこはレベル低いしなあ。鈴村は、北海道だし、ありえないわよね。だとしたら、兎山学園都市内の学校か……………本校の上流科かしら?あ、でもあそこは名門って事はあまり知られてないし……………ほかに名門って言えるのは月兎学院と兎原幼年学校ね。さすがに幼年学校はないだろうから、月兎学院か。

(野里、ちよっといい?)

お、ナイスタイミング

(ええ、とうかちようど話したいことがあったのよ。)

(?、何?)

「野里?急に黙っちゃってどうしたの?」

(どうも、月兎学院で生徒の勧誘をやってるみたいなのよね。)

(って言うことはどうも私達に大きく関係してきちゃったみたいね。)

(!、そっちで何かつかめたの!?)

(ええ、楊子から聞いたんだけど、どうも学長が変わっちゃった

みたいなの。」

(「なんで？北村学長はまだまだ現役でしょう？」)

あの人はまだ30代じゃないの、なんで学長が変わるなんて事が

.....

「野里？お~~~~い！」

(「それが、西川ってやつが裏から手を回して学長になっちゃったらしいの。」)

(「.....一般の生徒に知れ渡ってるの？それ。」)

(「みたい.....」)

く評判悪いから)

まあ、北村学長はすごくいい人だったからね。裏から手を回すよ
うなやつの評判が言いわけしないでしようよ。それにしても、西川・
.....どこかで聞いたことあるわ。

(あと、その西川ってやつ、佐崎原女学院とつながりがあるって
言ってなかった？)

あ！そうだ、佐崎原で副理事長やってたやつだ！ってことは

(「そうよ！あいつ、佐崎原で副理事長やってたわ！」)

(「.....皆には伝えない方がいいわね。」)

「野里~~~~~？」

(「そうね、佳乃子ねえと楊子に頼んでおきましょう。向こうが裏
を使うならこっちも裏の権力を使うまでよ。」)

(「.....佳乃子ねえたちの場合は純粹な力で勝つと
思っけど。」)

(「.....」)

(「とりあえず、このことは皆には内緒って事で。」)

(「そうね。」)

「野里？お~~~~い？どうかした？」

「あ、ごめんごめん、ちょっとボーっとしてた。」

.....それにしても、おかしいわね。佐崎原の関係者
が勧誘を指示してるなら、なんで悪質なものじゃないのかしら？悪

質なものだつたら手段を選ばないから詐欺でも何でもしてもう転校させてるはずなのに……いや、月兎学院は私達が行つた女学院なら悪質な勧誘なんてしなくてもいいのか……ま、佳乃子ねえたちに任せておけばいいわよね。

「まあ、そんなわけだから、何とかしてその転校を阻止しなきゃいけないのよ。だから、坂本を引つ張り出せない？正直、あいつがないとまとまんないのよ。」

「や、べつにまとまらないのは関係ないんじゃない……」

「あるのよ。その勧誘をしてる学校より、こっちのほうがいいって証明しなきゃいけないから。」

……雄二を引つ張り出すのは大変そうねえ。

「あ、じゃあ僕にいい案があるよ」

明久が何か思いつくところくなことにならないんだけど……

……

バカテスト 第十二問 アンケート

清涼祭で最もしたいことは何ですか？

姫路瑞希の答え

「友達との思い出作り」

教師のコメント

青春ですねえ。先生も友達との思い出は大切にしていますよ。

吉井明久の答え

「転校の阻止」

教師のコメント

あなたは、アンケートでも珍回答を持ち出すんですね。

坂本雄二の答え

「婚姻届の奪取」

教師のコメント

ここにもわけのわからない人が居ました。というか、無理だと思
います。

木下秀吉の答え

「演劇」

教師のコメント

演劇部の出し物は演劇ですよ？

土屋康太の答え

「盗sax 写真撮影」

教師のコメント

とる写真は変わりませんよね……………

島田美波の答え

「告白」

教師のコメント

青春ですねえ。

高瀬野里・音季の答え

「友達との思い出作り（できれば、恋人探し）」

教師のコメント

ギャグなのか本当なのかわかりにくいことを書かないください！

高瀬佳乃子の答え

「妹たちにちょっかいを出す。」

教師のコメント

やめましょう、あなたがちょっかいを出すと周りにまで被害が出るのでとても迷惑です。

高瀬楊子の答え

「姉たちを困らせる」

教師のコメント

あなた方二人が言っているのが野里さんと音季さんの二人だけで

はないかと少し心配になってきました。
お姉さんを困らせてはいけませんよ？

一部設定資料&キャラ設定(佳乃子・楊子・奏子・和音)&追加設定(野里・音

高瀬佳乃子 18歳 月兔女学院高等部三年 文月学園三年
野里と音李の姉の一人。基本お調子者で、食事に睡眠薬を入れたりするのもこの人。高瀬家の中で一番はっちゃけた人物。

高瀬楊子 16歳 月兔女学院高等部一年 文月学園一年

野里と音李の妹の一人。こちらも基本お調子者で、目覚まし時計の破壊はこの人のしわざ。おそらく高瀬家の中で二番目にはっちゃけた人物。

高瀬奏子 15歳 月兔女学院中等部三年

高瀬家の中では案外常識があるほう。自然好きのおとなしい性格。目が非常に悪く、かなりの強いめがねをしている。このメガネを外されるとかなりのミリタリーマニアになってしまい、マシンガンを平気でぶっ放すかなり危ない人になる。メガネを外さなければ(入浴時は別)いい人だけにギャップが大きい。ちなみに、めがねが外れる主な原因は佳乃子と楊子にある。

高瀬和音 13歳 月兔女学院中等部一年

高瀬家の中で野里と音李に次ぐ常識人。とはいえ、佳乃子や楊子の目覚まし破壊や睡眠薬入り料理を普通だと思っているあたり、高瀬家の人間の中では、といったところが妥当だろう。それでも、佳乃子、楊子、奏子の三人と比べるとあまり変わったところはなく、三人のストッパー役とも言える。いままで一度も入ったことはないが、暴走のスイッチが入れば、かなり危ないことになると思われる。……あくまでも予想でしかないが。

野里&音李 追加設定

文月学園入学前は月兔女学院中等部に在籍、旧友？の翔子や雄二、姫路の入学する文月学園に入学するため中等部卒業後、高等部への進学はしていない。そのため、月兔女学院に学籍はなくなるのだが、中等部を主席卒業しているため名誉学生として在籍扱いになっている。（文月学園では普段実力を出さない。というより、出そうとしない。）小等部の時に、姫路と知り合う。（佳乃子や楊子のように姫路のいる学校にも通っていた。）

一部設定資料（全く違う設定になる可能性あり）

兔山学園都市 高レベル 所在地 千葉県

兔山学園本校 高レベル

女子部

一般科

上流科 一応名門

男子部

一般科

上流科 一応名門

兔山学園大学

兔山学園都市内月兔学院 名門

月兔女学院 超名門 & 超高レベル（学校内最下位生徒でも久

保利光級）の予定

月兔女学院大学

月兔学院大学

兔山学園都市内白兔学院 一般

兔山学園都市内雪兔学園 一般

兔山学園都市内兔原幼年学院 名門

野々村学院 名門 姉妹校 野々原学院 名門 所在地 東京都

佐崎原女学園 名門 悪質な勧誘で有名（黙認状態・理由不明）

所在地 群馬県

鈴村学園 名門（高レベル） 所在地 北海道

岩崎学院 名門（低レベル） 所在地 神奈川県

姉妹の在籍学校

千葉県兔山市兔山学園都市内月兔女学院

小等部

中等部

高等部

月兔女学院大学

月兔女学院大学院

完全エスカレーター式

第十二問 取引と侵入と協力者？

さて、私は今、なぜか明久と一緒に女子更衣室に侵入していたりして。あ、侵入してるのは明久だけなんだけど。で、疑問が一つ。……

「やあ、偶然だね雄二。」

「雄二？こんなところで何してるのかしら？場合によっては西村先生に来てもらわなきゃいけないし。」

「ちよつとまで！これには深刻な理由が「どんな理由？」……

・翔子から隠れてる。」

ああ………隠れる場所間違えてるんじゃない？

「雄二、それなら男子更衣室に隠れたほうがいいんじゃないの？」

「私もそう思うけど？」

「………あいつは男子更衣室だろうとかまわず入ってきそうだ。」

「「ああ。」」

………ほんとにご愁傷様。

「ところで、こんなところに何のようだ？明久。高瀬は……

・まあ、明久と同じ用事なんだろうな。」

「あ、そのことなんだけどさ、ちよつと話してもらいたい人がいるんだ。」

そういつて、明久は携帯を操作する。

「あ、うん。そうなんだ、お願い。」

「なんだ？」

「はい。」

そして、その携帯を雄二に渡す。

「もしもし？ああ、島田かどうした？」

『あ、坂本？ちよつと待っててね。今かわるから。』

雄二は携帯で話し始めた。

『・・・・・・・・雄二、今どこ？』

「人違いです。」

即座に人違いだと否定して電話を切る。つて、即座に否定できるところがすごい。

「明久、高瀬、どういうつもりだ？」

「私は知らないわよ。明久が勝手に考えたんだもの。」

「ちよ、野里！？見捨てないで!？」

・・・・・・・・どっちにしても明久だけがひどい目にあうと思うんだけど。

『ちよつと、誰かいるの?』がちゃ

「「「「「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」」」」」

「「やばい！にげるよ(ぞ)！雄二(明久)！」」

「なつ！吉井に坂本!？あんたたち女子更衣室で何してんのよ！えーつと、弁解しておいてあげたほうがいいのかしら？」

「西村先生！変態がいます!・・・・・・・・あ、高瀬さん大丈夫だった?」

・・・・・・・・無理みたいね。完璧に勘違いされてる。・・・・ま、大丈夫でしょ。

『なに!どこのどいつだ!』

「吉井と坂本です!」

『まあたあいつらかあああああああ!!!!!!!!!!!!!!!今度こそにがさんぞおおおお!!!!!!!!!!!!!!!』

叫びながら(むしろ雄たけびね。)雄二たちを追いかけて行く西村先生(明久たちいわく鉄人)。ご愁傷様。というよりもご冥福をお祈りいたします。まあ、あの二人のことだから逃げおおせるでしょうけど。

あのあと、私は散々被害者扱いされて正直気まずかった。明久た

ちは……………

「「つ、つかれた。」」

とまあ、このとおり。

「誰のせいだと思ってるんだよ。」

「お前のせいだろ。」

「……………言い合うことまでいつもどおり。」

「被害者にされて気まずかった私の気持ちも考えてね。」

「……………」

なんでそこでドン引きするかなあ。冗談なのに。

「で、結局何のようだったんだ？明久。」

「ああ、それなら私が説明するわ。」

説明中

「なんだ、それならダイスキな姫路に転校してほしくないから手
伝ってくれと明久が言えば素直に手伝ったのになあ。」

「な、そんなんじゃ！」

「ないって、断言できるのかしら？」

「でき（サイコキネシスで明久の頭を締め付ける。）る……………」

・わけありません！すいませんでした！」

……………そういえば最近念話しか使ってないよう

な気がする。今度、なまってるのか特訓してみようかな。

「あ、明久？いきなり謝りだすとは一体どうした？とうとう壊れ
たか？」

「ちがうよ！野里が超能力で頭を（もう一度頭を締め付ける。）

なんでもない。」

「ああ、明久あまり人を怒らせんほうがいいぞ？」

「もうおそいよ！？」

「何か言ったかしら？雄二。」

「……………何も言っていないぞ？」

その前の間はなんなのよ。

「よし、そうと決まったら早速準備だ！」
あ、はぐらかした。

「ところで、島田は翔子と仲が良かったのか？」

「……………(野里、僕からは言えない。)」

「(それはなに、つまり私が言えと?)」

「……………はい)」

なんか、いいように使われてるわよね、私。

「?どうしたんだ？」

「最初に一つだけ言っておくわ。このことを言い出したのは明久よ?」

「は?」

な!野里の裏切り者っ!

裏切るも何も味方した覚えがないわよ。

「あれは、翔子の声まねをした秀吉なの。」

「明久、目をつぶって歯を食いしばれ。」

「絶対に嫌だ——————」

「ほう、ということは勧誘先の名門校よりこっちのほうがいい設備だと思ってもらわなくちゃいけないわけだ。」

「そうなのよ。まあ、机と椅子は問題ないんだけどね。教室自体がぼろだから。」

「そうになると、学園長に相談するしかねえか。」

「……………むう、研究費を1億くらい提供したら協力してくれるかしら?」

「……………高瀬、金で何とかしようとするなよ?」

「……………じゃあ、どうやってあの学園長の重い腰を動かすのよ。」

「なるようになれだ。」

「……………心配になってきた)」

わい(わ(「「「「

っていうか、雄二ってこんない加減なやつだったっけ？やると決めたことはとことんやるやつだったと（高瀬、何か隠してるだろう。）（・・・）こいつ洞察力だけは高いのよね。

（いいけど、明久たちには聞こえてないでしょうね。）

（お前が隠し事をしてるんだ、理由があることくらいは分かる。）（・・・）そのセリフを翔子に言っただけばいいのに。

（・・・）はあ。まあいいわ。説明するわよ。）

またまた説明中

（つまり、勧誘のほうはお前の姉妹が通ってる学校から来てるやつだから、お前の姉妹が協力して潰してくれるということか。）

（まあ、瑞希の親が転校するって決めちゃ意味がないから、学園長との取引もしてもらおうよ？）

（ああ、分かってるさ。）

「とりあえず、準備をしてってくれ。俺は学園長のところに行く。明久、高瀬、一緒に来い。」

学園長室前

「・・・と・・・その・・・う・・・ふ・・・いは・・・いじ」と・・・ね。」

「・・・ね、・・・ふぐ・・・話、・・・きい・・・ぞ」

「（話中みたいよ？後にしたら？）」

「（いや、学園長は中にいるって事だろ？無駄足にならなくてすんだ。）」

な、何よその思考回路

コンコン「しつれいしまーす！」

「こらっ！返事を待たずに扉を開けるな！」

「なんだい、失礼なジャリどもだね。すこしはそっちの穢ちゃんを見習ったらどうなんだい」

「学園長、そっちの穰ちゃんというのは、いささか失礼だと思えますが？仮にもこの学園に出資してくださっているスポンサーなんですよ？」

「教頭は少し黙ってな」

「……竹原教頭、か。みかけはいい人だけど、裏で何かたくらんでるって情報が入ってたわね。」

「それなら、私はこの辺で失礼しますよ。」

「それがいいと思うよ。このジャリどもの相手は疲れそうだからねえ。」

「……後できつちり話をさせてもらいますからね？」

「まるで穰ちゃんみたいなことを言うじゃないか。」

穰ちゃんって言うのはさすがにやめてほしいんだけどね。この機会に言っておこうかしら。

バタン。

あれやこれやと考えてるうちに教頭先生はいなくなっていた。

「で、なんのようさね。」

「学園長、教室の設備の向上をお願いしに来ました。」

「むりだね。それは、うちの方針だ。あん時みたいに私から言い出さん限りは変える気はないよ。(しかし、ちょうどいいタイミングさね。)」

まあ、そりゃそうでしょうね。

「なら、スポンサーの野里が頼んだらどうなるの？」

「かわらんさ。もっとも、穰ちゃんはそんなことはいわんדרらうがね。」

「そりゃそうよ。この学園の方針なのに、融通を利かせるわけには行かないわよ。」

「なら、教室事態の改修はしてもらえないでしょうか？あれではいつ風邪をひいてもおかしくないのです。学園長としては、生徒に風邪を惹かれては困るのではないでしょうか。」

おお！雄二が礼儀正しく接している！？

「無理さね。この学園の方針だと言ってるだろう。と、言いたいところだが、かわいい教え子の頼みだからね。聞いてやらんこともないよ。」

「……………何を企んでいらっしやるんでしょうか、頭の中が研究のことですばいで生徒のことまで考えの回らない老衰が始まるうという年齢の学園長。」

「（の、野里がさりげなくすごいこと言ってるよ!?）」

「（ありゃ、相当頭にきてるな。）」

聞こえてるわよ、明久、雄二。

「……………アンタは相変わらず年上を敬う気がないねえ。まあいいさ、交換条件だ。資金さえそろえれば新校舎並みに改修してもいいさ。かわりに、こつちから頼みがある。」

「いいでしょう。で、頼みというのは何でしょうか？学園長」

「（礼儀正しい野里も始めてみた……………）」

「（いや、あれで上流階級の社交パーティーなんかにも出てるんだぞ？礼儀くらいはわきまえてるだろう……………頭に」と関係なくなるみたいだが。）」

交換条件、ねえ。なにかしら？白金の腕輪の回収とか？あれは、不具合が見つかったとか言う情報があつたし。

「不具合が見つかった白金の腕輪の回収、ですか？」

「……………あんたの情報網はどれだけ広がってるんだい？」

「世界中、です。ひよつとしたら世界の壁も越えてるかもしれませんけど。」

「まあ、いいさ。そのとおりだよ、試験召喚大会に出て白金の腕輪を回収してくるんだよ。ああ、そうだ。ついででいいから如月八イランドとやらのペアチケットも回収しちまいな。あれもいいうわさは無いからね。」

あれ？これって……………

「あの、学園長？これってたしか、私が技術提供した腕輪なんじ

や……………」

「あ、あの渡されたけど結局使わなかったあれ？」

「……………それを少しいじくったのさ。分身を作るやつは、最大6つまで出せるようにしたんだよ。正確には使用者の得点が5人に反映されるってやつなんだがね。もう一つのフィールドを作るやつは教科を自由に選べるようにしたんだがね、不具合が出たんだよ。」

……………あのシステムを正確にいじくれるのはたぶん私達二人をのぞくと姉さんたちか妹たちくらいなのよね。それを学園長たちがいじくったって事は……………」

「一定の点数を超えると爆発しちまうのさ。フィールド作成だと……………大体平均点くらい、点数のコピーは400点くらいまでは耐えられたはずだけどね。」

「ってことは、明久が出るのは確定ですか。」

「……………フィールド作成をするにやああのジャリでないとできんからね。というか、そっちのジャリどもにも出てもらうつもりだよ。アンタは総合が400どころか50000近いからね。」

「ということなんだけど、大丈夫？雄二、明久。」

「それはいいんだがな、学園長。頼みがあるんだが。」

……………雄二も感づいたみたいね。

「なんだい？一応聞いてやるよ。」

「対戦表が決まったらその科目の指定を俺たちにやらせてもらいたいんだが。」

「ふむ、それくらいならいいさね。点数の水増しとかだったら一蹴してやったとこだが。で、ここまでしてやるんだ。優勝できるんだろうね？」

「まかせとけ！」

はあ。こういうときだけは息がぴったりなんだから。

バカテスト 第十三問 英語

次の英単語の意味を答えなさい

? Causality ? Darkness

姫路瑞希の答え

「? 因果律 ? 暗黒」

教師のコメント

そうですね。因果律はあまり使われないので答えられなくても特に問題はありません。

吉井明久の答え

「? キャウサリテイ ? ダルクンエツス」

教師のコメント

読みをきいているわけではありません。あと、読みも全く違います。

坂本雄二の答え

「? 因縁 ? 漆黒」

教師のコメント

おや? 何とも珍しく、惜しい答えが出てきましたね。

土屋康太の答え

「? ?」

教師のコメント

相変わらず興味のないことになるかと白紙回答なんですね。

木下秀吉の答え

「?クザリテイ ?ダークネス」

教師のコメント

吉井君にも言いましたが、読みは聞いていませんよ?

島田美波の答え

「?? ??」

教師のコメント

どうせなら白紙で出してください。

高瀬野里 & 音李の答え

「?因縁 ?漆黑」

教師のコメント

おや?どこかで見たことがある答えですね。
. あ、坂本君の答案ですか。まさか、坂本君はカンニングをしたのですか?

高瀬佳乃子の答え

「?因果律法 ?暗黒騎士」

教師のコメント

一体何がしたいのですか?というか、テストの日以外に学校で見かけることがないのでありますが一体どこで何をしているのですか?

高瀬楊子の答え

「？因縁律法　？漆黒の騎士」

教師のコメント

そういえば、あなたもテストの日以外は学校で見かけることがないですね。

バカテスト 第十三問 英語（後書き）

はい、少し一気に投稿しました。今日は少し調子が良いです。いや
〜早めに宿題が終わっているというのは気持ちが良いです。いやは
や、もはや何度になるかもよくわかりませんが夏休みの宿題なんて
ものはほとんどぎりぎりになってからやっていたので。これはやつ
ぱりすがすがしい。そして、すがすがしいと筆が進む……
……わけではありませんでした。すがすがしいものですから、
しばらく忘れてました、執筆を。というわけで、まあこうやって調
子のいい日に書いてるわけですが、やっぱり感想が少ない……
……あまり上手な文章ではないかもしれませんが、感想を
書いてくださるとうれしいです。はい。くどいですけど。感想が少
ないのは悲しいような気がします。まあ、お気に入りに登録してく
ださっている方はそこそこいらっしやるようなのでできれば感想も
書いてくださると嬉しいです。って、これ本当にくどいですね。自
分で書いててなんですけど。ま、とりあえず今後ともよろしくお願
いします。

第十三問 中華と机と殺人料理”改”

「しっかし、坂本っていつもはバカに見えるのにこういうときは頼もしいわよね。」

「うん。いつもはバカなのにね。」

「そういう明久もバカだと思っけど。」

「聞こえてるからね!? 野里!」

「ありや、声に出してたか。まあ、今は清涼祭初日早朝。あの設備以外はボロボロだったこの教室も今は立派な中華喫茶になっていた。」

「それにしても、こんな豪華な机どうやって準備したの? 雄二。」

「あ、それ私たちが用意したのよ?」

「まあ、野里と一緒にいつつもバカばかりやってるから。学力以外で役に立ったことがないなあ。つておもつてさ。」

「……………は?」
「……………」
「……………」

なんかよくわかんないけど教室中が凍った。

「そ、それだけの理由でこんな高そうなテーブル用意できるんですか?」

「高そうって、一つたかだか100万くらいよ?」

「……………あんたの金銭感覚おかしいよ!」
「……………」

「しょうがないじゃない。家の親は1000兆円オーバーの出費ですらたかだかで済ますんだから。」

たとえば、最近なら7030兆6000万円で太平洋のど真ん中に人工島を建設するとか言ってた気がする。なんでも、別荘にするんだとか。(ちなみに、いちいちパスポート使うのめんどくさいしとかいう理由で日本の領地として世界的に認めてもらうためにさらに9000兆円の出費をしている。あれ?これって賄賂じゃね?と

思った方。問題ありません。領有権を買い取ったそうです。国連から。現実でこんなことができるのかは知りません。勝手な設定です。BY作者)

「道理で金銭感覚が狂ってるわけだ。生活は一般庶民なのに。」

「いや、生活も一般庶民とはかけ離れてるんじゃないかなあ。暇だったら新薬の開発とか新技術の模索とかあとマネジメントとか土日なんかはうちの会社で総帥代理やらされてるし。あ、株と為替もやってるわね。」

「……まあ、今ここでそんなこと言わなくてもいいんじゃないかな？」

「で、このテーブルの説明をしてくれない？すごく気になるんだけど。」

あー、なんとというかこれ言うともた突っ込まれそうなんだけどなあ。まあ、いや。

「このテーブルは完全ガラス製で、イギリス王室御用達のガラス職人(これまた、勝手な設定であって現実とは関係ありません。まあ、勘違いする人はいないだろうけど)とあえず書いてみた。by 作者)にオーダーメイドで作ってもらった一品物で、ここにある全30のテーブルすべてが一つ一つ違う装飾が施されてるの。だから、ここにあるテーブルすべてが世界に一つしかない超高級品よ。その辺の好事家に売れば1億円くらいは出してもらえると思うわ。よかったら終わった後もらっていてもいいわよ。」

……自分で言ってるわ。恵以母さん、普通のでいいっていったのに何でこんなものにしたのよ。いや、母さんの感覚からしてこれが普通なのか。

「……飲茶も完璧。」

「うわっ！いつからいたの？ムツツリーニ！」

「いや、うわっはないでしょ。明久。」

それが友人に対する言葉なのかしら？

「……味見用。」

差し出されるゴマ団子と………フカヒレスープ？

「おい、ムッツリーニどこでこんな高いもん仕入れたんだ？」

「………VIPカード。ちなみにフカヒレの質は最高級。」

「あれ？まだ使えたんだ。そろそろ有効期限が切れるから更新しなきゃいけないのよ。はい、新しいカード。」

「いや、そんなにポンポン発行していいのか？」

「いいのよ。月に9京8000兆円単位で出費してるくせに、80京円もの収入があるのは家くらいだから。（われながら単位がすごいことになっている。by作者）っていうか、今回作者コメント多くない？（字の分突っ込んで）だめ！by作者）もういいよ！」

「大丈夫よ。そのカードは世界で25枚しかないから。あ、そうそう、これは明久たちの分。」

「へ？いいの？」

「うん。25枚の中に入ってるから。」

「っていうかぶっちゃけ数百枚あるうが特に関係なかったりするんだけど。」

「むう、そうなのか。」

「で、土屋これうちらが食べちゃっていいの？」

「………（コクリ）」

「相変わらず康太は物静か………じゃない気配を消してるのね。」

なんとなく明久saido

ムッツリーニがうなずくのと同時に野里、音季、姫路さん、美波、秀吉が手を伸ばしてほかほかのゴマ団子を手に取り勢いよく頬張る。うん、甘いものに目がないところはやっぱり五人とも女の子なんだなあ。

「わしは男じゃ！」

「どうしたの？秀吉。いきなり叫んだりして。」

「む、よくわからんがこういわないかんような気がしてのう。」
なんてことを秀吉たちが言っただけど気にしないでおう。

「それにしても、おいしいです。」
「そうね。」

「「そうだよね。」」

五人とも目がとろんとしている。そんなにおいしかったんだ。

「それじゃあ僕もいただきま〜す。」

「……………(コクリ)」

そういつて、残ったゴマ団子を一つ手に取り頬張る。

「ふむ、表面はゴリゴリでありながら中はねばねば、甘すぎず逆に辛すぎる味わいがとつても……………んごぼっ」

明久saido終了

野里saido

なんか、とつてもへんてこな擬音を出して明久が倒れた。

「おお、それはさつき姫路が作ったものじゃな。」

「……………(ぐいぐい)」

「ムツツリーニ!?どうして僕にそれを食べさせようとするの!」
「?」

「……………(ぐいぐい)」

「だからなんで!?僕にはそれは無理だよ!」

……………確かにね。走馬灯が見れそんな特殊な飲

茶だもの。一般人は決して食べちゃいけないわ。一般人は、ね。

「ん?おいしいそうだな。どれどれ」

「おぬし、すごいおう。」

「雄二、僕には君が今すごく輝いて見えるよ」

「?お前らが何を言ってるのかはさっぱりわからんが　ふむ、

外はゴリゴリ中はネバナバ、甘すぎず辛すぎる味わいがとつても……………

……………んごぼっ」

あーなんか既視感を感じるわね。

《雄二、それは姫路さんの料理よ？まさかひどい事なんていわないわよね。》

すると雄二が床に突っ伏したまま答えた。

「ふっ大丈夫だ。あの川を渡ればいいのだろう？」

「ちよつだめよ雄二！その川はきつと三途の川だから！」

まさかたつたの一口で致命傷になるなんて……
今度瑞希に料理を教えてあげたほうがいいかしら？

「あれ？坂本はどうかしたの？」

「あ、本当です坂本君はどうかしたんですか？」

「あ、あはははきつと足がつつたんだよ。」

「へー、坂本ってよく足がつるのね。」

あ、まずい。前とおんなじような状況になったから美波が不審に思ってる。さっさと起こさなきゃ。

「雄二、おきなさい！」

「おーい雄二？おきろー。」

雄二を起こすように声をかけながら明久と一緒に心臓マッサージをする。（翔子、ごめんなさい。今度きつとおんなじことができるだろうから気を落とさないでね。）

「なに！？六万だと？三途の川の渡し賃は六文だと相場が決まっているだろう！　はっ！」

あ、おきた。

「雄二？足がつつたんだよね？」

《姫路さんのお手製料理で。》

「あ、ああ。足がつつたんだ。」

「それにしても、坂本ってよく足がつるの？これでもかかってくらいに鍛えてると思うんだけど。」

「ん？い、いやだからこそ筋肉が筋張ってよくつるんだと思うぞ？」

「いや、医学的観点から言わせてもらうけど、筋肉は筋張っていいしっかりし　もごもご」

あ、しまった。つい突っ込んでしまった。

「野里？勘違いだよな？」

「ご、ごめん。勘違いだった。」

「そうなの？」

「うん。」

あ、あぶなかった！

《ごめん、明久。ほんとのこと知ってるもんだからつい、つい・

・

《まあ、その気持ちはよくわかるんだけどね。》

「あれ？筋肉が筋張ってるのはあまり関係ないと思うんですけど・

・

「い、いやそんなことないよ！ほら、美波だって胸がよくつるか

ら　ぐべあー！」

自爆したわね。《自爆したな。》《自爆したのう。》

「あ、ところで坂本はどこに行ってたの？」

「あ、ちよつと話し合いにな。」

雄二にしては歯切れの悪い返答。というのも、ちよつど対戦表の科目指定をしてきたところだもの。そんなこと言えるわけないわよね。

「そうなんですか？お疲れ様です。」

・

かりそうで怖いわね。

「それで、喫茶店の準備はどうなんだ？」

「・

「そうか。」

「あ、そうだ。瑞希、どうも瑞希の料理は私たち以外の口には合わないから、今日はホールに専念してくれる？」

っていつか、そうしてもらわないと食中毒騒ぎが出て営業停止なんてことになるから困るんだけど・

「？そうなんですか。じゃあ、終わってから皆さんの口に合うよ

うな料理を作れるように教えてもらえないでしょうか？」

「う、うん。いいわよ。でも、まず一つ忠告。瑞希は絶対に隠し味を入れないこと。瑞希の隠し味は折角おいしそうなのにびっくり料理にしちゃってるから。」

でもまあ、これでまともな喫茶店にできそっね。

お知らせ2

えーまたお知らせです。こう何度もお知らせするのも悪いと思うのですが、書かせてもらいます。実は、受験生ということ受験が終わるまでの間パソコンの使用を禁止されてしまいました。したがって、更新も出来なくなってしまいます。楽しみにしてください。いたかがたがには悪いのですが、来年まで待つていただけるとうれしいです。というわけで、来年、合格の知らせと一緒に帰ってこれたらいいなと思います。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・どうしよう、文字数が足りない・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・あ、何かアイデアがありましたら、感想のほうで知らせてください。感想を見るのも来年になる可能性があります。何かいいものがあつたら採用したいと思えます。

バカテスト 第十四問 アンケート（前書き）

えーパソコンの使用は来年まで無理だとお知らせしたのですが、勉強関係で使うのならという条件で許可が出ました。で、少し目を盗んで、ストックしてた話を投稿しました。これからも時たま投稿するかもしれませんが、今までよりは遅くなると思います。・・・まあ、受験を優先するんで、当然といえば当然なんですけど。

バカテスト 第十四問 アンケート

清涼祭の準備で、もっとも大変だったことを答えてください。

姫路瑞希の答え

「隠し味にする硫酸や酢酸を手に入れること。」

教師のコメント

さ、再発ですか、食中毒を起こさないよう気をつけてくださいね。
(主にクラスの皆さん。)

吉井明久の答え

「姫路さんの強烈な料理を食べさせられたこと。(二度と思い出したくなかった。)」

教師のコメント

す、すみません。先生は始めてあなたの解答をまともだと思いました。

坂本雄二の答え

「テーブルを手に入れるために奔走したこと。(結局手に入らず、高瀬姉妹にとてつもなく高いテーブルを用意してもらったことになった。)

教師のコメント

ああ、あの二人が用意したのですか。あのテーブルは。道理で一般生徒では手に入らないような豪華なものになったわけです。

木下秀吉の答え

)」

教師のコメント

ああ、あなたのお母さんがあれを用意したのですか。いや、今度新しく学園の応接室に入れる机や椅子ですが、あなた方に用意してもらえませんか？

高瀬野里&音季の返答

それなら、今度寄付という形で用意させてもらいます。今後とも高瀬グループをごひいきに。

学園長のコメント

……あなたたち、抜け目がないねえ。しかも、ちゃっかり宣伝までしていきおった。

高瀬佳乃子&楊子の答え

「母の暴走を止めること。(結局とんでもなく高いテーブルを買っていた。)」

教師のコメント

いつも高瀬さんたちを困らせているあなたたちすら困らせるとは。なんとというかあなた方のお母様はとんでもない方なのですな。

第十四問 開戦と妨害と危険な交渉術（前書き）

そういえば、感想も増えてませんね。感想を読む程度なら毎日（私が忘れていなければ）出来そうなので、感想、よろしくお願います。・・・あれ？何回目だろうか、これを言うのは・・・あ、くどかったらすいません。

第十四回 開戦と妨害と危険な交渉術

明久 saido

「まあ、とりあえずがんばっていてくれ。俺たちはこれから召喚大会の一回戦を済ませてくる。」

「あれ？坂本たちも召喚大会に出るの？
確認するように僕に目を向けてくる美波。」

「それって賞品が目的だったりするの？」

「ん？一応そういうことになるのかな？」

「だ、誰と行くんですか？」

ほえ？

「ペアチケットです！誰と行くんですか？」

「え？あ、えつと」

「翔子にあげるのよね。」

「そ、そう。霧島さんに上げるんだ！ほしがってたから、二枚とも。」

な、ナイスフォローー野里！

「な！までこらてめえ！そのせいで俺が翔子と遊園地に行くはめになってもいいってのか！」

「いいんじゃないですか？翔子ちゃん坂本君のことが好きなんですし。」

………本当にあげてもいいかもなあ。

「つて、時間がないよ雄二！」

「なつ、くそつ明久！ほんとに翔子に渡したりしたら許さんからな！」

「大丈夫だよ！野里に渡しておくから！」

「余計心配だぞつ！」

「それでは試験召喚大会第一回戦を始めます。」

「がんばろうね、節子」

「うん！良子もがんばろうね！」

校庭に作られた特設ステージ。そこで試験召喚大会は開催される。

「三回戦までは一般公開はありませんので、リラックスして大丈夫ですよ。」

担当は数学の木内先生。当然教科は数学になる。

「では、召喚してください」

「「試験召喚！」」

相手の二人が呼び声を上げるとお馴染みの魔方陣がっつて、この説明初めてするような気がする。まあいいや、お馴染みの魔方陣が現れてデフォルメされた召喚獣が現れる。

「Bクラス 鈴木節子&佐々田良子

175点 & 165点」

むっ、さすがBクラス。点数が高い。

「おい、明久。ボーっとしてないで召喚するぞ。」

「あ、うん。」

「「試験召喚！」」

「Fクラス 坂本雄二&吉井明久

178点 & 68点」

そして、デフォルメされて出てくる、僕らの召喚獣。僕の召喚獣は相変わらずってこれもまた始めて言う気がするけど。相変わらず改造制服に木刀。そして、かつて神童とまで謳われたわれらが代表坂本雄二の召喚獣は

「「素手？」」

敵のBクラスの女の子たちときれいにはもった疑問。そう、なぜか素手だった。

「バカ、よくみる。」

「「メリケンサックう！？」」

またまた、はもりながら驚く。なぜにメリケンサック。まさか木刀以下の装備があるうとは……………

「何で僕より成績がよかったはずの雄二の装備がこんな雑魚なのさ!?!」

「知らん。」

「「「ええっ!」」」

「これまたきれいにはもる。じゃなくて!

「雄二のバカ!そんな装備で勝てるわけないじゃないか!」

「大丈夫だ。ここに、学園長から正式な使用許可の出ている特殊な腕輪がある。」

「「それって反則じゃない!」」

「反則はありません。」

「「「おいっ!」」」

「これはさすがに全員で突っ込む。」

「まあいい。それでだなこいつは」

「「「(ごくり)」」」

《こいつは、高瀬姉妹に作ってもらった物だな。何でも召喚獣の武器を自由に変更出来るそうだ。》

「へーそうなんだ。」

「「「ちよ!私たちにも聞こえるように言っつてよ!気になるじゃない!」」」

「「「「.....あ、たしかに。」」」」

「「まあいい、起動アウエイクン!変更!約束された(エクス)

「「「ちよ!それいろんな意味でやばいわよ!」」」

「勝利の剣カリバー!」

雄二が叫んだ瞬間、雄二の持っていたメリケンサックが、某アニメに出てくる最強の剣に変わった。

「さらに!起動アウエイクン!対象設定!対象を吉井明久に設定、対象設定完了!変更!刺し穿つ(ゲイ)

「「「だからそれもやばいって!」」」

死棘の槍ホルグ!」

そして、今度は僕が持っていた木刀が、これまた某アニメに出てくる（ゲームもあったっけ。）最強の槍（だっただけ？）に変わった。っていうか、雄二がノリノリでしゃべってるんだけど。（しかも、よく考えるとあってるかどうかすらわからないし。）

「よし！行くぞ明久！」

「わかった！せーの！」

「「約束された（エクス）《刺し穿つ（ゲイ）》

」

「わ、ちょ突っ込んでる場合じゃなかったわ！」

「そうだった、ってどうすりゃいいのよ！」

「「勝利の剣《死棘の槍》^{カリバー}！！」

瞬間、僕たちの武器が輝いて（あれ？こんなにいいんだらうか？）敵の召喚獣が消え去った。え！？消え去った！？

「……高瀬姉妹め、性格まで変わるように設計しやがったな。」

「道理で雄二らしくないと思ったよ。」

《《佳乃子ねえたちが勝手にいじくったのよ！しかも、プロテクトまでかけて！》》

「……すまん。」

「ところで、さ」

「「……なんか、さすがにあっけなさすぎない？」「」「」

「まあ、とりあえず一勝だね。」

「ああ。だが、この腕輪は使わんようにしよう。」

「……そうだね。」

そんなことを話していると秀吉が走ってきた。

「雄二、明久！そんなところで歩いとらんで急いで戻ってきてほしいのじゃー！」

「？何かあったの？」

「営業妨害か？」

「むっ、……………そうじゃの、あれは営業妨害で間違いないじゃろう。」

「……………学園祭の喫茶店程度で営業妨害なんて出るんだろうか？」

「で、相手は。」

「うちの学園の三年、じゃな。」

「高瀬姉妹にかかればなんともなさそうな連中なんだが。」

「ちよつど召喚大会に行ってしまったので。」

「あ、そつか。」

野里と音季にはほかの優勝候補に対する対策として、召喚大会に出てもらってるんだった。

「まあ、そういうことなら、雄二が行けば大丈夫でしょ。」

「ほれ、ついたぞい。」

『なんだこりゃあ！壁紙でごまかしただけじゃねえか。』

『うお！まじだぞ！きつたねえ！』

……………あほだ。壁紙はがしたら汚い

なんてよくあることじゃないか。

『でも、壁紙は汚い壁を隠すためにあるんでしょ？何が悪いの？』

『そうだよなあ。っていうか、これ営業妨害じゃね？警察に通報

したほうがいいんじゃないか。』

「……………あほだ。」

「……………ああ、あほだ。」

「……………あほじゃのう。」

それってさ、むしろうちの店をほめてるよね。

「……………お客様、当店の設備に何かご不満がおりますでしょうか。」

「ああ！大有りだな！なんだよの壁は！きつたねえじゃねえゴベア！」

「なにすんだてめえ！」

「ちっ、今日はこの辺にしといてやるよ!」

．．．．．悪役だ。しかもはったりで逃げていく、超雑魚の下っ端。

「ご利用中のお客様、お騒がせして大変申し訳ありませんでした。今後、このようなことの無いよう、注意させていただきますので、よろしくおねがいたします。」「」

．．．．．これ、本当に雄二たちなのかなあ？

野里 saido

ふう、つかれた。．．．．．それにしても、あほだつたわね。

「あれ？壁紙張り替えてるの？」

「．．．．．とてつもなくあほな理由ではがされちゃったからね。」

なんか本当にあほらしくなってきたわ。

「ふーん。」

「ところで、姫路さん達はどつだつた？召喚大会。」

「もちろん、勝ったわよ。」

はあ．．．．．このまま妨害が無いといいなあ。

イラスト2

しばらくぶり？です。最近スランプ気味なので投稿できてません（受験のせいもありますけど。）まあ、そんな中親の目をはばかりイラスト第二段です。

とりあえずオリキャラ佳乃子&楊子です。……そういえばまだ本編に出てきてませんね。

> i 1 5 3 4 6 | 1 2 8 2 <

次はオリキャラ香奈。こっちは、名前しか出てきてませんね。しかも一回。

> i 1 5 3 4 7 | 1 2 8 2 <

で、次が奏子です。これは、設定くらいは出てたと思う。……
……と信じたい。

> i 1 5 3 4 9 | 1 2 8 2 <

次に千沙登。これも一回名前が出てきただけですね。（というか名前だけのキャラが多い汗）

> i 1 5 3 4 8 | 1 2 8 2 <

最後にオリ主野里です。

> i 1 5 3 5 1 | 1 2 8 2 <

というわけで、年明け・・・というか受験終了までは新しい投稿はできなさそうになりました・・・いや、執筆をしている暇がありません。こんな状態ですが、今後ともよろしくお願いします。

バカテスト 第十五問 世界史(前書き)

受験も終わって戻ってきました。まあ、このバカテストは受験前に書いてあった話なんですけど。活動報告のほうでも書きましたが、東北大震災、大変ですね。とりあえず自分は愛知県在住ですし、どちらかといえれば内陸なので、今回は無事です。今一番心配なのは原発の放射能漏れと、東海・東南海地震ですかね？インドネシア・中国と来て東北、しかも最近では岐阜・長野でも地震がありますし、さっきの静岡の地震ではこちらも(震度2・・・だったかな?)揺れましたから。しかも、家の場合は父が会社員、母がパートで、自分はいずれから高校。妹2人は中学校と小学校に、といった感じで平日の日中は全員がばらばらになってしまうのでことさら心配です。まあ、ここでそんなことぐだぐだ言っても仕方ないのですが。とりあえず、気を取り直してしばらくぶりの投稿です！

バカテスト 第十五問 世界史

第二次世界大戦の終戦につながった直接的な理由を答えなさい。

姫路瑞希の答え

「ポツダム宣言が出され、これを日本側が受け入れたことにより終戦となった。」

教師のコメント

正解です。この戦争で日本は敗戦国となり、沖縄と北海道の一部をそれぞれアメリカとロシアに占領されました。

吉井明久の答え

「ベルサイユ条約」

教師のコメント

それは関係ありません。

坂本雄二の答え

「ポツダム宣言」

教師のコメント

おや？珍しく正答しましたね。

木下秀吉の答え

教師のコメント

空欄はやめましょうよ・・・・・・・・・・・・・・・・

土屋康太の答え

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

教師のコメント

いや、なぜ点が打ってあるんですか？

島田美波の答え

「・・・・・・・・」

教師のコメント

すみません。ドイツ語ができる先生がいないもので・・・・・・・・

高瀬野里 & 音季の答え

「ポツダム宣言 この宣言を日本側が受諾したことにより第二次世界大戦は終戦した。三国同盟の中で日本は最後まで戦い続けた国である。この宣言により、日本が戦争をする危険性の無い平和な国になるまでという条件でアメリカが本土および沖縄を、ロシアが北方領土を占領した。この宣言に従いアメリカはまず本土の占領を解除その後、沖縄を返還したが、ロシアはいまだに返還しておらず、今現在も北方領土の返還問題は根強く残っている。」

教師のコメント

く、詳しいですね。

高瀬佳乃子の答え

「ポツダム宣言」

教師のコメント

さつさと自分の学年に帰ってください。

高瀬楊子の答え

「ポット戦線」

教師のコメント

それはむしろ戦争が続いてますよね!?

バカテスト 第十五問 世界史(後書き)

ちなみに知らないうちにPVが135,000に到達してますね・
・・・・・ユニークの方も22,000になってますし・・・
確か、最後確認したときはPV50,000のユニーク8,000
位だったと思うんですけど・・・正直ここまで読んでくださる方
がいるとは思いませんでした。ありがとうございます。では、最後
にご意見・感想があるようでしたら、どんどん書き込んでください。

(お手柔らかに) (それでもいいの!? by 野里&音李)

第十五問 明久と試召大会と悪役再登場（前書き）

これも受験前に書いたものです。いつになるか分かりませんが、次からがこれから新しく書く話になりますね。

第十五回 明久と試召大会と悪役再登場

明久 saido

「で、二回戦の相手は誰なの？」

ぼくたちはしゃべりながら特設ステージに入っていく。

「根本と小山のペアだ。」

え？あの二人？

「よ、吉井に坂本？お前らが相手なのか！？」

「？Fクラスのバカコンビが相手なんだし楽勝でしょ？根本君。なんかいらつとくるよ。まあ、間違っちゃいないんだけど。」

「それでは、試験召喚大会二回戦を始めます。召喚してください。」

「……試験召喚」

その場にいる四人の召喚獣が現れる。

「英語W Bクラス&Cクラス 根本恭二&小山友香

199点 163点」

さすがは……地……の分に突っ込まれたよ。
ラスの代表だ。

「うおー！」

……地……の分に突っ込まれたよ。

「英語W Fクラス×2 吉井明久&坂本雄二

55点 69点」

まあ、ぼくたちは英語は特に得意でもないし、雄二も手をつけてないからそんなに点数がいいわけでもない。でも、ここは小細工がきくからそんなに大変でもない。

「雄二、例のものは？」

あのときに取った根本の写真集「生まれ変わった私を見て！」

「ぬおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

おおおおお！！！！！」

そう！これはBクラス戦のときにとった根本の女装写真集だ。

「さあ、根本この写真をばら撒かれなくなかったら。」

「明久、違うぞ。そのCクラス代表だか根元の彼女、いやもうどっちでも良いが、電光掲示板を見る。」

(高瀬、写真を電光掲示板に表示しろ。)

(了解、表示まで 10・・・9・・・8・・・7)

(雄二、さすがにそれは酷すぎない?)

(あれだけ痛めつけられたんだ。別に良いだろう。高瀬も個人的な恨みがあるらしいしな。)

(?)

野里たちの個人的な恨みってのはよくわからないけど、まあ、別にいいってことなのかな?

「?なによ・・・」

そして、小山さんが見た先に写っていたのは、女装した根元の写真だった。

「根本君・・・あなたにはこんな趣味があったのですか・・・」

「先生!？」

「さあ、小山、降参すればこの写真の続きをたか・・・じゃなくてTNN商会(高瀬・野里・音季の三つの頭文字をとってTNN by 作者)から無料で譲り受けられるぞ?」

ちなみに、TNN商会っていうのはムツツリ商会と提携している商会で、経営者は知られていない。ここは、先生ですら利用しているというかなり大きな商会だ。ある先生は不良生徒の情報を、ある先生は科学技術の提供を(ババアかな?)、またある先生は、戦死者情報の提供を(って、鉄人しかないじゃないか。)受けているらしい。僕たちも写真なんかを手に入れてもらったり売ってもらったりするんだけど、なぜか霧島さん、姫路さん、美波、野里、音季、秀吉の写真だけは手に入らない。ここだけはやっぱりムツツリ商会

に頼まないといけないんだけど、それでも野里と音季の写真は手に入らない。ってこんなこと考えてる場合じゃない。

「な！？坂本、お前は鬼か！？」

さすがに、これはぼくも同情するかな。救いの手は差し伸べないけど。

「わかったわ。私たちの負けよ。」

「じゃあ、遠藤先生、俺たちの勝ちということよ。」

「あ、はい。坂本・吉井ペアの勝利です。ところで、その写真集は先生に譲っていただけませんか？教員会議の議題にしますよ。」
しかも、すぐさまTNN商会の担当者（この人も誰が経営しているかは知らない。）が写真集を持ってきた。こうして、根本の写真集は小山さんの手に渡った。

『・・・・・・・・・・・・・・・・別れましょう。』

『ちよ、ちよっと待ってくれ！これには事情が！』

後ろから聞こえてきた会話は聞こえなかったことにしよう。それにしても、人の気持ちを弄ぶ悪者には天罰が下るっていうのはやっぱり本当なんだろうか？

野里 saido

「うわあ、見事に満席だね。」

ん？この間の抜けた声は・・・・・・・・・・・・・・・・

「明久、召喚大会はどうだったの？」

「いや、野里は知ってるでしょ？」

「知らないわよ？っていうか雄二は？」（もし何か口走ったら社会的に抹殺するわよ？）

「あ、そ、そうだよ。あははははははははははははははは。雄二はトイレだよ。ところでこの大盛況ぶりは一体？」

そういえば、何でこんなに繁盛してるのかしら？

『たくさん、……いるんだが。』

否定できない……

『えっと、すっごくバカなお兄ちゃんでした!』

『吉井だな。』

「ねえ!ちよつと何それ!どうして瞬間的に僕の名前が出るのさ!」

瞬間的に僕の名前を出すなんて失礼にもほどがある!

明久 saido 終了

野里 saido

『吉井だな。』

「ねえ!ちよつと何それ!どうして瞬間的に僕の名前が出るのさ!」

……なんかまたバカやつてるみたいね。

「そりゃ、お前が馬鹿だからだろ。」

「何だと雄二!お前も成績はそんなに変わらないくせに!」

「いや、成績の話をしてるんじゃないんだが……」

「雄二は、思考回路の話してるのよ。」

「へ?で、でも、僕に小さい女の子の知り合いなんて……」
その答えが出てくる時点で馬鹿ですって自白してるようなもんな

んだけど……気づいてないのかしら。

「あー!バカなお兄ちゃんです!」

「知り合いなんて?」

「居ないと……いいなあ」

……本当に馬鹿ね。

「えっと、たぶん葉月ちゃんよね。」

「あ!優しいお姉さんです!」

「ああ、やっぱり。で、どうしたの？」

「はい！バカなお兄ちゃんに会いにきたです！」

「へ？・・・」

明久、その沈黙は何？・・・

「ひよつとして・・・覚えてないの？明久」

「・・・あー、うん。」

「え？・・・お兄ちゃん、覚えてないって酷い・・・」

あ、

「バカなお兄ちゃんのバカ！バカなお兄ちゃんに会いたくて『バカなお兄ちゃん知りませんか』ってバカなお兄さんたちに聞きながら来たのに！覚えてないなんて酷い！バカなお兄ちゃんのバカ！」

1、2、3、4、5、6、7・・・七回もバカって
言ってるよ・・・しかもこの一言だけで・・・

「あー、えつと、バカなお兄ちゃんがバカでごめんね？」

「なんでそうなるの!？」

ちなみに三回戦は明久たちの不戦勝だった。なんでも食中毒を起
こしたとか・・・うちのクラスのハズレ料理（瑞希
製）を引いたわけではないことを信じたい。

第十五問 明久と試召大会と悪役再登場（後書き）

なんか中途半端な気がしますけど、とりあえず第十五問終了です。

バカテスト 第十六問 アンケート

今回の清涼祭に向ける意気込みを教えてください。

吉井明久の答え

「絶対阻止！」

教師のコメント

何をですか！？

姫路瑞希の答え

「がんばりますっ！ ぼそっ（今年こそは明久君に……………）」

教師のコメント

どういうわけか口頭で回答をいただきました。頑張るのはいいことですが……………最後に何か言いませんでしたか？

木下秀吉の答え

「のう、いったいどうしたらわしは男だと認めてもらえるのじゃろうか……………？」

教師のコメント

ここはお悩み相談板ではありません。

坂本雄二の答え

「……………自由を勝ち取るにはどうしたらいいのだろうか？」

教師のコメント

あなたもお悩み相談ですか．．．．．というかあなたはいつも自由ですよ？

霧島翔子の答え

「．．．．．雄二。映画、見に行く。大丈夫。つまらないなら寝てていい。（バチバチ）スタンガンがなる音」

「まてっ、翔子それは寝るといふんじゃない！気絶だ！ぐっ（びりびり）スタンガンを当てられる音。」

教師のコメント

ボイスレコーダーでの回答でした。．．．．．坂本君、すいませんでした。先生は、重要なことを見落としていたようです。

島田美波の答え

「E i n a b s o l u t e r S c h e c k」

教師のコメント

訳：絶対阻止．．．．．あなたもですか。そもそも何を？

土屋康太の答え

「．．．．．っ！シャッターチャンス」

教師のコメント

．．．．．せめて法には触れないようにしてください。

高瀬野里&音季の答え

「姉さんたち．．．．．大人しくしてくれればいいんだけど．．．．．」

教師のコメント

第十六回 楊子と佳乃子と敵情視察

さて、葉月ちゃんの登場で明久の記憶能力が微妙に危ないことを確認した私たち。

「むう、確かに明久はバカじゃしろう・・・許してやってくれんか？」

「でもでも、バカなお兄ちゃん、葉月と結婚の約束までしたのに・・・」

「・・・美波」

「分かってる。楊子」

え？楊子？

「「殺る（わ）よ！！」」

「「ごぶあくぺらっ！」」

美波にバツクドロップを決められた瞬間に楊子に関節技を決められ、明久はヘンテコな叫び声を上げた。っていうか楊子、やっぱり来てたんだ。

「ちよつとまって！結婚の約束なんてしてないよ！？」

「ふええええん、酷いですー！！ファーストキスマまであげたのにー！」

「・・・野里姉え、チエーンソー出してくれないかな？」

「野里、こつちには包丁をちょうだい？たぶんにじゅ・・・10本もあれば足りるから。」

「お願いひまふっ！はなひを聞いてくraisai！っていうかひま20本って言うおうとひたよね！」

「あわわ（オロオロ）」

大泣きする葉月ちゃんに、美波と楊子に折檻されている明久、オロオロしている瑞希、・・・何このカオス

「仕方ないわね、何本か刺したら話を聞いてあげるから我慢しなさい」

「そうだね、頭と体が泣き別れになったら話を聞いてあげるよ？」
「ちよつ、まって！包丁って一本でも刺さったら致命傷だよつ！
ていうか頭と体が泣き分かれてもう死んでるよね!?」

「大丈夫、楊子は遊んでるだけだから。」

「ええっ！これが遊び!?」（本気で殺されるっ！っていうかチ
エーンソー男!?）

佳乃子姉えまで出てきた……………もう、
逃げていいかな？

「あ、お姉ちゃん。遊びに来たよっ!」

と葉月ちゃんが美波を見て涙を止める。

「ああ！あのとときのぬいぐるみの子か!」

はあ、遅いよ。もっと早く気づけばこのカオス状態もなかったの
に。

「ぬいぐるみの子じゃないです！葉月ですっ」

「っていうか私は?」

「そっか、葉月ちゃんと、誰だっけ?」

あ、地雷踏んだ。

「ね、野里姉え、やっぱりチエーンソーちょうだい?」

「とりあえず落ちて着「やだ」こ…・言い終わってないわよ。」

「（野里姉え?野里のことだよね?どっかで聞いたことあるよう
な）」

「だって音李姉えがこういう場面で言うこと大抵それだもん。」

「（野里姉えと音李姉え「音李の事かな?」…・にチエーンソ

ー?）あああああああああ!?!あのとときの忍者!?!」

「忍者じゃなくて、楊子って言うんだけど…」

明久が、左手に握った右手を当てて（つまるところそうだ!と言
わんばかりに）して、なぞの言葉を口走る。（ついでに楊子は墓穴
を掘る。）ベツニカノコネエガオコルノガコワイワケジャナイヨ?
「楊子?」

野・音・楊（（びくっ!佳乃子姉えが…・キレた?）（

「（な、なんだろうこの悪寒は、どこかで感じたことがあるような気が、いや、気のせいってことにしておこう。うん。それがいい。ナンドカイヤナヨカンガスルカラ）」

「（な、なんか、危ない雰囲気・・・）ってというか？アキと葉月って知り合いだったの？」

「うん、去年ちよつとね。・・・あれ？（た、助かった。）」

美波、ナイスタイミング！

「？、どうかしたの？」

「あ、いや美波こそ、葉月ちゃんの事知ってるの？」

やっぱり、明久は真正銘のバカね。おかげで佳乃子姉えの矛盾もそれるだろうし。

「知ってるも何も、葉月はウチの妹だもの。」

「へ？」

明久は葉月ちゃんの顔をまじまじと見つめ

「と、ところで、野里たちも楊子ちゃんの事知ってるの？」

ごまかすように話題を変えた。

「妹だもの。ってというか、水色の髪の毛なんて私たち姉妹くらいしかないんだから、普通気がつくでしょうに。というか明久が楊子の事知ってるほうが驚きなんだけど。楊子隠れるの特意だし。」

「ねー。ナニガアツタノカナ？」 これ佳乃子姉えです。ここ重要。間違っても私や音季や楊子なんかじゃないのであしからず。言わなくても分かってくれるだろうけど。

「ナ、ナンデモナイデスヨ？スコシオセワニツタクライデス。」

「何で片言なのかは気になるけど。まあ、そのうちワカルワヨネ？ヨウコ。」

「！！！！（コクコクコク！）」

あー、久しぶりに見たかもしれない。コワレタ佳乃子姉え。

「ところで、この異様なまでの客の多さは何だ？」

「そういえば葉月、ここに来る途中でいろいろな話を聞いたよ？」

「・・・どんな話だ？」

「えつとね、中華喫茶は汚いから行かないほうがいい、とか、そんなことはない！あそこは天国だ！至福の空間だ！って。」

それ、片方は常夏コンビね。まだ妨害しようとしてるわけか。

「ふむ、例の連中の妨害が続いている、と。」

「んでもって、家の店のお客さんが、それは違うと言い出して、」

「大論争になり、結果客が増えた、といったところか？」

「なら、常夏コンビをシバキ倒して中華喫茶応援派の評価を上げるとするか。」

「それがいいわね。」

まあ、多分に私情が入ってるけど。

「じゃあ、みんなで行くか。チビツ子、その話をどこで聞いたか分かるか？」

「えつとですね、短いスカートを穿いた綺麗なお姉さんがいつぱいいる店」

「・・・・・・何っ！」「何だって！？」「何だと！」

「雄二！これはすぐ向かわないと！」

「そうだな！我がクラスの成功のために（低いアングルから）綿密に調査しないと！」

「・・・・・・とりあえず、みんな一緒に」

「・・・・・・最っ低！」「」「」「」

雄・心の声（とりあえず、高瀬たちの罵倒が気にならないほどには、俺の心は躍っていた。少なくとも、このときは。）

明・心の声（野里たちの罵倒なんて気にならないほどに、僕の心は躍っていた。雄二も同じだというのは多少心外だけど。）

~~~~~

「明久、ここはやめよう」

「ここまで来て何言ってるのさ！」

「頼む！ここだけは、Aクラスだけは勘弁してくれ！」

明久と雄二はAクラスの前で論争していた。明久たちにとっての桃源郷はFクラスの宿敵（あくまでもクラスの。ここ重要）Aクラスに【メイド喫茶 『ご主人様とおよび！』】という名前で存在していた。普通、ご主人様と呼ぶのはメイドのほうよね？なんで侍メイドがご主人様と呼ばれるのかしら？・・・いや、家にメイドさんが大勢いるから気にしなかったけど、そもそもメイド喫茶って・・・優子、よく許可したわね。（ちなみに男子は執事服だった。某不幸な借金執事みたいなデザインだった。）

「そっか。ここって坂本の大好きな霧島さんのいるクラスだもんね。」

雄二は相変わらず妙な抵抗をしている。

「雄二？これは敵情視察よ？あれだけ意気込んでいたのだから、敵前逃亡はしないでしよう？」

「・・・！！（パシャパシャパシャパシャ！）」  
変な音が聞こえるから見てみると、指が擦り切れんばかりにシャッターを切っているクラスメイトが一人。

「・・・ムツツリーニ？」

「・・・人違い。」

どこからどう見てもムツツリーニなんだけど？

「何をどう見ても土屋でしょうが。アンタ、何してるの？」

「・・・敵情視察」

最近の敵情視察はまた、ずいぶんと変な方法を探るのね。

「ムツツリーニ、ダメじゃないか。盗撮とか、そんなことしたら撮られている女の子が可哀想だと」「・・・一枚百円」2ダー  
つ・・・可哀想だと思わないのかい？」

明久は注文しそうになった。（ド クエ風）

「・・・ちっ。そろそろ当番だから戻る。」

ムツツリーニは、舌打ちをして帰っていった。（ド クエ風）

「まったく、ムツツリーニにも困ったもんだね。」

「・・・そうね。まあ、とりあえず入るわよ？」

私が一番手で扉をくぐる。

「・・・お帰りなさいませ、姫様方。」

「・・・何故に!?」「」「」

入った瞬間、翔子に出迎えられる。ついでに、私と音季、楊子に佳乃子姉えはなぜかお姫様にされた。・・・なんで？

「お邪魔します。」

次に明久と瑞希、美波が入ってくる。

「お帰りなさいませ、主人様、お嬢様」

「・・・チツ」

雄二もしぶしぶ入ってきて、

「・・・おかえりなさいませ。今夜は返しません。ダーリン」

かなりアレンジされた出迎えを受けた。

(ダツ) 雄二が逃げる音

(ガツ) 雄二が捕まる音

(ガチャツ) 雄二がいすに固定される音

「お席にご案内いたします。」

そして、何事もなかったかのように私たちは雄二が固定されているいすのあるテーブルに通された。

「・・・大胆ね。」

「・・・はわぁ」

「(もしこれが、佳乃子姉えだったらどうなってたかな?)」  
ちよつと待った、最後の物凄く物騒なんだけど!?

第十六問 楊子と佳乃子と敵情視察（後書き）

野「全時空ラジオ文月放送局ミッドナイトスペシャル！」

音「高瀬姉妹の、」

野・音・佳・楊「……オールナイト全時空！」

野「と言うわけで佳乃子姉えと楊子の登場を祝しまして、第十六問から放送が始まりました高瀬姉妹のオールナイト全時空、パーソナリティは私、高瀬野里と」

音「高瀬音季でお送りします。さて、この番組はここ、後書きスペースより全時空に向けて発信されております。某生徒会とは現状何の関係もございませんのであしからず。また、毎回高瀬姉妹の仲から数人アシスタントが登場します。」

野「それでは、本日のアシスタントはこのお二人。」

佳「高瀬佳乃子と」

楊「高瀬楊子です！」

音「まあ、そんなわけで作者の思い付きから始まったわけけど……続くのかしら？」

佳「さあ？続かなかつたら切り刻むだけよ。」

楊「佳乃子姉えが言うど洒落にならないよ？」

佳「それは楊子も同じでしょ？」

楊・佳「ふふふふ」

野「き、気を取り直して、本日のコーナーはお悩み相談室！」

音「このコーナーでは、文月学園の教師・生徒の皆さんのお悩みを解決していくという単純明快なものです。」

佳「それでは、まず最初のお便りから。」

楊「文月学園2年某クラス担任のS・N先生。『俺は2年の某クラスの担任をしているのだが、とても困ったことがある。前年度から担任を持っているA・YとS・Uという生徒なのだが、最近ホモなのではないかという噂があるのだ。あいつらはバカだが、さすがに

そこまで道を踏み外すのは見てられない。どうしたらいいだろうか?』」

野「どう考えても某28号のロボットのあだ名がついた先生よね?」

音「この二人の生徒って、どう考えても……」

佳・楊「……とりあえず、誤解だということに気づきましょう。そして、それに気づいた上で、盛大に煽るのです。」

野・音「何を教えてるのよ!?!」

佳「じゃあ、他に何かあるの?」

野「そうねえ……N先生なら、一喝するだけで治められるんじゃないかしら?」

佳「じゃ、それで解決。次のお便り文月学園2年AクラスのS・Kさん『雄二が吉井と浮気をしている。どうしたらいい?』」

楊「まず浮気が成立していないことに気がつきましょう。」

野・音「(雄二……南無)」

楊「それじゃ、どんどん行くよー次のお便り!文月学園教師のT教頭さん『雑用を依頼した3年のTとNが役に立たない。どうしたらいいだろうか?』」

野「とりあえずそれ、私たちに相談することじゃないわよね?」

佳「殺る?」

音「無駄」

楊「(ぼろくそだね。)」

野「と、そろそろ終わりの時間がやってまいりました。」

音「残りのお便りはまた次回!最後に、ご意見・ご感想、お悩み相談室のお便りのネタ、番組のコーナー案などがございましたらどしどしお書きください!それでは」

野・音・佳・楊「……また明日!」「」「」

バカテスト 第十七問 雑学

次の漢字の読みを答えなさい？玉璽　？丁髷　？流離　？啖呵  
？如何様　？不知火　？炬燵　？外郎　？喇叭　？言語道断　？松  
毬　？梔子

姫路瑞希の答え

「？ぎよくじ　？ちよんまげ　？さすらい　？たんか　？いかさ  
ま　？しらぬい　？こたつ　？ういろう　？ラッパ　？ごんごどつ  
だん　？まつぼっくり　？くちなし」

教師のコメント

やはり姫路さんには簡単でしたか。

高瀬野里&音季の答え

「？ぎよくろ　？ていまげ　？さすり　？たんあ　？いかよう  
？しらぬい　？こたつ　？げろう　？らっぱ　？ごんごどつだん横  
断歩道　？まつまり　？くちなし」

教師のコメント

久々にあなた方の珍回答を見ました。

島田美波の答え

「？はんこ　？ちよんまげ　？ながればなれ　？こうえんこうか  
？よなにさま　？ふちか　？　？げろう　？　？ご  
んごどつだん　？まつまり　？　？」

教師のコメント

まだ、あまり日本に慣れていないようですね。というか丁髷が読



か？いかさま（別解：根元恭二）？  
？  
？  
？  
？  
「？くちなし」

教師のコメント

喧嘩関係はすべてかかれていますね……最後のひよ  
つとすると口がないという意味で覚えていましたね。ああ、吉井君  
にも言いましたが？の別解には私も賛同します。

土屋康太の答え

「？？？？？根元恭二？？？？？  
……保健体育からも出題をつ！」

教師のコメント

……とりあえず？には賛同しておきます。

高瀬佳乃子&楊子の答え

「？ぎよくじ（を盗まれた皇帝）？ちよんまげ（をきられた侍）  
？さすらい（のカービィ）？たんか（で運ばれる根元恭二）  
？根元恭二&常夏コンビ&竹原教頭？しらぬい（郁夫）？こた  
つ（入りたいなあ）？いろいろ（食べたい）？ラッパ（ぱ  
らりら）？ごんごどうだん（横断歩道）？まつぼっくり（りん  
ご）？くちなし（芳一）」

教師のコメント

？最悪の状況です。？落ち武者？泣けますね。？確かに……  
ってゲームの話をしてください。？自業自得の一言を？賛  
同しますが……竹原教頭は何かしたのでしょうか？？誰ですか  
！？？そうですね。？緑茶があるといいですね。？某おかつ  
ぱ頭の小学生ですか。？そういえば皆さんそれを書いていました

が・・・何なのでしょう？  
？しりとりですか？  
？耳無じで  
は？

バカテスト 第十七問 雑学（後書き）

野「全時空ラジオ文月放送局ミッドナイトスペシャル！」

音「高瀬姉妹の、」

野・音・千・和「オールナイト全時空！」

野「というわけで今回もやってまいりました高瀬姉妹のオールナイト全時空。パーソナリティはもちろん私、高瀬野里と」

音「高瀬音李でお送りします。この番組はここ、後書きスペースより全時空に向けてお送りしております。なお、某生徒会とは関係ありませんのであしからず。また、毎回高瀬姉妹のうち二人がアシスタントを勤めます。」

千「今回のアシスタントは私！高瀬千沙登と、」

和「高瀬和音だよー」

千・和「よろしくねー！ー！」

野「さらに、本日は特別ゲストとして補修担当にして2年Fクラス担任のてえ．．．おほん、西村先生に来ていただいています。」

鉄「2年Fクラス担任の西村宗一だ．．．．なぜ、鉄なのか聞かせてもらえないだろうか」

作「メタ発言はやめましょうね。」

野・音・千・和・鉄「誰!?!」

作「気にしないで続けてください。」

音「．．．．というわけだそうですので今日のお悩み相談室は特別編！鉄拳先生の、」

野・千・和・鉄「お悩み相談室・鉄拳相談板！」（スルーする）  
「んだ」「のか」

千「じゃあ、最初のお便りだよ！文月学園3年のT村Y作さん。  
『俺には最近好きなやつがいます。そいつは笑うととても可愛くて、まるで俺の太陽のような人です。その人はK下H吉さんというのですが、どうやら戸籍上では のようなのです。これは同性愛になる

のでしょうか?』……………読まなきゃよかったよ  
~~~~~(泣)」

鉄「……………とりあえず、精神科に行つて来い。それでダメだったなら脳外科へ行つて精密検査を受けるんだ。それで、もしも理由が分からなかつたらそいつには双子の姉がいたはずだ。外見に惚れたのなら、そちらへ目を向けてみるのが得策だろう。もしそうでないのなら、……………冷静によく考え直せ。一部の生徒は彼を第三の性別『秀吉』だなどといっているがそのような甘言には惑わされないように。」

野・音「ついでに私達からも。どうしても考えを改める気がないのなら、ぜひ家の研究室に来てください。こんど性転換の実験をやるので披検た、……………こほん、モニターになつていただきたいと思います。」

千「ついでに、精神操作もしてあげるよ。心まで女の子になれるからね。……………ボソツ(嫌がらせだけど。)」

和「あわわわわいきなりレベルが高すぎだよー……………
ー(ぷしゅ)」

音「き、気を取り直して次のお便り! 2年生のK保T光君『最近、寝ても覚めても頭から離れない人たちがいます。それは5人いて、A・Y君、N・Tさん(2人とモイニシャルが同じなので、一つだけになります。)、H・Kさん、M・Sさんというのですが、僕はどうも彼らのうちの誰かが好きなのです。彼らが笑つていると僕も楽しい気持ちになり、彼らが沈んでいると僕も沈んだ気持ちになるのです。僕は一体彼らの内の誰が好きなのでしょう? 鉄拳先生、教えてください』……………なんか、ものすごい悪寒を感じただけど……………気のせいかしら?」

野「さ、さあ? なんか私も嫌な感じがしたんだけど……………
・気のせいよね。」

千・和「あはははははははははは(汗)」

鉄「……………とりあえず、落ち着け高瀬姉妹。それから久保。

第十七回 喧嘩と女装と常夏(変態)コンビ

いろいろあつて翔子の強烈アタックを受けた雄二。とりあえずそれは置いておけば大丈夫として、

「……では、ご注文をどうぞ。」

翔子が立派な装丁のメニューをくれる。さすがAクラス、かな。

「ウチは、『ふわふわシフォンケーキ』で」

「葉月もー！」

「私もそれがいいです。」

美波たちは三人仲良くシフォンケーキ。

「僕は『水』で。付け合せに塩もくれるとうれしい。」

「じゃあ、私たちは『とろとろ手作りプリン』で。」

「んじゃ、俺は」

「……ご注文を繰り返します。」

雄二の声を遮って翔子が確認の声を出す。

「……『ふわふわシフォンケーキ』を二つ、『とろとろ手作り

プリン』を二つ、『水』を一つ、『メイドとの婚姻届』が一つ。以上

でよろしいですか？」

「……なんだろう、ものすごく違和感のあるメニュー

があつたような、

「全然よろしくねえぞっ!？」

ああ、そういうこと。……これは楽しめそうね。

「……では食器をご用意させていただきます。」

私たちのところにはフォークとスプーンが、明久の前には塩が(相変わらず虚しい。)雄二の前には朱肉と実印が用意された。

「ちよつと待て翔子!これほんとに家の実印だぞ!どうやって手に入れた!？」

「あ、雄二のお母さん普通に渡してたわよ?」

「なんつー物騒なことを言ってくれるんだ高瀬!？」

「……ではメイドとの新婚生活を想像しながらお待ちください。」

翔子は優雅に礼をしてキッチンへ戻っていった。

「……明久、高瀬、俺はどうしても試召大会に勝利しなければいけないんだ。」

「……?」

雄二の目からは並々ならぬ決意が見える。やる気を出すのはいいけど少し怖いわよ?

「うんっ、ここで嫌な感じのお兄さん二人と、優しそうなお兄さんがお話してたよ!」

嫌な感じのお兄さん二人か。まあ、あいつらでしようね。

「お帰りなさいませごm i . . . ご主人様。」

「ちよつと待て! 何で言い直した! ?」

「……お席へご案内いたします。」

「しかもはぐらかされた! ?」

「……噂をすれば影がさすかしら。どこからどう見ても常

夏(変態)コンビね。

「? なんか、すぐくけなされた気がするが……気のせいか。」

」

「何わけ分からんこと言ってんだ夏川。それにしても、この喫茶店は綺麗で広いな。」

「そうだな、さっき行った二 F の中華喫茶はひどかったからな

!」

「ああ、壁紙の下なんか腐った板だったぜ!」

ちよつと、我慢ならんだけだ。

「まで、明久。ここは策を練るぞ。」

「分かった、どうする。」

「まず高瀬、お前はババ……もとい学園長を呼べ。それから、翔子、メイド服を貸してくれ。」

いいけど、雄二、そんな言い方したら、

「・・・分かった」(ゴソゴソ)

「待て、何で脱ぎだす!? お前の着てるやつじゃない! 予備だ、予備!」

「・・・分かった。」

「おい! 待て! 何だその間と残念そうな顔は!」

だから、主語が抜けてるからそういうことになるのよ。やっぱりそういうところはバカそのものね。

『あの店、出してる物もやばいんじゃないだろうな!』

『いえてるな! 食中毒でも起こすんじゃないか?』

『二 Fには気をつけるってことだな!』

「・・・はい。コテンパンにきてきて。あと、貸し一つ。」

あ、翔子もかなり頭にきてたみたい。

「だとき。明久。」

「うん、御礼に今度雄二を一日自由にしていよいよ。」

「・・・ありがとう。吉井はいい人。」

「ちよつと待て! 何で俺が!」

相変わらず・・・かな。とりあえず、

「はい、櫛と化粧セット。で良いわよね。」

「・・・納得行かんが、まあそういうわけで明久、お前がこれを着ろ。」

「なんでさ!?!」

「何でもいいからさっさと着てこい。お、頼んだぞ、秀吉。」

「もちろんじゃない。」

「え、ちよ、まって! 秀吉、頼むから話を聞いてー!」

明久は問答無用で連れて行かれたようだった。

「で、学園長のほうは?」

「ん、大丈夫。常夏コンビの言ったことはなしたら、すぐにでも来るって。」

「そうか。つと、ちよつど来たようだし作戦の説明だ」

『そつれにしても汚かつたな!』

『ああ!床まで腐りかけてたぞ!』

「・・・そうかい。あんたらはそこまでこの設備に不満があったのかい。」

「は?なにいつて・・・学園長!？」

「や、これは失敬したね。そこまで酷い設備を用意したつもりはなかつたんだが・・・そもそも、あそこのクラスの設備はBクラス級だつたと思うんだけどねえ。だとすると各クラスの設備を底上げするかねえ。ああ、もちろんその分の学費は上げるよ?それで、あんたらの不満が解消されるなら問題はないだろうさ。」

「あ、いや、俺らはそんなつもりで言ったわけじゃ・・・」

「ほう、なんだい?そんなら営業妨害かね?そりや感心せんねえ。教師としてはそんなことする不届き者はとつちめたほうがいいだろう?」

学園長、意外とノリノリだ・・・

「お客様・・・」

「?なんだい?」

「いえ、そちらのお客様です。」

「あ?」

で、ここで参上するのが明久。常夏コンビは学園長の発言でだいぶ心象を悪くしてる。ちなみに、学園長がここに来たのは暇つぶしだつたりする。

「なんだ、こんな子もいたのか。」

「へえ、結構可愛いな。」

舐めるような視線で明久を見る。・・・なんか見られてないこつちまで気持ち悪くなってきた。

「お客様、足元を掃除しますので少々よろしいでしょうか?」

「掃除？さつさと済ませてくれよ？」

二人は席から立ち上がる。

「ありがとうございます。それでは」

「ん？何で俺の腰に抱きつくんだ？まさか俺に惚れて」

「くたばれえええええええつ！」

「ごばあああつ！」

明久のバツクドロップが決まる。これで坊主先輩は本日二度目の脳天痛打となる。

「き、貴様は、Fクラスの吉井！まさか女装趣味が」

あ、生きてた。ま、仕方ない応援を呼ぶ係りを受けるとしましよ
うか。

「「っ！こ、この人、今私の胸を触りました！」」

「きやつ！こつちの人私のお尻を触りました！」

「ひやつ」

学園長にまぎれて近づいていた私たちが声を上げる。ちなみに上から私&明久、音李、瑞希。この一瞬で周りの殺気が膨れ上がる。

「ちよつと待て！バツクドロップするために当ててきたのはそつ

ちだし、大体お前は男だと はっ！なぜに他のやつらまで

触ったことになって ぐぶあつ！」

「こんな公衆の面前で痴漢行為とは！しかも四人同時だと！？この下種野郎が！」

「これは、いかんねえ。本気で停学を考えたほうがいいかい？」

世論、つて言うか回りはみんな私たちの味方。しかも、学園長が
援護発言をしてるから士気も高い。

「何を見ていたんだ！？明らかに四人のうちの誰にも触ってない
し、被害者はこつちだろ！」

倒れている坊主先輩の代わりにモヒカン先輩が雄二に食って掛か
る。

「黙れ！たつた今、こいつはこの女子たちの胸を揉みしだき、尻
を撫で回していただろうが！俺の目は節穴ではないぞ！」

「その通り」

「！！！！！！われらが姫に手を出すものは我ら異端審問会A・B・

C・D・Eクラス支部連合会およびFクラス本部が許さん！」

「」

「そうよ！今回は異

端審問会の言うとおり！われらがお姉さまに手を出すものは我ら」

K（高貴なる）O（お姉さまを）O（お慕いする）会』が許しませ

ん！」

「……ついでに強力な助っ人も

やって来た。KOO会？聞いたことがない、っていうか

「ねえ、ものすごく嫌な寒気を感じただけ……」

「野里も？」

「美波も？」

「音李も？」

「……はあ。」

ちなみに明久たちはこんなやり取りをしていた。

「ウエイトレス。そっちで倒れている男は任せたぞ。」

「え？あ、はい。わかりました。」（そういえば、今の僕はウエ

イトレスだった。うん。この坊主どうしよう？とりあえず秀吉に

押し付けられたブラでも頭につけてみるかな？野里の発明第392

721号永久脱毛兼瞬間永久接着剤で。解除薬があると入ってたけ

ど、まあ、解除する必要もないだろうし。）

「さて、痴漢行為の取調べの為、ちよつと来てもらおうか」

「」

「われ

ら（異端審問会）（KOO会）とともに！！！！！！」

「」

「」

「ああ、後で学園長室にもくることさね。あんたらの処分につい

て話がある。」

?)

……雄二は知らないところで命を捨てたかもね。

「……お会計は、夏目漱石を一枚か、坂本雄二を一名かのどちらかとなります。」

「坂本雄二を一名で。」

「……ありがとうございます。」

ほんとにいいのかしら？千円で売り飛ばされてるけど。(ほんとにいいのかな？千円で売り飛ばされてるみたいだけど。) 明久、心の声。同調したために入ってきたようだ。

……どうなるのかしらね？これ。

第十七回 喧嘩と女装と常夏(変態)コンビ(後書き)

野「全時空ラジオ文月放送局ミッドナイトスペシャル!」

音「高瀬姉妹の、」

野・音・鈴・香「オールナイト全時空!」

野「というわけで今回もやってまいりました高瀬姉妹のオールナイト全時空。パーソナリティはもちろん私、高瀬野里と」

音「高瀬音李でお送りします。この番組はここ、後書きスペースより全時空に向けてお送りしております。なお、某生徒会とは関係ありませんのであしからず。また、毎回高瀬姉妹のうち二人がアシスタントを勤めます。」

香「本日のアシスタントは私高瀬香菜と」

鈴「・・・高瀬鈴乃。」

野「の二人でお送りします。鈴姉は、無口だから、あんまりラジオには向かないだろうけど、ご容赦ください。」

音「それでは、本日も、特別ゲストが来ています。」

福「どうも。元二年Fクラス担任の福原慎です。」

香「それでは本日の悩み相談室、福原先生の〜」

鈴「・・・お茶の間相談板。(ぱちぱちぱち)」

野「それじゃあ本日も最初のお便り!2年生のY・Kさん『私の弟はどういうわけか女の子のような容姿をしています。私よりも女らしいので、嫉妬してしまうのか、ついついひどいことをしてしまいます。どうしたらよいでしょう。』・・・久しぶりの比較的まともな相談ね。」

福「そうですね、自分の気持ちに素直に向き合ってみるといいかもしれませんよ?意外な発見があるかもしれません。」

音「そうね。とりあえず、素直になることはとても大切よ。」

鈴「・・・何事も素直にならなければ始まらない。」

香「自分の気持ちを伝えるにせよ、自分の態度を改めるにせよ

「、まずは自分のことを知らなくちゃね。」

野「自分のことがよく分かっていれば、自ずと相手とどう接すればいいかも分かってくるはずよ。」

鈴「……じゃあ、次のお便り。1年生U・Eちゃん『最近私は気になって仕方がないことがあります。実は、2年生のA・Y先輩とY・S先輩が付き合っているという話なのです。高瀬さんや、福原先生は、その二人の先輩のことをよく知っているとこのなかでお聞きしますが、二人はどのようにお付き合いしているのでしょうか？ああ、気になって気になって仕方がないんですー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！漫画研究会のBL本もそろそろ品切れですし、ああああああ早く知りたいです！ー！ー！ー！ー！ー！ー！』……おえっ。」

福・野・音・香「……個人の趣味には口を出したりしないけど（しません）が、それを私たちに質問しないでください。」

香「じゃあ、次のお便り。2年生担当教員のY・T先生『この間職員室でついていたラジオでバスケットボールをやっていたのですが、不可思議な単語が出てきたので質問させていただきました。3Pシュートとは何でしょうか？ラジオの解説員は（すりーぴーしゅーと）と発音していました。これは公序良俗に反するものではないのでしょうか？あれ、この先生はどうもスポ〜ツについてはあんまり詳しくなさそうですね。』」

福「高橋先生、それはスリーポイントシュートといいます。特定のラインの外からシュートを決めることで、一気に三点入ることからスリーポイントシュートと呼ばれます。（あんまり鵜呑みにしないでください。あってるかどうか心配なのでby作者）しかし、意外な弱点があったようですね。」

野「あ、あ、ど、どうやら本日のお便りはここまでのようです！」

鈴「……ご意見・ご感想・お便りのアイデア・新コーナーのアイデアなどは、どんどんお送りください。」

香「対応できる範囲で確認させてもらいますね」

香「……………結局、何だったんだろーねー？」

野・音「……………ごめん、香菜姉え、鈴姉え。無理してきてもらったのにこんなんで。」

香「ん？まあ、いいとおもうよー？楽しそうだしね」

鈴「……………大丈夫。個性的で面白かった。」

野・音「あ、あはははは。(汗)」

バカテスト 第十八問 地理

九州にある七つの県を答えなさい。

姫路瑞希の答え

「福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、佐賀」

教師のコメント

おや？姫路さんには珍しく間違えて・・・・・・・・・・・・・・・・
すいません、佐賀で合っていました。

高瀬野里&音李

「福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄」

教師のコメント

正解ですね。

すいませ

ん、間違いでした。沖縄ではなく佐賀です・・・・・・・・
前も同じ間違いをしたような？

土屋康太の答え

「千葉、滋賀、佐賀」

教師のコメント

見事にばらばらですね。後で職員室に来てください、西村先生
のありがたいお話があるそうです。

木下秀吉の答え

「福島、長崎、熊本、大分、宮城、鹿児島、滋賀」

教師のコメント

不正解です。というか、わざとやっていますか？

吉井明久の答え

「エリア11 キユウシユウ地区」

教師のコメント

それはあれですか、コー ギアスですか？そうですね？・・・
・・・後で職員室に来てください。土屋君と共に西村先生
のハートフルコミュニケーションがあるそうです。

坂本雄二の答え

「知るかボケ！ジジイ！クソババア！」

教師のコメント

・・・後で補修室へ来てください。学園長先生による試験召喚システムの構成とその考察についての講義があります。一週間は続けるそうですので着替えを一週間分持ってきてください。霧島さんたつての希望で3食・入浴・勉強・終身・着替え・お手洗い時のお目付け役（脱走防止）等の世話と、一週間の同棲生活+ があるそうです。ちなみに学園長とお二方のご両親の許可は頂いています。

霧島翔子のコメント

雄二・・・毎日、添い寝・・・
・・・あ、邪魔者、消すよう、野里に頼む・・・
・・・絶対に逃がさない。（バチバチッ）スチャッ 縄を装備
する音

ガチャッ 手錠を腰に装備する音

ガサッ 婚姻届を鞆に仕舞う音

パカッ 何かをあける音・・・？

パタン 雄二の家の実印を箱の中に仕舞う音

ふふっ 何かを見て笑う音

雄二・・・どこか遠くを見ているような目で笑っている時の・・・声？

パタン 眺めていた指輪の箱を閉める音

吉井明久のコメント

・・・正直、悪かったと思ってる。実は、霧島さんが雄二との結婚指輪を買ってること・・・知ってたんだ・・・今度、野里と一緒に婚姻届を奪取してくるから、許してくれないかな？

島田美波の答え

「薩摩」

教師のコメント

薩摩・・・？なぜ旧国名が出てくるのでしょうか？まだ日本に馴染めていないのではないのでしょうか？先生は心配です。

教師の感想

おや？今日は佳乃子さんと楊子さんの解答は無いようですね？
漸く諦めたのでしょうか？

第十八問 変態と呼び名と教頭の嫌な一面？（前書き）

- だいぶ遅れました・・・結構な難産。その割に普段と量が
- 変わらないんですけど・・・やることが多くて執筆の時
- 間が取れないのもあるんですけどね・・・
- ・
- ・

失礼な。成り行きでこんな服着てる僕と頭にブラつけて喜んでる変体を一緒にしないでほしい。

「お前がつけたんだろっ！」

「何っ！心を読まれただっ！」

「ほんとに思ってたのかよっ！くそっ！」

そう言うところ、ええと、変態先輩は奥へ走り出した。どうも待ち合わせじゃなくてただの鉢合わせだったみたいだ。

「させるかっ、必殺アキちゃん爆弾を食らえっ！」

「ちよつと待った！その技名を聞く限り一番の被害者は絶対僕だよね！？」

僕の頭を掴んでいる雄二にそう言う。ここ、四階だしね。窓から落ちたら捻挫じゃすまないと思う。

「今だっ！壁を倒して足止めしろっ！」

どこからかモヒカン先輩の声が聞こえてくる。くっ、ここで壁が倒れてきたら身動きが取れなくなる！

「くっ、脱出だ！アキちゃん！」

「それしかないね！」

追悼を諦めて一時的に引き返す僕ら。

「……………あれ、壁、倒れてこないね。」

「はったりか！あのモヒカン野郎……………！」

もう既に変態先輩の姿もみえないし、探すのは無理そうだ。

「仕方ない、引き返すか。」

「そうだね。どうせ外で誰かに捕まるだろうし。」

そういつて入り口から出た僕たちが見たものは野里と音季に、どうもその姉妹らしき人たちが寄ってたかって常夏コンビを攻撃している光景だった。

お化け屋敷からのこのこ出てきた常夏先輩をぼこぼこにした（夏川先輩が頭につけてたブラはどうも佳乃子姉えのものだったみたいで、明久がどこで手に入れたかは知らないけどコワレバージョンの佳乃子姉えに命令された私たち姉妹は全力でランチしたのだ）私たちはいったん教室へ戻ってきていた。

「あれ？お客さん減ってない？」

「おお、戻ったか、明久、雄二。」

「客が減っているようだが、何かあったのか？」

「むう、それがのう、どうも学園祭に来ておる客はあらかた来てしまったようでの。」

「ああ、それで………まあ、一回来たところに一日で何回も来ようなんて思わないわよね。」

「あ、やっぱりそうだったんだ。」

「……楊子、やっぱりって、何か考えてるんじゃない？」

「うん。あるよ。秘策がね。」

楊子が考えること………チャイナドレス、かなあ。正直遠慮したいけど。

「でも楊子、チャイナドレスだけじゃ女性客は取れないわよ？」

「あ、そっか………」

「ふむ、そういうことならいっそのこと男も中華装束を着たらどうだ。いや、宮廷装束がいいかも知れんな。中華宮廷喫茶………」

「………行けるぞ！」

昨今の韓流ドラマブームに乗せられてるのかしら？だとしたら意外ね。雄二はドラマを見るタイプには思えないのだけど………

「ああ、あのお母さんか。」

「でも雄二、そんな服用意してないよ？」

「心配するな。明久。分かってるさ。頼んだ、高瀬姉妹。」

「私たち！？」

「ああ、ムツツリー二の能力を引き出してくれ。」

「……………ムツツリー二の能力？つて、つまり私たちがお願いしてムツツリー二に即効で作成してもらう、つて事！？何で私たちがそんな役回りを……………相手はあのムツツリー二、見返りが何になることか……………」

「……………まあ、しょうがない、か」

「別にやらなくてもいい気はするけど、ね」

まあ、そんな感じで私たちはムツツリー二にお願いしたわけだけど、たった30分で全員分の服を作り終わられたときは流石に驚いたわ。え？どうやって頼んだのか気になる？だめよ、絶対に教えない……………あ、作者、教えたりしたらそつちの世界へ乗り込んでいってo h a n a s h iだからね？

「と、言うわけなんだが。」

ちなみに今は少し送れて戻ってきた瑞希達に雄二が状況の説明をしていたところ。

「ふーん。そういうことなら仕方ないわね。あ、葉月も手伝う？」

「はいですっ！」

「ああ、今すぐ着替えてホールに入ってくれ。」

「わしが着るのは、決定なのじゃな……………仕方ない、着替えるとするかの」

「いま、微妙に不吉な発言が……………」

「つて、秀吉!？」

「あなたここで着替えるつもりなの!？」

「……………野里まで、わしを女と見ておるのか？」

「いや、別にそういうわけじゃないのだけど、秀吉がここで着替えたらいろいろと被害が……………」

主に、ムツツリー二とか、明久とか、ムツツリー二とか、ムツツリー二とか、ムツツリー二とか、あれ？一個違ってるような……………ま、いつか。

「ぬう、仕方ないのう、というか、最近明久がわしのことを女と見ておるような気もするのじゃが」

「気のせいだ、秀吉は秀吉だろう。」

「うん、雄二の言うとおりだ。秀吉は性別が『秀吉』でいいと思う。もう、男とか女とか関係ないよね」

「……俺が言ったのはそういうことじゃないんだが」

相変わらず、明久はどこかずれてるといっか、馬鹿といっか……
……って

「んしょ、んしょ……」

「は、葉月ちゃん！？何でここで着替えてるの！」

「はれ？だめでしたか？」

いや、羞恥心とかないのかしら……

ぶしゅあぁあぁあぁ

？今の音……はっ

「……（ボタボタボタ）」

「ムツツリーニ！？」

「葉月ちゃん、今すぐ更衣室へ行くのよ！」

「え？どうしてですか？」

「どうしてもこうしてもない！とにかく早く！そうしないとムツツリーニがやばい！」

……明久、葉月ちゃんに言ってもわからないと思う。勢いがいいとはいえ鼻血なんだし。というか、大量に出血してるはずなのにムツツリーニは心から幸せそうだし。って言うか、ムツツリーニの守備範囲ってどれだけ広いんだろう？

いろいろあったけど、また平和？に働いております……

……まあ、ちょっと危ないお客さんとかも増えたけど。

「君、注文をしてもいいかな？」

「あ、はい、どうぞ」

・ ・ ・ ・ ・ 竹原教頭つて、意外とお茶目 ・ ・ ・ ・ ・
・ ・ ・ ・ ・ なんか、知りたくない事実を知っちゃったかも。
・ ・ ・ ・ ・

高瀬姉妹のオールナイト全時空 第四回

野「全時空ラジオ文月放送局ミッドナイトスペシャル！」

音「高瀬姉妹の、」

野・音・奏・日「オールナイト全時空！」

野「というわけで今回もやってまいりました高瀬姉妹のオールナイト全時空。パーソナリティはもちろん私、高瀬野里と」

音「高瀬音李でお送りします。この番組はここ、後書きスペースより全時空に向けてお送りしております。なお、某生徒会とは関係ありませんのであしからず。また、毎回高瀬姉妹のうち二人がアシスタントを勤めます。」

奏「本日のアシスタントは私、高瀬奏子と」

日「高瀬日都美でお送りします。」

音「さて、本日のオールナイト全時空はスペシャル版でお送りします。」

野「あれ？何か祝うことあったかしら？」

奏「ないんだけど、作者がさ、三回分放送を忘れてたじゃない？」

日「だから、三回分を取り戻すためにスペシャル放送をするんですって。」

野「ああ……」

音「でも、どうせだからお祝いもかねちゃいましょう。166,972アクセス&25,790ユニーク突破記念！」

野・奏・日「……いえっ！」

奏「と、ハイテンションに始めてみたは良い物の、どうしようか？」

日「おたよりきてないからね。どっしましよ？」

野「ならいつその事、新コーナーを立ち上げましょう。」

音「ん、そうなるだろうから、一人助っ人を連れてきたよ。」

姫「え、えと、私ですか……？」

野「あ、瑞希か。ん〜じゃ、何か適当に好きなコーナー立ち上げちゃって。」

リスナー（明） 適当になってるっ！！！！！！！！！

姫「じゃ、じゃあ……………ひ、姫路瑞希の！家ご飯！」

野・音「……………えっ！？（ビシリッ！）」

奏・日「わ〜い！」

姫「なにか変な音が聞こえた気もしますが、気にしないことにして、本日のメニューは“彼のハートも燃え上がる！伝説のハンバーグ”ですっ！”

奏「わ〜、じゃ、それ覚えたらみんなの恋路も安泰だねっ！”

日「ふふっ、友達に教えてあげようかしら？」

姫「それじゃあ、まずは、材料です。」

合挽き肉（牛7：豚3） 400g

塩 4g

卵 1個

玉ねぎ 250g

コシヨウ 適量

パン粉 50g

塩酸 4g

スズ 2g

塩化カリウム 4g

液化二酸化炭素 6g

奏「……………えっ！？（カチコン 固まった音）」

日「……………あ、あらあら……………？」

姫「最初に玉ねぎをみじん切りにして色がつくまでよくいためます。」

じゅーじゅー 玉ねぎをいためている音

奏「……………（ヒソヒソ）ねえ、野里姉え、瑞希さんって料理音痴……………？」

野「(ヒソヒソ)直そうと思ったんだけどね…….…….ちよ
つと、遅かったみたい。」

音「(ヒソヒソ)…….…….どうしよう?」

姫「いため終わったら玉ねぎをボールへ取り出して荒熱を取りま
す。そして、挽肉に対して1%の塩を入れて、手早く練りましょ
う。2〜3分を目指してよく練りましょね?それから塩はたんぱく質
を分解して、つなぎの役割をしてくれます。」

日「…….…….うん、ここまでは普通なんだけどね」

姫「パン粉に適量の水を加えて、ふやかしてからよく絞りましょ
う。水は牛乳でも良いですよ。その後、全ての材料を練り合わせま
す。このときに塩酸とスズで $2\text{HCl} + \text{Sn} \quad \text{SnCl}_2 + \text{H}$
2、塩化カリウムと液化二酸化炭素で $3\text{C} + 2\text{KClO}_3 \quad 2$
 $\text{KCl} + 3\text{CO}_2$ が起こって塩化スズと塩素酸カリウムが発生する
ので直接触れないように調理しましょう。」

野・音・奏「…….怖っ!!!」

日「あら」

姫「四等分して形を整えたら後は焼くだけ!伝説のハンバーグの
出来上がりですっ!」

野「…….……. (製作者に聞こえない声量で)このハンバー
グを食べると彼のハートどころか体が燃え上がって爆発を起こしま
すのでご注意ください。」

作「補足。塩化スズは肌の炎症を、塩素酸カリウムは強酸性の物
質(胃液など)と反応して爆発を引き起こすので非常に危険です。
決してまねしてはいけません。」

音「えっと、それでは試食をなさるゲストの方です!」

明「ええっ、僕!?!」

奏「(ヒソヒソ)私たちには無理っ!お願い!」

明「…….……. (スウー)パクパクむしゃむしゃパク
むしゃむしゃ」

野・音・奏・日「…….……. (ゴクリ)」

康「高瀬姉妹は、しばらくおさらば。」

愛「それは、言い方が悪くないかな……………?」
汗)

康「問題ない。」

愛「そ、そつか……………じゃあ、とりあえず今日のお題!」

康「健康的な 運動」

愛「ふくん……………?なんて言ったのかな?もう一言
つて?」

康「健康的な (ボソツ)夜の 運動」

愛「……………からかって遊んでる僕が言つのもなんだけど、
土屋君つていつもそんなことばかり考えてるよね。そういうこと
考えるだけで」

康「…………… (ポタポタポタ)」

愛「ほら、鼻血出しちゃうのに。」

康「……………ッ、問題ない」

愛「あるでしょ……………」

康「……………問題ない」

愛「いや、だからあるでしょ……………」

康「……………何も考えていない」

愛「いきなり反論の趣旨が変わってるし……………今、ど
んな所?」

康「……………もう少しで、本番……………ッ!

(ブシャアアアアアアアアアッ!!!!!!)

愛「……………もう少し、分かりづらい表現をしてもらえないか
な……………?」

康「……………それは、無理」

愛「というか、生命維持も無理なんじゃ……………」

康「……………問題ない。我が生涯に一片の悔い無し。」

愛「悔いがないから問題がないっておかしいよね!??っていうか

そのネタもう出たよ！」

康「なん、だと……………」

愛「……………なんか、コントになってきちゃった……………」

……………」

康「失礼な……………」

愛「もついいや……………野里ちゃん、後お願い。」

野「……………えっと、いいのかしら？」

音「いいんじゃないかな？」

日「それじゃあ、ご意見・ご感想・お便り・新コーナーの提案などは感想ページでどしどし受け付けていますから、ふるってお送りください！」

奏「それでは、本日の高瀬姉妹のオールナイト全時空は終わりだよっ……………」

野・音・日・奏「……………また次回！よろしくね……………」

！……………」

高瀬姉妹のオールナイト全時空 第四回（後書き）

さて、ここで随分先の予告をば。とある留学生さんが提案してくださったオリキャラですが、玲さんの襲来と同時期に来ることになりました！（といっても予定ですが。）で、オリキャラはこれ以上無理っばいですけど、他のアイデアはどしどし送ってもらってかまいません。まあ、自分も書きたいことがいろいろあるのでどこかに埋没して行く可能性もあるんですけど………と、とにかく、今後ともごひいきに！

第十九問 姉妹と誘拐と一人勝ち？

野里 side

「で、何でこうなった？」

私と音季は自由時間にぶらぶらと校舎内を歩いているところをあの後行方不明になっていた楊子と佳乃子姉えに連行されていた。

「何でって、西川のこと。」

「あ、すっかり忘れてた。」

「……………まあ、調査の結果を見たらそうなるのも分かるけどね。小者すぎて話にもならないわ。」

すっかり忘れ去った月兎学院の西川学長なんだけど、調査の結果あんまりにも小者だったから速攻で排除されたいらしい。後任として北村さんが学長に復帰したらしい。

「で、それがどうかしたの？」

「うーん、父様がいうにはね、西川を中心にして私学の反文月連合みたいところが怪しいことやってるんだって。昨日やつらが渡りをつけた不良たちは睡眠薬とかスタンガンとか物騒なもの買い込んでたし。」

「睡眠薬にスタンガン？ やつら、強硬手段に出るつもりじゃないでしょうね？」

だとしたら、危ないのは……………

時間は戻って四回戦中の明久 side

召喚獣を召喚し終わった僕は召喚獣を向き合わせて戦う

前に、雄二がステージに上って先生からマイクを奪う。

『清涼祭にご来場の皆様こんにちは』

む、雄二は宣伝をするつもりか。

(姫路さん、美波、ちよつとこつち来て)

小声で二人を呼んでステージの前に並ぶ。

『ここにいる四人は本格飲茶を提供する2・F中華喫茶ヨーロッパで働いています。よろしければお立ち寄りください。』

「「「よろしくお願いします!」「」」

雄二のお辞儀に合わせて僕らもお辞儀する。ついでに召喚獣もぺこりと頭を下げる。

「先生、マイクをお返しします。」

『「ということだそうですね。ご見学の皆様、もしお時間に余裕がありましたら出場選手たちのいる2・Fにお立ち寄りください。』

先生も祭りの余興として乗ってくれたみたいだ。

『それでは、CMも終わりましたことですし、四回戦を始めます。Fクラスの四人ともよい試合をお願いします。』

向井先生は、そういうと僕らから少しだけ距離をとった。

「アキ、坂本、ここまでよく勝ち残ってきたわね。でも、こちらに勝てるとは流石に思っていないでしょう?」

そう、有力な優勝候補になりうる三年生は受験のためほとんど参加していないから、事実上この二人が優勝候補と呼ばれている。けど………

「はっ、お前らが勝ちあがってくることは予想済みだ」

『Fクラス 島田美波&Fクラス 姫路瑞希』

古典 4点 376点

「こ、古典!? 四回戦は数学じゃなかったの?」

「だから、予想済みであることに対策を練っていないわけが無いだろ?」

「どついつことよ!」

「お前らに渡したトーナメント表だが」

雄二が悪巧みを成功させたときの笑顔を浮かべる。

「あれは俺の手作りだ。」

「だ、騙したわね!？」

そう、美波たちに渡したトーナメント表は雄二の手作りだ。これは、雄二が学園長に科目の選択権をもらったときに仕込んでおいた罠だ。

「これで勝負は事実上一対二。勝負は決まったようなものだな！」

「そうだね、雄二! 6点しかない美波の召喚獣なんて怖くない！」

『Fクラス 坂本雄二&Fクラス 吉井明久

古典 246点

9点』

「………明久」

「正直、悪かったと思ってる。」

「………」

「………」

すごくいたたまれない雰囲気だ。居心地の悪いことこの上ない。

「よし、雄二! ここは前のように個人戦で行こう! 僕は美波を持つから雄二は姫路さんを！」

「待て、明久! それじゃ俺の負担が大きすぎる!」

「分かってる! だからそこは得意の頭脳プレーでカバーするんだ!」

「なんて無茶を言いやがる!」

ぎゃあぎゃあ言ってるけど雄二の点数も結構な高得点だ。姫路さんの点数で見劣りしてるけどAクラスレベルはあるはずだ。

「……仕方ない、ここはお前の言うとおり頭脳を使ってやろうじゃないか。姫路に島田。」

「はい?」

「なによ?」

何か、また悪巧みをしてるんじゃないだろうな。僕に害の無い作戦だといんだけど。

「明久が如月ハイランドのペアチケットを手に入れて翔子に渡そうとしていた話だが」

「？それがどうかしたの？」

「あれは嘘だ」

「ええっ!？」

なにっ! どういうつもりだ! 雄二!

「本当は明久はそのチケットで如月ハイランドに行こうとしてい
る。」

「「だれと(よ)(ですか)!!!!!!」」

「.....なんか、嫌な予感しかない。」

「明久が誘おうとしているのは、島田」

「え? あ、アキつてばうちと幸せに」

「の妹だ」

「殺すわ」

何だろう、ものすごいプレッシャーがのしかかってきてるんだけ
ど。

「瑞希はアキの召喚獣をたたいて。私はアキの本体をたたくわ。」

「え、あ、はいっ」

「何でそうなるの!？」

くそっ、雄二! 本気で何のつもりなんだ! と考えているうちに姫
路さんは戸惑いながら召喚獣を僕のほうに向かわせる。そして、美
波は僕に向かってくる。って

「美波! それは反則だっ!」

「反則はありません。」

向井先生! ? なんて余計なことを! というか教師としてそれでい
いの! ?

と、とにかく何とかしろっ、と雄二に目で語りかける。

「明久、きついだらうが姫路の攻撃を押さえ込め。その間に俺が
何とかする。」

なるほど、そういうことか! 姫路さんの注意が僕に向いてるうち
に雄二が奇襲を仕掛けるのか! それなら、一瞬の痛みは我慢して姫
路さんの武器を押さえ込もう。

「おおおおおおお！」

何とかよけた大剣を引き戻そうとする姫路さん。その引き戻される大剣に僕は召喚獣を飛び込ませる。

ザクッ！

「くうううう！」

「雄二っ！」

歯を食いしばりながら僕は雄二に合図を送る。後は雄二が僕を巻き込まないように攻撃を

「阿呆が。そんなことを考慮したら威力が落ちるだろうが。」

迫る雄二の召喚獣。そのごぶしの狙いは、僕と姫路さんの二人の召喚獣！？

「謀ったな！雄二！」

「くたばれ姫路！明久と共に！」

そして、二対を区別することなく叩き込まれる拳。200点を越える雄二の召喚獣だ。その威力はダンプカーの衝突にも匹敵するだろう。

「ふえ？あ、きやあっ」

ろくな防御をしなかった、というかできなかった姫路さんの召喚獣はそのまま吹き飛ばされる。こうなればさしもの姫路さんでも戦闘不能は免れない。

「ダンプッ！」

そして、僕のところにもダンプカーの衝突が来る。………交通事故って、死ぬほど痛い。

「瑞希っ！」

そして、姫路さんが倒されたことでそっちに注意を持って行かれる美波。

「余所見とは余裕だな！島田」

「っ、しまった！」

美波の召喚獣も雄二によって倒される。ステージではあまりの展開に向井先生が困っている。

『え、ええと、姦計で味方諸共敵を葬った坂本雄二君の勝利です！』
本当はペアだから僕も勝ち名乗りを受けるべきなんだけど、今回はこれでいいと思った。

ちなみに、その後五回戦があつて霧島さんと秀吉のお姉さんと戦つただけど……うん。秀吉が縛られてたり、雄二が灰になつたり、ムツツリーニが青白くなつたり、途中から野里と音季のお姉さんとか妹さんとかが加わつてものすごい大騒動になった。え？何で回想しないのかつて？あんまりに酷かつたから、思い出すのもつらいんだ。……分かつて、くれるかな？（決して作者がめんどくさかつたわけではありません。）

しばらく後の野里 side

っ、遅かつた！

「野里、大変だ！姫路さんたちが！」

「分かつてる！ムツツリーニ、発信機は！」

「……………気付かれた。3分前から路上で止まっている。」

……………あんまり、乗り気はしないけど、恵以母さんに頼んだ方が、いいみたいね。

第十九回 姉妹と誘拐と一人勝ち？（後書き）

野「全時空ラジオ文月放送局ミッドナイトスペシャル！」

音「高瀬姉妹の、」

野・音・日・佐「オールナイト全時空！」

野「というわけで今回もやってきました。高瀬姉妹のオールナイト全時空。本日のアシスタントは」

日「私、高瀬日向と」

佐「私、高瀬佐知代です。」

音「今回の放送は少々遅れておりますが、あまり気になさらないようお願いいたします。」

野「さて、本日のコーナーは、文月ニュースです。」

日「最初のニュースです。本日の文月学園ランキング投票会に置いて、1年Fクラスの吉井明久君が、女装が似合う男子ランキングNO1・同性愛が似合う男子ランキングNO1・お嫁にしたい男子ランキングNO1の三冠を達成いたしました。本日は、ご本人にお越しいただいております。」

明「え、つと、吉井明久です。よろしく願います？」

野「あんまり緊張なさらなくても大丈夫ですよ。それでは、まず三冠を達成した感想をお聞かせください。」

明「（なんか、野里に丁寧と話しかけられるのって変な感じだなあ）」

野「吉井君？」

明「あ、はい！えと、昔、おじいちゃんが言っていました。何でもいいから、一番になりなさいって。……おじいちゃん、これでいいのかな？」

佐「微妙によくない気もしますが、とりあえずご本人がよろしいのであれば問題ないでしょう。それでは、次のニュースです。」

本日未明、本校1年Fクラスの生徒、坂本雄二君が女子更衣室に侵

入し、その後西村先生の追跡から逃走、校舎の窓を力チ割るとい
事件がありました。生徒指導室の西村先生お願いします。」

西「こちら生徒指導室の西村だ。」

日「坂本君の様子はどうですか？」

西「隙を突いて逃げ出していった。今頃は学園長に捕まって試験
召喚システム理論の講義を受けているだろう。」

野「……ええと、本人に反省の色はありましたか？」

西「大きな事情があったとほざいていた。小山の情報によれば霧
島のロツカーを漁っていた様だ。」

音「……ひよっとして、婚姻届の奪取でもしようとし
ていたのでしょうか？」

佐「……坂本君、南無。」

野「ええと、諸事情により本日の番組はこれで終わりです。それ
では」

野・音・日・佐「また次回!!!!!!」

バカテスト 第二十問 古典

上二段活用における次の言葉の基本形を答えなさい。

? 老いよ ? 朽ち ? 報い

姫路瑞希の答え

「? 老ゆ ? 朽つ ? 報ゆ」

教師のコメント

正解です。老ゆと報ゆはあ段と間違えて老つ、報つと答える人がいますから気をつけましょう。

吉井明久の答え

「? 老う ? 朽つ ? 報う」

教師のコメント

どうしたのでしょうか……最近吉井君の頭がよくなってきた感じがします。まだ、間違いですが。

坂本雄二の答え

「? 老いぼれ ? 朽ち果て ? 報いるもの無し」

教師のコメント

ひょっとして、吉井君の馬鹿が移りましたか……

島田美波の答え

「? ? ? (涙の跡がついた答案)」

教師のコメント

あの、島田さん、あまり落ち込まないでくださいね？

木下秀吉の答え

「？老いて尚変わらぬ威厳　？朽ち果てて尚荘厳な建物　？報いるもの無くとも突き進む」

教師のコメント

無駄に立派な言葉でごまかさないでください。

土屋康太の答え

「？おい　？くちびる　？む　を揉む」

教師のコメント

如何して貴方はそうやって下世話な話へ持って行くのですか・・・あ、学園長。え？ええ、もうなんというか、あ、はい大丈夫です。もう諦めましたし、なれましたから。胃の痛みにも。

253

学園長のコメント

なんか、すまんねえ。今度慰労会でもやろうか？

高瀬野里&音季の答え

「？老ゆ　？朽つ　？報ゆ　今度、いい内科医を紹介しましょうか？私たちや父も、姉たちのおかげでよくお世話になっている方なんですけど・・・」

教師のコメント

正解です。・・・お願いできますか？担当医の方にもどうしたらストレス性胃炎がこつも長引くんだと呆れられてし

まいまして。そろそろ、ご迷惑になりそうでしたから。というか、高瀬さんたちも、苦労しているんですね。．．．．．今度お父様にもよろしくお伝えください。

高瀬佳乃子の答え

「？老ゆ　？朽つ　？報ゆ　P S　失礼なつ。少なくとも私は親と姉妹の体調くらい気にかけるわよ！ただ、恵以母さんの天然がね．．．．．」

教師のコメント

ひよつとして、高瀬家の方々は皆さん結構な苦労人なのでしょうか？

高瀬楊子の答え

「？老ゆ　？朽つ　？報ゆ　この前は恵以母さん、暎父さんとか野里姉えとか日都美姉えとかのレポートとか研究資料とか仕事の書類とか捨てちゃってたしね．．．．．あの時はすごかったよね、特に暎父さんの憔悴っぷりが。」

教師のコメント

もういいです、それ以上聞くとわたしの胃炎まで悪化しかねませんから．．．．．というか最近、愚痴の言い合いになってきてますね。

バカテスト 第二十問 古典（後書き）

野「全時空ラジオ文月放送局ミッドナイトスペシャル！」

音「高瀬姉妹の、」

野・音・恵・咲「オールナイト全時空！！」

野「さて、本日もやってまいりました高瀬姉妹のオールナイト全時空、本日のアシスタントは」

恵「私、高瀬恵にと」

咲「私、高瀬咲でお送りさせていただきます。」

恵「で、今日のコーナーは文月学園女子による恋バナッ！です」

野「って母さん！？今日のコーナーはそんなんじゃない」

恵「大丈夫大丈夫、ちゃんと作者さんの許可は取ってあるから。」

音「……とりあえず、お便りも着ちやってるみたいだよ？」

咲「それでは、最初のお便りだ。ラジオネーム恋するウサギさん」

野「どこかの歌詞に出てこなかった！？」

恵「何々？私には好きな人がいます。私は勇気を出しているいろとアタックしているのですが、その人はぜんぜん気付いてくれません。私も、なかなか素直になれなくて告白ができません。最近はその人に関節技をかけたりして、仲が良さそうな子もいます。早く告白したいのですが、素直になるにはどうしたらいいでしょう？」

音「なんか初っ端から心当たりのありすぎる話が来たッ！？」

野「……とりあえず、このお頼りしてくれた人は後日高瀬家本邸へご招待します。そこで、素直になるためのレッスンと、淑女としての正しい料理の仕方を教えて差し上げます。おいしい料理で彼のハートを射止めましょう。」

咲「うむ、解決だな。それでは次のお便り。RNパーソナリティの幼馴染さん。」

音「なんかもう、誰のかわかった気がする。」

恵「私は、小学生の頃から好きな人がいる。夢は、その人のお嫁さんになること。だけど、彼は婚姻届に判を押してくれない。早く結婚したい。どうしたらいい？」

野「……あゝ、うんRN恋するウサギさんと一緒に今度本邸に招待するから、一緒にいい方法を見つけよう？どっちにしても、その彼はまだ18歳になっていないから結婚できないと思うし。」

音「まあ、あいつもそろそろ腹をくくったほうがいいわよね。」

暎「……知り合いからの便りばかりだな。次のお便りはRN失恋球根さん」

恵「ん？これ、男の子からだね。……まあ、恋ばなだから良いか。」

暎「なにになに？俺には、少し前に告白して付き合い始めた恋人がいました。けど、ある奴等の策略のせいでフラれてしまったのです。何とか奴等にぎゃふんといわせて、なおかつ彼女とよりを戻せる方法は無いでしょうか？」

音「もう、どう考えてもあの腹黒根っこじゃないの。助ける義理は無いわね。」

恵「っていうか、この人の彼女だったって子、よく付き合いえたわね。」

野「まあ、腹黒ってところは同じみたいだからねえ。まあ、そんなこと言ったら雄二も同類なんだけど。」

暎「む、時間が来たようだぞ？」

音「あれ？もうそんな時間？」

恵「んゝ、まだお便りはあるけど、また次回かな？」

野「そうしましょうか。じゃあ、暎さんお願いね」

暎「うむ、それでは、ご意見、ご感想、オールナイト全時空のコーナー案、皆様が考えたお便りなどがありましたら、感想ページにお書きください。」

恵「それじゃあ、高瀬姉妹のオールナイト全時空」
野・音・恵・暎「また次回!!!!」

第二十問 僕等と姉妹と危険な救出部隊？

野里 side

「それで、私のところに来た、と。」

「そ、恵以母さん、何とかできない？」

「ん、大丈夫。すぐにでも狩人部隊を動かせるわ。」

瑞希たちが誘拐されて位置を確認するための発信機も気付かれてどうしようもなくなった私たちは、恵以母さんのところへ来ていた正直、瑞希たちのいる場所だけなら私の情報網で見つけることもできるけど、誘拐犯ならそれなりに腕は立つはず。それに、私学連合？をけん制するためにはできるだけ被害者（瑞希たち）のことを悟られないように、かつ大規模な警察沙汰にしなければいけない。となると、私よりも恵以母さんのほうが得意なのよね。

「あの、気になったんだけど、ほんとにお母さん？」

「ええ、本当に母よ。」

ついでに恵以母さんについてちらりと説明しておこう。まず何よりも、姉さんたちのトンでもな性格の元凶。これは結構分かってると思う。さつき出てきた狩人部隊は母さんの私兵みたいなものだし、もう一つの特徴がものすごく若く見えること。ちなみにこれは姉さんたちも例外じゃない。たぶん私たちも。というかうちの家族はみんな見た目が大体高校生くらいから変わらなくなるのだ。

「で、こんなのにのんびりしておってよいのか？」

「大丈夫よ。今頃瑞希たちを誘拐した輩は狩人部隊に捕まってるでしょうから。」

「ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ」

「……か、母さん？」

「……あの、どうかしたの？野里のお母さん、すごく怖いんだけど」

「……ねえ、野里、聞いて？」

「な、何でしょうか……（ぶちっ）」

ちよつと、聞き捨てならない事をきいた気がする。

「母さん、それ本当？」

「本当よ。未遂だったらしいけど。」

「よし ブ・チ・コ・ロ・シ・かくていね。」

「……ひいっ！」「」「」

明久とか雄二とか秀吉とかムツツリー二とかがおびえてるけど気にしない。そんな感じで、私たち姉妹と母は瑞希たちが助けられ誘拐犯が捕まえられている場所に着くまでの車内で始終真っ黒なオーラを放出していたらしい。ちよつと、どんなオーラを出していたのかまでは覚えていないのだけだ。

「くそっ、俺たちや何もやってねえっツの！」

瑞希たちがいたカラオケボックスにつくなり往生際の悪い声が聞こえてきた。よし、早速

「ねえ、あんたたちかしら？誘拐で捕まったのって。」

ちなみに母さんの狩人部隊は警察官の制服に似た制服を着ている。というか、うちの会社、もう国家権力にも勝てちゃうんじゃないだろうか？

「ああ、だが冤罪だよ！冤罪！」

意味、わかってるのかしらね？

「そう、じゃあ、本当のことを言いたくなるまで殴っ血Kいー！」「」

「……ひいっ！あ、赤い悪魔だ！」「」

「ふふふ、だあれがどごそのエロゲの魔術師なのかしらねえ？さあ、まずはどれから行きましようか？よし、発明品第411749号VR拷問機から。うふふふふふふふ」

説明しよう！VR拷問機とはVRハヴァーチャル・リアリティー
＝脳波接続によって神経系におけるまでを完全再現した世界。この
世界で感じたことを実際に感じるものの本体には何の影響も無いと
いうもの。〴〵によりVR世界で拷問をするための器具である。

「ちよつとまつて、野里、それよりも発明品第411750号身
体構成変更機を使いましょう。」

「ああ、そのほうがいいかしら。」

さて、身体構成変更機とは身体構成を任意で変えることができる
機械だ。やろうと思えばTSもできる。 あ、

「いつそのこと

」

「ああ、そうね

」

明久side

向うの方で誘拐犯を相手に何かやっている高瀬家の人たち。 . . .
. え？加わらないのだった？

「だって、野里たち滅茶苦茶怖いし 」

「正直、あんな高瀬姉妹は始めてみたな。それでも翔子つながり
で昔から知ってるんだが。」

「 私も、始めて見た」

「うおっ、翔子、いつの間にか！といつかなんでここに！」

あれ？いつの間にか霧島さんも来てたんだ。

「 瑞希、心配だった。」

「あ、翔子ちゃん」

「 大丈夫？瑞希。」

「は、はい。一応」

どうも奴等は姫路さんたちへの暴行未遂という罪状も追加された
そうだ。野里が言うには、“うちの会社を敵に回してやって行ける
弁護士なんていないからまず間違はなく大して腕の立たない平凡な
弁護士がつくでしょうね”だそうだ。よく分からないけど、彼らが
有罪確定なのは確からしい。って なにあれ？

野里 side

「あの、野里？それ、何？」

「何って、誘拐犯よ？」

「………なんで、“秀吉”になってるの？」

そう、今私たちの後ろにいる誘拐犯たちは身体構成変更機によって所謂“男の娘”という属性になっているのだ。あ、分かったとは思うけどこの場合の秀吉は性別のほうね。

「ん？だって、このほうが恥ずかしいでしょう？」

「ぬうう、なまじ理解できる分、齒がゆいのう」

「まして、裁判の場でガチムチ男が女顔で現れたら誰だって笑っちゃうわ。何よりもいい恥さらしになるでしょう？」

「お、鬼だ………鬼がここにいるっ！」

鬼で結構。私の友達に手を出そうとするやつなんて地獄に落ちればいいのよ。

まあ、いろいろあつたけれども誘拐騒ぎは解決して、喫茶店の一日目も終わった教室。そこには私と音李、明久と雄二の四人がいた。

「明久、そろそろ来る時間だぞ。」

「？来るって、誰が？」

「ババアだ。」

………まだ、ババアって呼んでたんだ。いい加減、ちゃんと学園長って呼びなさいよ。

「学園長が態々ここに来るの？」

「ああ。さつき廊下ですれ違ったときに『話を聞かせる』ってな。」

「………あ」

「………高瀬、まさか、何か知ってるのか？」

「……まず間違いなく、竹原教頭の話ね。」

「ああ、譲ちゃんなら知っててもおかしくないだろうさね。」

「まあ、知ってはいますけど……」

「え？え？どういうこと？」

「……明久、かわいそうな子。」

「明久、まだ何の話も始まってないぞ。」

「え、そうなの？」

「……まあ、そのじりはほっとくとして、何の話をしたら良いのかね？」

「ああ、今回の話にはいろいろとおかしなところがあるからな。」

「まず、そもそもだ、学園祭の喫茶店ごときで如何して営業妨害が出る？何よりも、俺たちの邪魔をしている連中は姫路たちを誘拐した。営業妨害ならまだ馬鹿やつてるだけで済む。だが、誘拐となると話は別だ。何としても、Fクラスの喫茶店を妨害したかったことになる。」

「……ああ、そうか、流石に、情報網が無い雄二でもこれだけのヒントがあれば分かる、か。」

「そうかい、奴等、そこまで手段を選ばなかったかい。すまないね。」

学園長が素直に頭を下げる。

「ただどね、今回の話については、譲ちゃんのほうがよく知っているはずさ。特に、全体的に見るならね。」

「……そう、ね。まず、事の発端は瑞希の転校騒動にあるのよ。」

「え？それって、姫路さんが原因って事？」

明久がなんととぼけたことを言う。そんなわけが無いでしょうに。

「違うわ、瑞希はどちらかといえば被害者。」

「……例の名門校の勧誘、か。」

「そう。そもそも、名門校は早々勧誘なんてしないわ。佐崎原女

学院なんかは別だけれどね。かといって、佐崎原の勧誘は悪質なことで有名なの。」

「……………明久、ついてこれてる？」

「……………なんとなく、分かった。」

「じゃあ、続けるわね。あそこは少しでも受ける気がありそうだったら、強引に転入手続きを済ませるくらいはやってのける。そうすると、佐崎原じゃない。で、いろいろ考えてみると、私たちが去年までいた、月兔学院があがってきたのよね。」

「月兔学院の学長は元々北村さんって人だったの。ただ、ちょっと前に佐崎原の元副学長の西川ってやつが無理やり学長になったの。その結果、瑞希が月兔の勧誘を受けることになったの。」

明久が分からないって顔してるわね。仕方ない、噛み砕いて説明してあげよう。

「佐崎原の悪質な勧誘は基本的に学長と副学長によって行われていたの。で、その副学長が月兔の学長の座に座ったことで、月兔が瑞希を勧誘したのよ。」

「ああ！そういうことか！」

「そう。で、そのことを知った私たちは、いろいろ手を回して西川を失脚させて北村さんをもう一度学長にしたの。でも、その後西川は何を思ったのか、私学を纏め始めたのよ。」

「……………雄二と学園長がああ、そういうことかあ。って感じのしみじみした顔になっている。なんか、シニールね。」

「で、西川が纏めた私学は文月学園に生徒を取られたところばかり。で、うちの教頭の竹原も取り込んで、文月学園を潰すべく動いていたの。私たちはその行動にも気をつけてたんだけどね。誘拐の予兆を察知したときには」

「もう、姫路たちは誘拐された後だったってわけか。」

「そう。いま、西川を含めて私学連合にかかわってる奴等のところには父さんの会社が探りを入れてるから、捕まるのも時間の問題だと思う。一応、文月は保護指定学校だからね。それを故意に潰そ

うとしたことがあれば奴らもどうしようもなくなるわ。」

「ふぐん、じゃあ、もう安心できるんだ。」

それが、そうでもないのよね。

「竹原かい。」

「そう。竹原教頭よ。たぶん、あいつは証拠を教頭室に隠してる。で、さっきも言ったように保護指定学校になっている文月学園の教頭室は警察は捜査できない。」

「つまり、アタシが何とかしなきゃいけないってことかい。」

「ええ、常夏コンビについても学園内で何とかしなきゃいけないわ。たぶん、私学連合がだめになってもやつらは妨害を続けるだろうから。」

ああ………そう考えると、まだいろいろと苦労しそうですね、私たち。

第二十問 僕等と姉妹と危険な救出部隊？（後書き）

野「全時空ラジオ文月放送局ミッドナイトスペシャル！」

音「高瀬姉妹の、」

野・音・恵・暎「オールナイト全時空！」

野「さて、今回もやってきました高瀬姉妹のオールナイト全時空。

恵「アシスタントは引き続き私、高瀬恵以と」

暎「高瀬暎でお送りする。」

音「今回のコーナーも恋バナッです。」

暎「それでは最初のお便りだ。RN・帰国子女の妹さん」

恵「えと、私が相談するのは、私のことじゃなくておねえちゃんのことなんですっ」

野「へー、お姉ちゃんの代わりに恋愛相談か。いい子ね」

音「なんか、似たような子が身近にいる気もしもするけどね。」

恵「それで、お姉ちゃんはある人のことが好きなのに、いつも素直になれないで関節技をかけたりプロレス技をかけたりしちゃうんです。どうしたらいいんでしょうか？」

野「……ねえ、如何してこう、知り合いの恋愛相談ばかり来るのかしら？」

音「さ、さあ……」

恵「……なんか、私でも困るような相談ばかりなのはどうしてなのかな？とりあえず、今までの相談者も含めてみんなは私直々の恋愛講座を受けてもらおうかしら？」

暎「……止めたほうがいいと思うのは私だけか？」

野「……大丈夫、私もそう思うわ。暎父さん」

音「とりあえず、RN・帰国子女の妹さんのお姉さんは思い人に攻撃するのは絶対に止めましょう。……といっても、直るとは思わないけどね。」

恵「ま、気を取り直して次のお便り。RN・男の娘の姉さん。恋バナ、というよりは個人的な相談なんだけど……私はその、世間的に言うところの腐女子、になるのかしらね？何だけど、弟がちょうどBLに出てきても良さそうな“男の娘”なのよね。で、まあ、いろいろと酷いことをしちゃうんだけど、結局のところ心配なのよ。で、その弟が本気でBL趣味だって噂があつて……どうしたらいいのかしら？」

野「……とりあえず、誰かは分かったわ。その話は根も葉もない噂だから気にしないようにしたほうがいいと思うわ。」

咲「それでは、本日の高瀬姉妹のオールナイト全時空はここまでとなる。ご意見、ご感想、オールナイト全時空のコーナー案、皆様がお考えたお便りなどがありましたら、感想ページにお書きください。」

恵「それじゃあ、高瀬姉妹のオールナイト全時空」

野・音・恵・咲「また次回!!!」

バカテスト 第二十一問 保健体育

次の文の空欄を埋めなさい。

「今日では、毎日の生活での（ ）？ （ ）や（ ）？ （ ）などからも見た（ ）？ （ ）や（ ）？ （ ）から健康を考えるようになってきています。」

姫路瑞希の答え

「？苦楽の有無 ？自立の程度 ？生活の質 ？生きがい」

教師のコメント

正解です。少し昔に習った部分ですが、よく覚えていましたね。

吉井明久の答え

「？クラークの有無 ？地震の程度 ？生活の質（水に濡れた様な跡有り） ？生きがい」

教師のコメント

苦楽は伸ばしません。あく自信と書くこととしたのではないでしょうか？・・・・・・・・生活の質については、今更ですね。

木下秀吉の答え

「？ハムレット ？シェイクスピア ？オセロ ？オペラ座の怪人」

教師のコメント

分からないからって演劇の作者や題目を書かないでください！

土屋康太の答え

「? 苦楽の有無 ? 自立の程度 ? 生活の質 ? 生きがい (鼻血の跡)」

教師のコメント

如何して貴方は保健体育に関することだけはすらすら解けるのでしょうか? 最後の鼻血の跡は危ないでしょう! ? 絶対に致死量の血液が流れていますよ! ?

島田美波の答え

「? Anwesenheit von Lust und Schmerz ? Der Grad Unabh?ngigkeit ? Lebensqualität ? Sinn des Lebens」

教師のコメント

日本語でかけないからってドイツ語で書かないでください! 先生はドイツ語を読めないんですよ! ? (ネットの翻訳でやったので間違っても指摘しないでもらえるとうれしいです。By 作者)

坂本雄二の答え

「? 苦節の有無 ? 自損の程度 ? ストレス発散の質 ? 生きがい」

教師のコメント

あの、苦節って何ですか、苦節って。苦楽ですよ? きちんと楽しい部分も入れてください。苦節では苦しいだけです。 自損の程度? よく怪我でもするのでしょうか? ストレス発散は止めましょう。きっと誰かが犠牲になります。

高瀬野里&音季の答え

「? 苦楽の有無 ? 自立の程度 ? 生活の質 ? 生きがい」

教師のコメント

正解です。しかし、珍しく急いで書いてますね?何か、大変なことでも起こったのでしょうか?

高瀬佳乃子の答え

「? クラークは、何処じゃ? 『青年よ、大志を抱け』 ? ここに居ったか? よし、一緒に行くぞ! ? 『青年よ、大志を抱け』」

教師のコメント

過去の偉人を話のネタにしないでください!というか、クラークが青年よ、大志を抱け以外のこと言ってますし。

高瀬楊子の答え

「? 苦楽の有無 ? 自立の程度 ? 生活の質 ? 生きがい ? なんか、先生の苦勞が分かった気がします。」

教師のコメント

楊子さんに何が!?

バカテスト 第二十一問 保健体育（後書き）

野「全時空ラジオ文月放送局ミッドナイトスペシャル！」

音「高瀬姉妹の、」

野・音・？「オールナイト全時空！」

野「さて、今回もやってきました高瀬姉妹のオールナイト全時空。」

音「本日のアシスタントは……………」

作「作者でございま〜す。」

野・音「どこのサザエよ！」

作「まあ、そんな事はおいておいて、だいぶご無沙汰してますね〜」

音「いや、だいぶご無沙汰してますね〜じゃなくてさあ」

野「もつと何か言う事はないわけ？」

作「ん〜？何かありましたっけ？ああ、あれですか？夏休みに遊び

まくった事ですか？」

野・音「違っっ！」

野「大体、殆ど小説呼んでばかりだったじゃない。」

音「私たちが言いたいのは三ヶ月近くもほったらかしだった事よ！

なんか言う事ないわけ！！！！！！（怒怒怒怒怒怒） 威圧感の

音

作「 あい。まことに申し訳ありません。その、いろいろ

とありまして……………そもそも、中々アイデアが浮かんで

こなかったのもありますけど。」

野「つと、いつまでもこんな話をしてるわけには行かないの。とり

あえず本日のコーナーは」

音・作「鉄拳先生の……………生徒指導通信！！！」

鉄「と、言うわけで俺がゲスト出演だ。」

作「じゃ、本日の指導案件！」

鉄「先日、本校の生徒と思しき者が多くの人が居る公園で“フオー
クを投げる”という暴挙に走り、周囲の方の首をかすり危うく半身

不随になりかけたという事件が起きた。」

明「フオークがかすっただけで半身不随っておかしくない!? え、あちよつと!? あれ? 僕どこにつれてかれるの!?!」

野「……. 某おバカは無視して、これって」

音「そうね. 間違いなく清水さんね. でも、原作的にはもつと先じゃ.」

作「ああ、この番組は時空を超えて放送されているので時間軸は全くもって当てになりませんよ?」

鉄「. お前らは何をこそこしている? とにかく、このことに関して本校に苦情が入った。今後は本校生徒のフオークの所持を禁止し」野・音・作「(その対策おかしくない!?)」

鉄「途中で邪魔をするな。で、フオークの所持を禁止し、今後同様の行動を取った生徒は観察処分に処する。本日の連絡は以上だ。」

野「. なんかおかしかつたけど、とりあえず気を取り直して、」

音「え」と、いままでも結構気まぐれだったけど、今後は更に作者の気まぐれで更新をしていく事になるから、ひよつとすると途中で全然別の小説が始まる可能性すらあるけれど、まあ、見捨てずにこれからも(なま)暖かい目で見てやってください。」

作「. なんか、突っ込んでおいたほうがいいような発言があった気もするけど. とりあえず」

野・音・作「また次回、お会いしましょう!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6428/>

バカとテストと召喚獣～科学者は転生者で異能力者！？～

2011年10月7日01時29分発行